

ま

ま【真】【名詞】 真実 [会話] 昔かたぎで、現代の事言うても、それを マにしえんと (せずに) 昔の事言うたり (言ったり) したり しとると (していると) あやまあ (彼は) ひね漬けやよお (古い人間だ) 言うやんかい (言います)。

まあ【名詞】 1) 運。回り合わせ。弾み。間の二拍化 2) その場の様子 ばつ [会話] 1) マアな (が) わりわれ (悪いです)。なんやかや (なにか) あわんと 最後 (出会わない時) マアな (が) わりいて (悪くて) 今日 あわらったなあ (会わなかった) とか。 マアな (が) わり (悪い) 言うな (のは)、運な (が) わり とか 都合な (が) わり とか 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。今日は わりかったなあ 言うて。今日は マアな (が) わりいて 漁も無かった てやら (とか) 言うて。2) マアな (が) わり 言う時 ん (に) 恥かし ちよいと (少し) てれくさいよおな 時ん (に) も 使うなあ (使います)。 運な (が) わり かったとか めぐりあわせな (が) わり かったとか なんかこお あわらった 言う事やわなあ (です)。

まあ【名詞】 魔。悪霊。悪魔。出来心。

まあ【名詞】 1) 海底の岩礁でない所。砂底の部分。ま。間。瀬と瀬の間。2) 空間的な間隔。物と物との間。
(志(布施田)、鳥(石鏡)) [会話] 1) 海のマアも有る。しえと しえ (瀬、岩礁) の間の、マアや (だ) 言うて マアな (が) くんど (来るぞ) そや (それ) そこん (に) 言うて。瀬と瀬の間を そや (それは) せあい 言うしなあ (言います)。島ら (が) 無いとこ (所) を 砂地のとこ (所) を マアや (だ) 言うのなあ (のです)。なんも (全く) 島な (が) 無いとこを。マア ばつかでまあ (ばかりでもう) かづくとこな (海女漁をする所が) 無いわれ (無い) 言うて、島な (が) なんも (全く) 無い、砂地の とこを、マアや 言うて (と言って)。

まあ【副詞】【感動詞】 1) 命令表現の文末に有って、軽く感情を添える。しなさい。来いマア。(志、北) 2) 文末に有って、軽く感情を添える。3) 接頭、名詞、形容詞、形容動詞につく。本当。真実な事。うそいつわりのない。真実。本当のなどの意を表す。正確な。ぴったりでずれのない。[会話] 2) ちよいと 失敗したた (してしまった) 事が 有るやんかな (有る

と) マア (最早や、もう) なとするかいなあ (どうしようか) 言うやんかい (言います) 失敗した時も。マア なとしよおかいなあ (なんとしましよう) 失敗したたよお (してしまった) マア ひまのかあやれ (大変だ) 言うて、マアな (を) じっきん (すぐに) つけんのなあ (付けるのです)。そして 帰ってく (行く) 時な (が) 有るやんない (でしょう)、マア (最早や) 行くんかい (行くのですか) 言うて 言う時も 使う (使います)。此の時は もお行くんかな マア そげん (そんなに) はよ (早く) 行くんかな (行くのですか) 言うのを マア 行くんかな 言うて。失敗した時 マア なとしよおかいなあ (なんとしようか) マア しもたた (失敗してしまった) よお言うて。失敗したて (してしまつて) なつとして (どうして) ええやら 判らへん時、マア なとするやかなあ (どうしましよう・なんとするとよいのだろうか) 言うて 言うやんない (言うでしょう)、マア そや (それは)。マア そんで (それで) しまいやれ (終りだ) マア言うて、そんで さっぱりやなあ (終わりだ) てやら (とか) 言うて。初めに マア つける時と最後にマア つける時な (が) 有るなあ (有ります)。1) 此処 い (へ) 来いマア言うたり、そつちや (そちら) い (へ) 行けマア 言うたり 最後につける事も あんなあ (有ります)。その時は そおしなさい 言うて。マア あや (あれ) 言うて びっくりした時ん (に) マア あや 言う (言います)。マア あや どこや ら (何処) から なんやら (何か) 飛んで来たない (来ました) 言うて びっくりした時でもなあ。マア あや (あれ) 破れてたない (て行つた) 言うて、破れてても (ていっても) うちやれてても (壊れてしまつても) マア こや (此れは) うちやれてたなあ (て行つた) 言うたり。ぼしやんと 落とすと マア ひまなかあや (大変だ) うちやつたたよお (壊れてしまつた) 言うて マアを 力 入れて 言うてなあ。

まあ【感動詞】 最早や。もう。今 (志(布施田、鵜方、立神、甲賀、国府)、伊)

まあ【名詞】 時間

まあ【副詞】 既に(尾)

まああや【感嘆詞】 軽く驚いた時に発する語。あらまあ。
まあ参照 (志、鳥 (答志))

まああろかい。まああろかな。まああろかれ もう無い

(志 (立神)) [用例] マアアロカレ おんな皆くた
たれ (わたしが全部食べてしまいました)。

まあいくわい 帰ります。[会話] わたしゃ (私は)
マアイクワイ言うて、行くの (のです)。せんぎり
(十分) 喋って 日な暮れてくのん (て行くのに) マ
アイクワイ 言うて 私は もお帰ります 言うて、
いつまで 喋っててなあ (ていて) まあ 夕飯、食う
じき (頃) や (だ) のん (のに) マアイクワイ 言
うて。

まあいくんかい もう行くのですか。もう帰るのですか。
[会話] おおた まだ あそできや (遊んで行けば)
ええのん (よいのに)、マアイクンカイ もお行くの
ですか、帰るん (の) ですか言うのをな、マアイクン
カイ もおちょいと (少し) あそべや (遊べば) ええ
(よい) ねやんかい (のではありませんか) てや (と
言えば)、まあ、夕飯、食わんならんのだ。

まあいっぺん もう一度 今一度 (桑市、上、阿、伊)

まあうえ 【名詞】 真上。ちょうど上。すぐ上に当たるとこ
ろ。[会話] 真上の事を すてんじょ (真上) の事を
マアウエ。頭のマアウエを 走ってた (ていった) 言
うたり。

まあえ もうですか [用例] 遊んどて (で居て) まあ
いくわい (もう帰ります) 言うと、マアエ 言うの。

…**まあえ** しなさい 動詞につく [用例] すんなマア
エ。行けマアエ。

まあええ 沢山です。いりません。(上、阿、) [会話]
これ もてけ (持って行け) てや (言えば) マアエエ
ワイ (です) 言うて、そげん (そんなに) 言わんと
(言わずに) もてけてや (持って行きなさい)、気の
毒なのん (に) マアエエワイ言うて、そげん 言わん
と もてけてや、そんじゃ (それでは) 遠慮なしん
(に) もおてこかいのお (貰って行きましょうか) 言
うて、しまいにや (終わりにには)。もおよろしい 言
うのを マアエエワイ言うてな。何か物やろ (あげよ
う) 言うと、遠慮する事や (です)、要りません 言
う事や、ほしんけどなあ (欲しいのだが) 遠慮するこ
とや。親しいもん (者) なら そんなら (それなら)
もおてこかいな (貰って行きましょう) 言うて すぐ
ん (に) もろてくねけど (貰って行くのだが)、そお
や (それで) ないと ちょいと (少し) 遠慮して マ
ア エエワナ (です) 言うて。

まあええわ。まあええわい。まあええわな。まあええわ
れ 沢山です。要りません。まあええ参照

まあこや 【感動詞】 此れは此れは。驚いた時の表現。

(志) [会話] マアコヤ なしたんど (どうしたの
だ・なにをしたのだ) 言うてなあ、マアコヤ 破った
たやんかあ (てやったでないか) とか、うちやったた
やんかあ (壊してしまったでないか) 言う時んなあ
(に)。そして 立派なもん (物) 貰うとか、大きな
もん (物) もろたり (貰ったり) するとなあ、マアコ
ヤ なとしたんど (どうしたのだ) こやまあ どいら
い (大変) おっきい (大きい) やんか (でないか) と
か、こいな (こんな) ええもん (よい物) 呉れたり言
うて びっくりした (驚いた)。

まあし (まはし) 【名詞】 樺 まわしの訛 (志、北)

まあし 【名詞】 附近。ある物を取り囲んで居る周辺。ま
わり。(安) [会話] そこらマアシ 付近の事。そこ
ら辺 言う事をなあ。そこらマアシを 綺麗ん (に)
しとけよお (しておきなさい) 言うてなあ。そこらマ
アシん (に) やっとけ (しておけ) とか 言うてなあ。

まあじ 【名詞】 真鯨。アジ科の海魚。アジの代表種。
全長約35cmに達する。体は長い紡垂形で、やや側
扁する。背方は灰青色で腹方は銀白色を呈し、体側には
楯鱗と言う特有の隆起した鱗が、鰓蓋の直後から尾
柄部まで連続して並ぶ。単にアジとも言う。

まあす 【名詞】 枳。(度) [会話] 神さんへ マアスと
饌米と御神酒ともてて (持って行って) 参んねやろ
(参るのでしょうか)。

まあす 【名詞】 鱒 ますの長音化 ハタ科 アラ科 (ア
ラ参照) の海魚 種類は多い。全長30cm前後の物
が多い。体は紡垂形で、口が大きく、斑紋が複雑で美
しい物もある。

まあす (まわす、まはす) 【他サ五】 廻す。まわすの訛
(上、阿) [会話] 輪転器 マアス。

まあす 撲る。びんたマアス。(尾)

まあす 水を加えて温度を下げる。味の濃い物を薄める。
まわすの訛

まあすきり 【名詞】 米寿 ますきりの長音化

まあだ 最早や

まあって 廻って [会話] 各人マアッテ 言うよって
(から)、個別ん (に) まあると (廻ると) 各人マア
ッテ 言うて。

まあってけ 回って行け。[会話] こちら行かんと (行
かず)に あちら、マアッテケ 言うて、まわる 言わ
んと (言わずに) まある言うて。

まあないばっぱ 有りません。無い。幼児語 [会話]
こらら (子供) に 無いわれ (有りません) まあ 言
う時やなあ (は) マアナイパッパ。ばっぱやどお 言

うてなあ。

まあなさした 魔がさした。心の中に悪魔が入ったように、ふと悪念をおこした。思いもよらない出来心を起こした。[会話] どいらい (大変) 正直なかつた (だった) 人な (が)、盗みしたりする時な (が) 有るやんない (有るでしょう)。その時 あのひた (人は) どいらい いちがいな (正直な) 人やけど (だけれど) マアナサシタんやかなあ (のだろうか) 言うて。

まあなさす 心の中に悪魔が入ったように、ふと悪念を起す。思いもよらない出来心を起す。

まあなし (間無) 程なく。時間的に短い事。[用例] あんな行たたあと (貴女が帰った後) マアナシん (に) あの方な来たわい (あの人が来ました)。

まあなぬけとる 1) 馬鹿だ 2) する事の程度が劣って居る。

まあのもん 【名詞】魔物。[会話] かまきり 言うな (のは) マアノモンや (だ) 言うて、なんもしやせん のん (何もしないのに) 風の中で傷すると かまきり ん (に) 切られた 言うて。

まあはあよお ずっと以前に。(志) [会話] マアハアヨオいたれ (行ってしまった) 言うて、そない (そんな) こた (事は) はあよお したたれ (早くしてしまった) 言うたりな、どこやかい (何処かに) 行くの (のに) さそいやい (誘い合い) すんの (するのを) しとると (していると)、おっそいもんで (遅いので) 一人先い (へ) いとる (行っている) 場合はな マア ハアヨオオ いたれ 今迄おるかれ (居ません) 言うて せんぎり (十分) 待つとたけど (ていたが) 来やせんもん な (来ないから) マア ハアヨオオ 行たれ 言うてな。

まあ、はよ 以前に。(志 (鶴方)) [会話] マアハヨ言うのも、まあはあよお 言うのも、一緒や (です)。マアハヨ行きました。マア、ハヨせんかれ (しなさい) 言うて、急ぐときはなあ マア ハヨせんかれ そやれ (それ) おそなんど (遅くなるぞ) 言うて。

まあまんなか 【名詞】真中。中心 (津、多) [会話] 一番中心の事をなあ マアマンナカ 言うてなあ どまんなか 言うてなあ、どまんなかい (へ) 座り込んで言うて。こやあれ (これ) こいな (こんな) もん (物) どまんなかい (に) 置いて、邪魔ん (に) なる やんかあ (でないか)、道のどまんなかい (へ) 座り込んでとかなあ 真ん中の事をどまんなかや (だ) 言うね (言うのです)。

まあみ (真網) 【名詞】打網漁 (二艘で網を張って、鰯、

秋刀魚などを取る漁法) の網を積んで居る船。二艘組んで居る右側の舟。(北、尾、度、熊) [会話] 打網は マアミと、さかあみと有って、網積む船な (が) マアミ 言うのやし (ですし)、さかあみ言うな (のは) 網 積まんと (積まずに) 網 やるときや (入れる時は) マアミな (が) やって (入れて) 引く時や (は) 二杯 (二艘) で 引くの (のです)。

まあみこぎ 【名詞】網漁の網を積む船に乗って居る漁夫。

まあむかい 【名詞】真向い。真正面。(三、鈴市、伊)

まあよ もうですか 1) 帰ると言われた時の応答 2) 早く来た時の驚きを表す。

まあり 【名詞】付近。周辺。(志 (布施田)、鈴市、松、上、阿、伊、尾、南) [会話] そこらまあし 言うのも、そこらマアリ 言うのも 一緒やけどなあ (です)。

まありあわせ 【名詞】運。めぐりあわせ。

まありかど 【名詞】曲り角

まありくでえ 【形容詞】廻りくどい。面倒な。[会話] マアリクデん (な) 事 言うて、遠まあし みたよな (のような) 事なあ。今日は休もや (休みましょう) 言うて、はっきりいや (言えば) ええ (よい) のになあ、今日はやめとくか なとしよお (どうしよう) 言うとると なあ (ていいると) マアリクデに あげん (あんなに) 言うたらんと (言っていない) すぐに 言うたや (言ってやれば) ええのん (よいのに) 言うてなあ、遠廻りみたよん (のように) 言うとると なあ (言って居ると)、マアリクデんで (ので) おぞげやなあ (嫌だ) 言うてなあ。廻りくどい 言うのか めんど (面倒) くさい 言うのか、どもこも しとると なあ (していると)、マアリクデんで (ので) どもこも (愚図愚図) しとて まあ (してて) 言うて すつと 言うたや ええ 言葉でもなあ ねんばり (ゆっくり) と 言うとると にげ (人) な (が) 有って せせかし (面倒に) なって来るよおな (だ)。

まありぶたい (まはりぶたい) 【名詞】廻り舞台。劇場の舞台の中央を大きく円形に切り抜き、その部分を廻るようにしてある舞台。[会話] 舞台の上は 教室ん (に) して、マアリブタイの まあるのな (廻るのが) してあつて、男の子らな (が) あい (休憩時間) ん (に) になると それを 遊びもん (遊び物、おもちゃ) にして。

まありみち (まはりみち) 【名詞】遠回りの道。まわりみちの訛。

まある (まわる、まはる) 【自ラ五】 1) 廻る 2) 立

ち廻る。立ち寄る（鳥、度、北、南）[会話] 2) あや
（彼は）こすいね（ずるい）よって（のだから）しや
すいとこ（所）ばっか（ばかり）マアル。

まある【名詞】 丸、円

まある 生計がなりゆく。生計が出来る。まわるの訛

まあるい【形容詞】 丸い。円形。まあるいの長延 [会話]
ちっちゃい（小さい）マアルイのおを（のを）こんこ
ろ。

まあるう【形容詞】 丸く。[会話] ちょんがれ 言うな
（のは）ふたあつ（二匹）マアルウなって 尻と頭と
しとんの（しているのを）。

まあれ 廻れ、廻りなさい。（志（布施田））[会話] ま
われ言うの マアレ言うて。マアレ右言うね（言うの
です）まわれ言わんと（言わずに）マアレ言うてなあ。
どこやかや（何処かに）用事行く時でもなあ こちら
行かんと（行かずに）あちら まあってけ（廻って行
け）言うて、まわれ言うの（のを）マアレ言うの（の
です）。

まい【名詞】 繭。まゆの訛、完全変態する昆虫の幼虫が
蛹になる時に口から繊維を出して作るもの。中にこも
って休眠し蛹の期間を過す。（志（磯部、鶴方、神明、
立神、国府、安乗）、鳥、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、
安、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南）

まい（まひ）【舞】【名詞】 音や音曲に合わせて身体手足
を動かす事。周囲に囃されて動き回る、或は回る動作
を主とする。

まい（まひ）【助動詞】 1) 動詞の語尾について否定を
表す。しええマイ。（志、桑市、鈴市、津、一、伊、
度、伊、北、尾、南）2) 推量の否定。まじの口語
[会話] 1) 言葉のうしろについて せえマイ（しな
い）やたら（とか）、行かマイ（行かない）やたら。
あれ せえマイやねえ（しないでおきましょう）言う
て。したない（したくない）事な（が）有ると あや
まあ（あれは）しええマイやねえ、あれすんの（する
のは）嫌いやなあ（だ）とか、あいなこた（あんな事
は）せえマイや。まあ あしこへ（あすこへ）行かマ
イヤ（行かないでおきましょう）あしか（あすこは）
嫌いやなあ（だ）とか こいなとこ（こんな所）こお
マイやねえ（来ないでおきましょう）言うて。

まい【名詞】 前。人数を数える語（上、阿、張、名）
[会話] 霊供膳 十人マイ すんね（するのです）。

まい【名詞】 眉。まゆの変化した語。（志（神明、立神、
安乗）、鳥（加茂）、員、三、鈴市、安、多、伊）

まい（枚）【接尾語】 1) 偏平な魚。大きな魚を数える

単位。2) 薄い物を数える単位。[会話] マイ 眉毛
言うのも マイ まいげ 言うて。蚕の繭も マイ。
マイ 言うね（言うのです）。まゆ 言わんと（言わ
ずに）蚕な（が）すう（巢）かけて マイした 言う
て。一人マイ 二人マイ 十人マイ まだ 一人マイ
に ならせんねもんなあ（ならないのだから）言うて、
ちょんが（独身）のじぶん（頃）はなあ、まだ 半人
マイやわい（です）言うて。うっすい（薄い）もん
（物）かんじょ（数える）する時でも 一マイ二マイ
言うて。

まい【形容詞】 旨い（志（立神））

まいあがった 驚いた。飛び上がった。まいきると同義。
[会話] まいきったよお 冷とおて（たくて）とか、
あたとおて（熱くて）とか、痛とおて とか そんな
時ん（に）マイアガッタたら（とか）まいきったとか。
まいあがる（まひあがる）【舞上】【自ラ五】 感情のたか
ぶりを表す語。1) 驚く。飛び上がる。2) 調子に乗
って喧く 3) 嬉しい。4) 夢中になって居る。

まいか【助動詞】 推量の助動詞まいに係助詞かのついた
もの。打消し、推量を疑問の形で表す。ないだろうか。
相手の意志を尋ねる形で勧誘、依頼の意を表す（志、
桑郡、桑市、三、四、鈴郡、鈴市、亀、安、津、久、
一、多、上、阿、張、名、度、北）[会話] あしこへ
（あすこへ）いこか（行こうか）いかマイカ（行か
ずにおこうか）、今日は あれ いかまいや（行か
ずにおきましょう）言うて。いかマイカ言う時は いこか
（行くか）いかんか（行かないか）どっちかにしよ
おか、いかん（行かない）方がかつとる（優位に有る）
まよとると（迷って居ると）いこか いかマイカ言う
て 迷とんねけど（迷って居るのだが）決まるといか
まいや（行かないでおこう）言うて。

まいか（真鳥賊）【名詞】 鳥賊。あおりいか ジンドウ
イカ科のイカ。胴は長さが約 50 cm にもなり、中央部
が広がった円錐形。生時の体色は黒褐色で、雄には多
数の横縞がある。（度）

まいかけ（前垂）【名詞】 まえかけ。前掛け。体の前面、
特に腰から下を覆うようにかける布、前垂れに同じ。
（志（布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、
安乗）、鳥、桑郡、鈴郡、鈴市、一、久、松、多、度、
伊、尾、南）[会話] マイカケ言うね（のです）まい
だれ言う人も有るなあ（有ります）年寄りの人ら
（は）まんだれや（だ）言うて、前掛けの事な（で
す）まんだれ言うたり、マイカケ言うたり、まいだれ
言うてなあ。

まいかぜ (舞風) 【名詞】 渦ををまいて吹く風。つむじ風。旋風。(志 (浜島)、鳥 (長岡)、桑郡、桑市、員、四、鈴郡、鈴市、安、津、一、松、多、上、阿、張、伊、南、熊) [会話] マイマイカゼ 言うてなあ 道でも ぐじゅぐじゅ (渦) 巻いて来て ほこりを巻き上げて来る時な (が) 有るやんかい (有ります)。マイマイカゼや (です) そや (それ) 真ん中い (に) 行くなよお (行くな) 中い (へ) 行くと、空い (へ) 舞い上げられてくねどお (て行くのだぞ) 言うて 木の葉な (が) 皆 もおて (舞って) 上へ上ってくの (て行くのです)。にげ (人間) もなあ 真ん中い (へ) 行くと えらい (大変な) のん (の) になると まきやげてくんやろなあ (巻き上げて行くのでしょう)、今し (今) の竜巻やわい (です)。

まいき (眞行) 潮流、眞東から眞西へ、又逆に流れる潮流。

まいきった (まひきった) ひどくこたえた。飛び上った。[会話] 拳骨で まいこまされた (強く撲られた) 言うて、そして おら (俺は) ま マイキッタ 言うて。

まいきってた 1) 勢いよく走って行った。2) 飛び上った。ひどくこたえた 3) 急に死んだ。(志) [会話] ³⁾ マイキッテタ、腹な (が) いとおて (痛くて) マイキッテタね (のだ) もみきってたね (のだ) 言うて。疔、癩で マイキッテタね (のだ) まあ 言うて よお (よく) 言よおったなあ (言っていました) 疔、癩言うてな あんで (あれで) 盲腸やつたんやろなあ (だったのでしょう)。¹⁾ 走りきってくのも なあ (て行くのも) マイキッテタ言うの (のです) 走って走って走りきってく (て行く) やんない (でしょう) あや マイキッテタレ (て行った) とか、まいこんでたれ とか 言うてなあ まいこんでた (で行った) 言う時も有るし マイキッテタ言うのも 一緒やけどなあ (だけど) 今日俺家い (に) 来とたや (来ていたら) まあ 家い (に) 行くね (行くのだ) 言うて マイキッテタ言うてなあ 走りきってくと (て行く) と。

まいきる (まひきる) 1) 大変困る。2) 大変な勢いで走り込む。3) 飛び上る。驚く。[会話] まいきってたれまあ (て行った) 言う (言います)。³⁾ あたとおて (熱くて) マイキル 言うのと ²⁾ 何処やかや子供らな (が) 逃げてく (て行く) 時な (が) 有るやんな (でしょう) 走りきってく (て行く) 時な (が)。マイキッテタの 何処やら (かへ) 言うて いきさき

(行く所) 言わんと (ずに) 行くと どこやら マイキル 逐転してた (していった) やら (とか) 言うて。家ん (に) おると (居ると) 仕事 かねがれる (頼まれる) おもて (思つて) がつこ (学校) から 来たや (来たら) 道具うちつけといて (投げ出しておいて) 何処やら マイキッテタ。なんやら (なにか) しゃしょ (させよう) おもとのん (思つて居るのに) ひまのかわやなあ (大変だ) 言うて。³⁾ 痛おて (痛くて) マイキル とか 冷たい時でも なんか (何か) 変つたもん (物) 気持ちのわり (悪い) もん 掴んだたり (でやったり) するやんない (するでしょう)。こや (此れは) かったいなあ (固い) おもとのん (思つて居るのに) ぐしゃつとしたり (してやったり) すると、びっくりして マイキッタンヨオ、おどけたんよお (驚きました) 言うて。びっくりする 言う事も マイキッテのお (てしまった) 言うんやろ (言うの) でしょう)。マイキッタよお (舞い切りました) まあ 冷とおて (たくて) とか、あたとおて (熱くて) とか、痛おてとか、そいな時ん (そんな時に) マイキル。まいあがった たら (とか) マイキル たら なあ。

まいくらまいくら 【副詞】 うろうろとして居る様。

まいげ 【名詞】 眉毛。まゆげの訛 (広辞苑) まゆ、マウへ (真上) の約転 (大言海) 目の上、額の下に横に並んで生えている毛。(志 (片田、志島、浜島、御座、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (神島、答志、相差、坂手)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴郡、鈴市、安、津、一、松、多、上、阿、張、度、伊、北、尾、南) [会話] マイゲ おろして、齒を染めて 言うて。まいのき。眉毛をマイゲ 言うね (言います)。まいのきやなあ (です) まいのきつく (作つて) くれえ (下さい)。

まいこ (舞子) 【名詞】 1) 神宮で神楽を奉奏する女の子。2) 芸者のまだ一人前でない者。半玉。(志) [会話] ²⁾ 踊り子の事を 芸者、マイコ 言うてなあ。京都へ行くなあ ぞろぞろと歩いとる (ている) やんかい (です) マイコさんなあ。¹⁾ 神社で お神楽あげるのは マイコや (だ) 言うて おくらごや (だ) 言うね (言うのです)。

まいこまされる 1) される。ひどく叩かれる。叱られる。2) 大波にまきこまれて流される。(南、熊) [会話] ¹⁾ 拳骨で まいこましたれ (てやれ) 言うてなあ。そいな (そんな) わり (悪い) 事するもん (者) 拳骨で まいこましとけ (ておけ) 言うて。力入れて ものすごお (物凄く) 腹の立つ時やんかい (です)。

マイコマサレル 言うと わがと(自分) 撲られた、おら(俺は) まあ 拳骨で マイコマサレタ言うて、そして(そうして) おら(俺は) まあ まいきった(飛び上がった) 言うてなあ。

まいこましたた 撲ってやった。

まいこましたる 1) 走り去る 2) 撲ってやる

まいこましたれ 撲ってやれ。

まいこます 1) 大変な勢いで走る。(志) 2) 強く撲る。(志(布施田)、北) 3) 早くする。(志(布施田)、度) [会話] 1) 下駄 ところ(懐) え 入れて マイコマス。

まいこむ(まひこむ)(舞込)【自マ五】 1) どこからともなく入って来る。思いがけず入って来る。2) 勢いよく走る。勢いよく行動する。[会話] 1) マイコム 舞い込んだ。えべっさん(恵比須さん) な(が) 舞い込んだ 言うね(言うのです)。

まいこんできた 1) 非常な勢いでやって来た。 2) 迷いこんで来た。[会話] 1) マイコンデキタ。一生懸命で来た。急いでやって来た。

まいこんでく 1) 非常な勢いで走って行く。2) 誤って入って行く。[会話] 1) マイコンデク言うて、走りきってくのを(て行くのを)。マイコンデク言うて、走りきってくと(て行くと) なっとも(何も) 言わんと(言わずに) 向こお向いて まいこましてたない(て行った) 言うたり、マイコンデタリな。うなし(同じ) 意味なけんあ(なのですが) まいきってた言うたり マイコンデタリ まいあがってたり 言うの(のは) 言いな(が) 違うだけで 意味は一緒や(です)。

まいこんでた 1) 非常な勢いで走り去った。2) 誤って入って行った。迷いこんでいった。[会話] 1) マイコンデタ 何処やら(かへ) 言うて、マイコンデタ まいきってた やたら(とか)。マイコンデタ 言うのも まいこむも 一緒や(です) 走り込んでくと(て行くと) マイコンデタレ(でいった) 言うてなあ マイコンデタ 言う時は 出てくんなし(行くのです) まい込んで来た 言うと、わが(自分の) 家い(に) 来る事をなあ(です)。

まいこんでたない 非常な早さで走り去って行った。

まいし(真石)【名詞】 小石や砂利。表面の滑らかな石。[会話] 青い石を すべすべの石を マイシや(だ) 言うて。ごつごつしとる(して居る) 石は 御影石とかいしかけ(石垣) 石とか 言うてなあ、ごつごつして 角な(が) 立ったり(立って居たり) しとんのは

な(して居るのは) そげん(そんなに) 言うし、ずべすべしとんのおを(して居るのを) マイシや(です)。ずべすべしとる(して居る) 言うて言うのは 表面な すったたよおん(磨いたように) じっばん(立派に) しとる石 有るやんか(有ります)、角が 立たんと(立たずに) 角もなんも(少しも) 無い 手かかると こ(所) な(が) ないのな(のが) すべすべしとんの(して居るのを) そんなのお マイシや(だ) 言うて、マイシは まあ(もう) すべすべで なんも(全く) 抱えよおな(が) 無いよおな(のが) マイシや(だ) 言うて。おっきさやなんや(大きさ) 言わんと(言わずに) 表面がつるつと、あの ほれ(それ) すべつと ガラスみたいんな(ようにして居ます)。おっきいのも 言うし おっきい(大きい) マイシな 有るやんか(が有ります)。つけもん(漬け物) 石は マイシや(は) つかめのくいもんでなあ(掴かまぬぐいので) ちっさいのおは(小さいのは) 使うけど(が) おっきいのおは(大きいのは) ずべつとしとて(して居て) おもとおて(重くて) 持ちのくいわい(持ちぬぐいのです) ずべつてて(すべつて行って)。漬けもん石は 御影石の ざらざら石の 下の(底面) ばあ(場所) の ええ(よい) ごつごつしたの使うけど(が) マイシ使うと 漬けもん(物) 出した手ですと するつと すべつてて(滑って行った) 危のおて(なくて) あいなん(あんなのは) よけ(あまり) 使わせん(使いません)、ちっさいのは 使うけど(けれど)。

まいす(売僧)【名詞】 1) へつらい。おべっか。まいす。参す。まいらすの転。参らす。さし上げる。売僧。商売する僧。佛法を種に金品を不当に得る僧。墮落した僧。(志(鶴方、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、鈴市、多、阿、張、名、伊、南) 2) 人をだます者。うそ、いつわり。[会話] 1) マイスこく(おせじを言う) 言うて マイス言うのな(のを) マイスコキや(だ) 言うて。ごま(お世辞) する事を、マイスコキや(と) 言うの(のです)。あやまあ(彼はもう) マイスコキで 言うの(のを) ごますりで 言う人も 有るけど(けれど)。ごまする言うのは 現代の人らで、昔の人らは マイスコキ。あや(彼は) マイスコキで ちよいと(少し) なんか有る思うと その人 マイスこいてまあ言うて。煽てて その ぬくもりいただこ(おこぼれ頂こう) と思うし、なんか有ると 上手言うて。ぬくもりいただこ言うのは マイスこいて なんか 貰らを(貰おう)

思う 下心な (が) 有るもんで (ので) 煽てて。金な (が) 貸してほし (欲しい) 思うと、マイスこいとかな (ておかなければ) 金な (が) 貸して もらわれやせん (貰えない) おもて (思つて) 普段 (平素) に ちよいと (少し) したごさへ (準備) すんのを (するのを) そおし (して) おいて (しておいて) ちよいと めぐん でもらを ほとり (温み) を 分けて でもらを おもて (思つて) 下心な (が) 有ると そげな (そんな) よおに、じか (直接) 言う と 悪いもんで (ので) そお 言うふう。

まいすき 【名詞】お上手を言う人。おべっか使い。人の気に入られるように人をおだてたり、ほめたりする人。まいす参照 (志 (布施田、甲賀、浜島、志島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎)、多、伊、北)

まいすこく 人におべっかを言う。おもねる。(志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話] あや (彼は) まいすき (おべっか使い) で、ちよいと (少し) なんか (何か) 有る 思うと その人 マイスコイテ、煽てて その ぬくもり (余り) 頂こ (貰おう) おもて (思つて)。

まいすゆう おべっかを言う。おせじを言う。へつらう。(志 (神明、甲賀))

まいだれ 【名詞】前垂れ。前掛け。(志 (鶴方、神明、国府、安乗) 鳥、(浦村)、松、多、伊、尾、南) [会話] 前へ掛けるもんで (ので)、今し (今) の人ら前掛け言うんやろけど (言うのだろうが) それを マイダレ、言うて。“白いエプロン その下に 心中するよな池が有る あまり深くは無いけれど 時々坊やが 身投げする。”“わずか 二尺のまいかけの下に 心中するよな池が有る あまり深くは無いけれど時々息子が おぼれてく (溺れて行く)” 言うて「坊やが身投げする」言うて「気絶する」言うて、うとてくる (歌つて来る) 人も有る (有ります)。

まいちど 【副詞】今一度。いまいちどの略

まいった 1) 死んだ。2) 失敗した。3) 感心した。(南) [会話] 2) ちよつと (少し) 失敗した事な (が) 有ると、マイッタ 言うて。困った事な 有ると 言うしなあ (言います)、1) 死んでた (でいった) 時も マイッタ、マイッテテ まあ あの人 言うてなあ。死んでた (でいった) 言うのを、マイッタ 言う人も有るしなあ、しもてた (死んだ) 言うてなあ。爺さんや、婆さんでも 死んでくと (で行くと) しもてたね 言うて 悔みに行くとなあ。

まいってた 死んだ。(志 (布施田)、鳥、桑市) [会話] マイッテタ 言うのも、まいった 言うのも、一緒に事やけどなあ (です) しもてたなあ (死んでしまった) 言うて。死んでたんでなあ (行ったそうで) 言うのを、爺さんも しもてた (死んだ) そおやなあ (だ) 言うて、同じ言い方やけど (だが) 違わせんねけど (ないのだが)。

まいってた 参拝した。

まいとる 惚れている。(鈴市、津)

まいっぺん 今一度

まいて (舞手) 【名詞】踊りを踊る人。舞いをする人。[会話] 舞う 踊るにげ (人間) 舞子や (だ) 言うしなあ (言います) 踊り手 言う人も有るし マイテ 言う人も有るしなあ。

まいて 【副詞】増して。それ以上に。先行する状態より程度が甚だしい。ましての訛 (大言海)

まいてく 狂って行く。狂う。

まいど 【名詞】八丁櫓。櫓の位置。

まいとる 狂って居る。[会話] 変な事ばつか (ばかり) 言う、みよおな (変な) 事ばつか 言うとんね (言っているのだ)、あやまあ (彼は) ちよいと (少し) マイトンネ どよお (て居るのだ) 言うて。

まいない (まひなり) 【名詞】賄賂。袖の下。みつぎもの。(員、一)

まいなす 【名詞】まいない。袖の下。賄賂。つかます参照 まいらす (参、たてまつる) の訛か。ラ行、ナ行、タ行、の変化は常に有り。[会話] マイナス かまされた (嘘まされた、食べさされた) とか 袖の下突っ込んでとか。

まいのき 【名詞】眉毛 まいのけ参照 (志 (布施田、越賀))

まいのけ 【名詞】眉毛。まいげとも言う。眉又は眉に生えている毛。(志 (神明、甲賀)、鳥 (国崎)、北、南、熊) [会話] 眉毛の事 マイノケ 言うの (のです)。マイノキ、眉毛 言うのは 今の言葉で 昔の言葉 マエノキ や (です)。昔や (は) 結婚すると 眉毛おろして はあ (歯) 染めて 言うて。かね (鉄漿) 黒々と 細眉毛言うたり。鉄漿 黒々つけんな (付けるのは) 男でも くろお (黒く) つけて マイノケ ほっそお (細く) して しとんのおな (して居るのが) 有るやんかい (有ります)。昔や (は) 鉄漿つけんのおな (つけるのは) 結婚してから やったやんかい (でした)。結婚せな (しなければ) 鉄漿つけらったなあ (つけませんでした)。ほんや (本家) の ば

あやん(婆さん)鉄漿つけおったやんな(つけて居たでしょう)。葬式やとか(だとか)よばれ(招待の宴)やとか言うて行く時ん(に)なると鉄漿つけて。ひい(火)焚くところ(所に)此れ位の(小さな)壺な(が)有って熱つつい灰搔いて来てそれ据え^ていて(ておいて)ぬくとめ^ていて(温めておいて)ほいて(そうして)つけて。昔や(は)十七・八で嫁すると(嫁入りすると)すぐん(に)眉毛おろして齒染めて言うてそんな(それが)結婚したしるし(印)でそげんしおったけど(そんなにして居ましたが)。マイノキすんな(剃るのは)ややなかった(嫌だった)言いおったわ(言って居ました)。結婚して十七・八で自分で眉毛すんのな(剃るのが)どいらい(大変)つらかった。初めてマイノケ落とす時や(は)つらかった言うて、言いおったなあ(言って居ました)。“〇〇〇嫁じよで真っ黒くろだ”(黒くなった)言うて〇〇〇婆鉄漿を黒々とつけとりおったもんで(つけて居たので)沖からどお(櫓)漕んで(漕いで)来んのん(来るのに)山な(が)くろなって(暗くになって)来ると“おおい〇〇〇嫁じよで真っ黒くろだれ”言うてなどお(櫓)漕んで来おったの(来て居たのです)。そしてあの人話な(が)あんね(有るのです)。“青菜の双つ葉からなじんだ縁やもんのお(だから)やすそお”言うてやすそお言うな(のは)とおさん(夫)で〇〇言うね(のです)。“青菜の双つ葉からなじんだ縁やもんのお(だから)やすそお”言うてそして早い時ん(早くから)男したりするとあやまあ(彼女は)〇〇〇やっそおやなあ(だ)青菜の双つ葉やなあ(だ)言うてよお言いおった(よく言っていました)。若い時ふたんな(二人が)交際するとそいなおを(そんなのを)青菜の双つ葉からなじんだ縁やもん^なあ言うて。

まいのきいつばき。まいのきいつばきや 少しの間。簡単な事。[会話] ちょいちょいとじっきん(すぐに)したる(してやる)言う事をなマイノキツバキや(だ)言うの(のです)。

まいひめ(まひひめ)(舞姫)【名詞】神社に神楽を奉納する女性。[会話] マイヒメは神社のおくらご(巫女)。

まいまい(まひまひ)(舞々)【名詞】【副詞】1) つむじ(頭の旋毛)。(志、鳥(相差)、一、飯、南、熊) 2) 渦(志) 3) 野草 ぜんまい。4) 海藻、まいまいのり参照 5) 忙しくすること。(志(布施田))

6) うろうろとすること。足手まといになること。

7) 蝸牛(志、一、久、多、度、伊)[会話] 1) 頭のつじな(が)マイマイ。3) しだ(羊歯)のマイマイ。ぜんまいをマイマイ採りん(に)行こや(行きましよう)言うて。海の渦巻きはマイマイ言わんと(言わずに)ぐじゅぐじゅや(です)ぐじゅぐじゅ巻いとる(て居る)言うてぐじゅぐじゅ巻くのなあ(です)渦巻きの事。4) 島の上もなあ(上にも)マイマイ言うてマイマイノリ採りんこや(採りに行きましよう)言うて、しゃかんや(左官屋)の塗る壁なあ(ですね)あの前んのおな(前の浜で採れるのが)一番ええね(よいのだ)言うてよお(よく)のり採りんきおった(に行きました)。見て搔きんくね(搔きに行くのです)。そすと(すると)波な(が)被せるとこん(所に)よけ(沢山)有って。うちかぶせるとこで(打って来る所に)それを取って干し^ていて(ておいて)六月に晒すと真っ白ん(に)なんねてや(なるのです)。そんな(それが)壁ぬんの(塗るのに)一番ええんてわい(よいそうです)。2) かたつむりはマイマイ言わんと(言わずに)でんでん虫言うてでんでん虫な(が)おんな(居ます)あやれ(あれ)言うて。“有る角も出さねば丸しかたつむり”言うてわしら(私達)がっこ(学校)行く時ん(に)月曜教訓の時間になるとそいな(そんな)話して聞かしおった(聞かせました)。角有ってもかたつむりみたよん(のよように)出して怒ると目立つけど(けれど)有っても、かたつむりみたよん ちい(へ)入れとると(て居ると)判らせんやんない(判らないでしょう)そやよって(だから)腹な(が)立っても怒った顔しいさいせな(しさえしなければ)判らせん(ない)言うて聞かしおったの(聞かせて居たのです)。そいなおだけ(そんなのだけ)のおたん(馬鹿)やけど(だが)覚えとんの(て居るのです)。

まいまい 毎度毎度 いつも

まいまいかぜ 【名詞】つむじ風。旋風。(志(国府、浜島、越賀、鶴方、片田、畔名、神明)、員、四、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、北、尾、南)[会話] 風もききいともおて(まって)来るとマイマイカゼや(だ)言うてマイマイカゼな(が)吹いて来たそや(それ)はよ(早く)逃げな(なければ)言うて風な(が)巻いて来る時な(が)有るやんかい(有ります)。ほこりを巻いて来る時な^あ(です)あいな時ん(あんな時に)マイマイカゼや(と)

言う。

まいまいした 1) 忙しく働いた 2) うろろうした、まごついた

まいまいする 1) 忙しくする。忙しくしている。
2) まとわりつく。足手まといになる。3) うろろうする。無駄な動きをする。[会話] 3) ちょいと (少し) でも、家ん (の) なかで マイマイシトルト (している) ごてごてしとて (して) 畑い (へ) でんな (出るのは) 屋やれ (だ) 言うて どいらい (大変) 気に入らんね (気に入らないです)。畠へ ちゅつと 行けや (行けば) いいんけど (よいのだが) そこい (そこへ) 出た思うと なんやら (なにか) したら入って来て、仕事マイマイシトルト マイマイシトラント (しておらずに) はよ (早く) 家 出やな (出なければ)、ちゅつと 畠へ 出てくと (行くと) 姑婆らな (が) よけ (沢山) 出来るもんで (ので) ええねけど (よいのだが) 家の仕事なあ (を) せど (裏側) へ廻り 納屋いき (行き) 出たり 入ったりしとると まいまい 家ん (に) いつ迄あいんしとんねない (いつ迄あんなにして居るのだ) あっちゃこつち (あちらこちら) うろろうしとんのおを (して居るのを) マイマイスル。

まいまいちゃん【名詞】 佛様。[会話] マイマイちゃん 言うて 佛さん。

まいまいのり【名詞】 海藻。[会話] 島の上ん (に) も マイマイノリ 言うて しゃかんや (左官屋) の塗る壁。前ん (の) のおな (のが) 一番ええね (よいのだ) 言うて。マイマイノリ 言うてなあ きりきりつと もおた (巻いた) 海苔な (が) あんなあ (有ります)。島にひつついとて (ていて) きもん (着物) につける のりん (に) すると、ふのり みたいな (のようなのです)。島のこび (くっついて居る物) でなあ 波ばなれ (波が干いた) の時に 島の岬みた いな とこ (所) に 有ってなあ、それ掻いて来て 洗るて (洗って) さらに 干して こんだ (今度) は それを のりに炊いて きもん (着物) へつけおったの (つけて居たのです) 張りもん (物) したりする時んなあ (に) マイマイノリ は どいらい (大変) ええの (よいのです)。しゃかん屋の壁 塗る時ん (に) それ 買いんきおったわい (にに来て居ました)。壁のなあ 上塗りする時ん (に) それ 炊いてなあ 綱ざさ 言うて 古い綱の腐った、使われんのを 鉈でこまこお (小さく) つついてなあ さばいて (解いて) マイマイノリや (と) 言うの (のと) 炊いて そ

して しゃかん屋な (が) 壁の上塗り する時ん (に) 使いおった (使って居ました) そんで。そすと 土な (が) おってこんで (落ちて来なくて) ええの (よいのです)。

まいもどる (まひもどる)【舞戻】【自ラ五】元へ戻る。戻って来る。帰って来る。

…まいや 動詞についてしないでおう

まいよ【形容詞】 旨い。[用例] 軒の薪木もさと (砂糖) つきや (つけおけば) マイヨ。

まいよさ【名詞】 毎夜。每晚。夜ごと。(北、南) [会話] じょおつく (いつも) よさり (夜) ん (に) なると来て 言うてなあ。マイヨサ 言う人も有るしなあ 每晚 言うのを マイヨサ 言うのなあ (です)。よさごとと (每晚) 来てなあ 言うてなあ、每晚言うの (のを)。

まいりて (参手)【名詞】 神社仏閣などに参詣する人。[会話] 墓参りん (に) 行くもん (者) マイリテ。神さんへ まいん (る) のでも マイリテ。今日はマイリテな (が) 縁日でよけ (沢山) あられ (有ります) 言うてな、参って来る人 言うのを マイリテ。かんのんさん (観音様) は 正月の八日や、十八日や、二十八日や 言うてなあ 縁日。今日は縁日で マイリド な (が) えらいわれ (大変だ) 言うてなあ。

まいりど【名詞】 神社仏閣、墓などに参る人。まいりて 参照

まいろ【名詞】 1) 櫓の位置。(志、鳥、鈴市、伊、尾、熊) 2) 部屋の仕切りの板戸。[会話] 1) マイロ こまいろ 言うやんない (言うでしょう) ろお (櫓) な あ (です)。かいど あいども まいど、艫櫓は おおども。

まいわし (真鯛)【名詞】 うるめ鯛。うるめ参照 [会話] マイワシ 言うな (のは) ああおおて (青くて) すじ (條) な (が) 引つ張つとんのな (て居るのが)。ちょぼちょぼ (斑点) な (が) あんの は (有るのは) あや (あれは) ひらご (鯛) やなあ (です)。マイワシ 言うのは 鮓 すんのなあ (するのです) うるめ (鯛) の事 言うん (言うのです)。ぼおうるめ 言う あれの おっきいの (大きいのを)。男の人ら 道具 (性器) ぼおうるめ 言うやんかい (言います)。男の人らな (が) 道具干しとると (出して居ると) あやれ (あれ) ぼおうるめ ほり出して 言うて、あの頭な (が) よお似とるもんで (よく似て居るので) 丸くとお (丸く) しとんのおで (して居るので) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

まいんち【名詞】毎日

まう（まふ）【自ワ五】1）回転する。目が回る。

2）忙しく動く。3）ほこりなどが立つ。（南）

まうえ（まうへ）（真上）【名詞】すぐ上に当たる所。ちょうど上。[会話] 自分のそら（上）の事なあ、すってんじょ。自分の上の事をなあ 頭のマウエに、ほおろく 置いて言うて。おかっぱの真ん中を 月代や（だ）言うて、一銭銅貨ぐらいん（に）すって びん やろつけて 月代剃って 髪置いて 言うて どんつばきの歌。

まうけ（真受）【名詞】1）本当。本当にすること。

2）真正面。真正面から受ける事。[会話] 1) 人な（が）嘘言うても ほんとん（本当に）すると、あや（彼は）なん言うても（何言っても）またいね よつて（正直なのだから）。はっぱ（大げさ）みたいな（のような）事言うて 他のにげ（人間）な（は）はっぱ言うて おおぐわ言うて 陰で言うとんねけど（言ってるのだが）、そのいちがいな まったいにげ（人間）は それを 皆 ほんと（本当）の事や（だ）おもて（思っ）て 飲み込むのを、マウケにして まあ 言うて。あや（彼は）またいねよつて マウケん（に）して 言うて。まったく 言うな（のは）いちがいな あんごいちがい 言うんやろなあ（言うのでしょう）。“いちがい 間違い 阿呆のうち”言うて あんまり（あまり）かたくるし事 言うて、融通な（が）聞かせんのを（聞かないのを）言うの（のです）。人の言う事 嘘 言うても あや（彼は）あいな事（あんな事）言うたててなあ（言った所で）言うて 疑い心 せんと（せずに）ほんとん したんの（してやるのを）マウケん（に）して。馬鹿正直 言うんか（言うのか）真っ正直 言うんか そいなのおやわい（そんなのです）。人を疑う事知らんのなあ（知らないのです）。2) ほお（帆）まいても（上げて）も おしま（大島）行くのん（に）西の風な（が）吹くと マウケん（に）受けて まともん（に）あらし（風）やなあ（だ）言うて、ほんと あらし よお（よく）受けるとな。家でも 風な（が）当たるとマウケに受けて 言うて 言うやんかい（言います）。家い（へ）風な（が）当たると。まぜ（南風）まとも やったよお（だった）言うて まぜな（が）吹いても家わいて（向かって）ほんと当たると、まぜな（が）まともで マウケやったよお 言うて。風だけやなしん（でなくて）お日さん（日光）でも なんでも マウケにしとて（して居て）言うて、日 マウケにしと

とか 風 マウケにしとて 雨が降り込んでも マウケやもんで（なので）雨な（が）降り込んで そこら（其の辺）だっびやれ（ずぶ濡れだ）言うて。真正面に受ける言う事 あらしをまともに受けて まいこんでかれ（走り切って行く）言うて。

まうみ【名詞】緑色内至黄緑色の完全な膿。完全に膿んでしまう事。ずくずく参照 [会話] 膿 マウミ したと（してやると）青なつて来ると よけ（あまり）やめやせんねけど（痛まないが）青なる迄やめんねてや（痛むのです）。

まうら（真裏）【名詞】ちょうど裏

まえ（まへ）【名詞】1）前、前の方 2）性器 3）玄関（南）4）太平洋。5）人数を数える語。[会話] 1) マエや（だ）、うしろや（だ）言うて。後ろは背中で マエは腹 又来る年も来る年も うしろは背中で マエは腹 言うて、盆踊りの くどき（唄）の文句や（です）。2) マエ 言うて おなご（女）の大事のとこ や（とか）男の大事のとこ（所）。親父な（が）きんだま出しとるもんで（出しているの）で 親父マエのもん（物）言うて、わがと（自分は）あおたん（花札）しとるもんで（しているの）で マエのもな（物は）にだい、や（だ）言うて。4) 太平洋のことも マエ。マエの浜い いこや（行きましょう）言うてなあ、浦をうしろ 言うてなあ。マエの浜で 潮浴びて（海水浴して）言うてなあ。何処のマエい（へ）潮浴びん（に）いたんど（行ったのだ）言うて、マエの浜 言うてなあ。3) 玄関の事を マエ 言うて、玄関で言うの 家のマエで 言うのなあ（です）マエから出てけ（出て行け）言うて。

まえおび（まへおび）【名詞】結び目が前にある帯の結び方。

まえがる（前軽）【名詞】多淫な女性。[会話] じっきん（すぐに）男の人とねんの（寝るのを）、しりがるマエガルや（です）前も後ろも 一緒やわいなあ（です）。

まえくせ（前癖）【名詞】女性が多淫で有ること。（志（布施田））[会話] 女の人が 浮気するよおなの（のを）しりくせなわり（悪い）マエグせなわり 言うけどなあ（言います）。

まえじたく 下準備。用意。（南）

まえだれ（まへだれ）（前垂）【名詞】前掛け。衣服の前の方の汚れを防ぐために、体の全面、特に腰から下につける布。[会話] 前掛けの事 マエダレ まいだれ言う。

まえつり (前吊) 【名詞】 葬式の時、棺の前を担う人。
死者に三番目に血縁の有る男子。〔志〕〔会話〕 死んでくと (で行くと) マエツリ あとつり。あとつりは濃いの (血縁が濃い人) マエツリは うっすうて (薄くて) 棺へ入れる時 四角うしてな (くして) 前と後ろと 判らんよん (ように) なるもんで (ので) 前向く方へ〇つけて有るやんない (でしよう)。〇は後ろ向きで 死んだ人 後 振り返る 言うて、後向きに つんねやんかい (吊るのです) 先 向かんと。先は 闇やよってんなあ (だから) 死んだ人は そやよって (だから) 後 振り返る言うて 後向いて 行くねもんで (行くのだから) あとつりは 濃いもん (者) な (が) すんの (するのです)。同じ兄弟でも 兄貴は 後 吊って 弟は 先 吊るやんない。

まえどなり (前隣) 【名詞】 道を隔てて前に有る家。〔会話〕 後ろの隣りは 後隣り 前はマエドナリ マエドナリの誰それななれ (が) 言うて。

まえのき。まえのけ 【名詞】 眉毛。(志、鳥 (神鳥))
〔会話〕 眉毛言うな (のは) 今の言葉 昔の言葉 マエノキや (です)。

まえのとし 【名詞】 前年 去年

まえのもん 【名詞】 1) 性器。(員) 2) 太平洋で獲れた魚介類。〔会話〕 1) マエノモン 親父 大事の道具な (が) マエノモン。2) 前の浜で取ったもん (物) もな、マエノモンを とて (取って) 来て言うのな (です)。まあ 今日は マエノモンな (が) 大漁で言うてな、ひじきな (が) あがるとか、若布な あがるとか言うとなあ マエノモンな (が) 大漁で 言うてなあ。

まえば (まへば) (前歯) 【名詞】 1) 口の前面に、上下各四枚並んでいる歯、門歯 2) 下駄の前の方の歯

まえばなわ 【名詞】 前鼻緒。〔会話〕 すげば (鼻緒すげの竹) マエバナワ 付ける時ん (に)、竹で藁はさんどいて (でおいて)。

まえばやい 女性が多淫で有ること。〔会話〕 マエバヨ オテ (早くて) 男を あれしい これしいして 言うてな。

まえび (まへび) 【名詞】 前日。今日の前の日。〔会話〕 こつごも (小晦日) 言うな (のは) おつごも (大晦日) の マエビ。

まえべた 【名詞】 前の方。〔会話〕 後ろん (に) 有るのを 後ろべたや (だ)。前の方わな (を) マエベタや (だ) 言うて、横ん (に) 有ると、よこつちよ (横丁) ん (に) 有るやんない (でしよう) 言うて。

まえまえ (まへまへ) (前々) 【名詞】 昔。以前。(志 (布施田)) 〔会話〕 マエマエから、ずっと前から 考えとたねけど (て居たのだが) 言うやんかい (言います)。ずっと前から あんげんしょお (あんなにしましょう) こげん (こんなに) しょお おもとんのおを (思っているのを)、そして (そうして) その時期 (時) な (が) 来ると ずっと マエマエから そいな (そんな) 事 考えとたね (て居たのだ) 言う時な (が) 有るんなあ (有るのです)。具合なわりと (調子、健康が優れないと) あや (彼は) ずっとマエマエから あいな (あんな) 病気のけ (気配) が有ったね (有ったのだ) 言うて、やまいけの有るにげや (人間は) あや (彼は) ずっとマエマエから あいな病氣な出とたねなあ (出て居たのだ) 言うて。やまいけ 言うのは 病気がちのにげ (人間) を 病持ちやとか (だとか) 言うて、あの人ばねんない (一年中) 胃な (が) わり (悪い) とか 頭な (が) わりとか、尻な (が) わり とか、言うて じょおつく (いつも) そげん (そんなに) 言うとる (言っている) にげ (人間) を 病持ちでまあ あひた (人は) 言うて。

まえもん 【名詞】 小さな鏡餅。おやだま参照 (志)

まえもんかざり。まえもんばやし 【名詞】 鏡餅の前に、橙、野菜、海老等を供えて飾るもの。〔会話〕 マエモン 言うな (のは) 鏡餅のちっちゃい (小さい) のおを (のを) マエモンや (だ) 言うて。磯鏡や (だ) 言うて。マエモンカザリや (と) 言うて かぶち (橙) と、なあ (菜) と、だいこ (大根) と それから 栄螺と 海老と マエモンに供えて 飾んの (飾るのです)。

まえやく (前厄) 【名詞】 厄年の前の年の稱。又その年に起った災難や病氣。〔会話〕 マエヤク。はつんま (初午) の マエヤクや (だ) 言うて、四十二の時や 四十一な (が)、二十五の時や (は) 二十四、今年や (は) そや (それ) マエヤクやよって (だから) きい (気) つけえよお (つけなさい) 言うやんかい (言います)。本厄と うしろ厄とあって 二十六ん (に) なると うしろ厄 四十三になると うしろ厄言うて 前と後ろとなあ 祝う家な (が) 有るんなあ (有るのです)。

まえん 前に、以前に。(志) 〔会話〕 前から 此れ考えとたね (て居たのだ) とか、マエン お前ん (に) やったやんない (与えたでしよう) とか。しよおて (以前) しよて (以前)、やったやんない (でしよう) 言うて、しよて から言うとん (ん) (言っている)

のに) 言うたり、しょおても やったのん (のに) 又くれ 言うのかい (ですか) たらなあ (とかです)。マエン やったのん (に) うなし (同じ) 意味や (です)。しょおとと一緒にけど (だが) ほおゆう (そう言う) にげ (人間) も あんねてや (有るのです)。しょおと マエンと 一緒や (です)。

まおとこ (まをとこ) (間男) (密男) 【名詞】 1) 有夫の女性が、ひそかに夫以外の男性と通ずる事、又その相手の男。2) ボタンの穴などの掛け違い。(南) [会話] 1) 昔 マオトコ しちりょう (七両) 二分やら (とか) 言うやんかい (言います)。罪な (が) 重いん やろなあ (重いのでしょうか) マオトコは、おなご (女) のほおが 引き込む (寄び入れる) のも有るし、男の方な (が) 持ち込んでく (で行く) のも 有んね けど (有るのだが)、自分のとと (夫) やないの (で無いのと) するもんで (ので) 自分が結婚しとておつて (して居て) 男 作るもんで (ので) マオトコ。“人のかか (妻) と ふぐじら (河豚汁は) 美味いうまいはずら (だ) 命がけ” “人のかかすや せわしてならぬ 入れて気をやって 抜いて拭いて 逃げる” マオトコすると忙し 言う事やわい (です)。お父さん (主人) の来ん (来ない) うちん (間に) せな はざんもんで (しなければいけないので)。

まおとこし (まをとこし) 【名詞】 不倫をする女性。[会話] とと (夫) な (が) あんのん (有るのに) 他処のとと (夫) と寝て あや (彼女は) マオトコシやてや (だ) 言うて。

まおとこする 1) 密通する。(張) 2) ボタンの穴の掛け違い。[会話] 1) 今の不倫。とと (夫) な (が) あんのん (有るのに) 人のととと 寝るのを マオトコスル。今やつたら (だったら) 主人な (が) あんのん (有るのに) 不倫してなあ 言うのを、とと な (が) あんのん 他処のとととと寝て、あや マオトコシテ言うてなあ。2) ボタン掛け違いすんのも (するの) も マオトコ 言うて 穴違いしとと (していると) まおとこや (です)。

まか 【名詞】 マカジキ科マカジキ属。かじき類としては短い吻と短い胸鰭を持つ。肉質は類中最も悪く練製品の材料とされる。全長2.5米

まがい (眞貝) 【名詞】 貝の一種。あわびの雄

まがい 【名詞】 にせもの。模造品。[会話] マガイ 言うのは 今の人造品やなあ (です) 模造品や (です) かあ (革) では 無いけど (が) かあ みたいん (のように) 見せてあんの (有るのです)。

まがい 【名詞】 道糸。漁師が使う強い釣糸。途中に小さな重りが沢山ついて居る。まがい糸 (絹糸で作った釣糸) からか [会話] マガイ 言う貝も 有るしなあ。マガイ 言うて 今し (今) で言う ナイロンやろなあ (でしょう)。糸 こおて (買って) 来て 柿をなあ、とて (取って) 来て 柿の渋取って 染めんねて や (るのです) そや (それは) また どいらい (大変) いかついんてや (強いのです)。そやもんで (それで) 魚 釣ん (る) のん (に) 島い (へ) 引っ掛けて しゃくつても (引っ張つても) 切れてかん (ていきません)。マガイ ひとかせ (一束) こおて (買って) 来て 渋で染めて それ干して 鉛を ちっちゃい (小さい) めつぽ (米粒) みたいん (のように) 切つて、それい (へ) 重りん (に) つけんねやんかい (つけるのです)。渋柿とて (取って) 来て 樋でび しゃいて (潰して) それ 搾つて ビンへ (に) 詰めて 土へ埋めとくの (ておくのです) あんで (あれで) 発酵さす (させる) 言うんかいなあ (言うのでしょうか) そして それ とて (取って) 来て マガイ 染めてなあ、そすと (すると) マガイな (が) 初めはぐたぐたやけど (だが) 渋い (に) つけると しゃん となんねてや (なるのです) 渋で固まってなあ、それすると よけ (あまり) まつのらせんの (もつれないのです)。道糸 言うんか (言うのか) 釣糸を マガイ。やま (釣り道具) にすんの (するのです) くちもと (ハリス) い (に) すんのは (するの) ほっそい (細い) いかつい (強い) ええ (よい) てんぐす (てぐす) を くちもと (に) つけて、やま 言うな (のは) 上い迄して しゃびく (引っ張る) の (の) を あれ やま、や (だ) 言うて。

まがいもん (まがひもん) 【名詞】 偽物

まがう (まがふ) 【自ハ五】 間違う。マカフ (目交) の義 (大言海)。

まがさす (魔がさす) ふと邪念がおこる。出来心をおこす。魔、佛教で教えに親しんだり、修行に励みたりする事を防げるもの。人に害悪をもたらす神。不幸な事がおこる。邪魔が入る。[会話] あや (あれは) マア (魔) ナ (が) サシタンナア (さしたのだ) 言うて。あんまり (あまり) 調子な (が) よ過ぎるやんな (でしょう)、そすと (すると) 最後な (が) ちょいと (少し) わり事な (が) 有ると あのうちや (家は) どいらい (大変) 調子な (が) よかったけど、マアナ (が) サシタンナア 言うて。あんどし (馬鹿) 子供が出来たり かたわし (いたいたい、かたわ) のお

な (のが) 出来たり 災難事な (が) 有ると、そいな (そんな) 時ん (に) マアナ (が) サシタ言うんなあ (言うのです)。邪魔やなしん (でなくて) 不幸事や 災難事な (が) 来た時に マアナ (が) サス 言うて。どいらい 正直なかった (で有った) 人な (が) 盗み (泥棒) したりする時な (が) 有るやんな (でしょう)。その時、あのひた (人は) どいらい いちがい (正直) な人やけど (だが) マアナ (が) サシタンヤカナア (ののでしょうか) 言うて。あんまり (あまり) 不思議なよな しわざ (仕業、行動) すると まあ あんで (あれで) マアナ (が) サシタンナア 言うて。不幸事になったり さがり口 (斜陽) になると 言う なあ (言います)。人の噂やよってん (だから) 人の噂ん (に) 戸は立てられん。わがとら (自分達は) そげん (そんなに) おもとらんでも (思っで居なくても) 人な (他人が) そげな (そんなに) 読み取るんやろなあ (取るのでしょうか)。そして普段は 正直な人な 出来心ですと。

まかさん 任せない。させない。(鳥、員、安、飯、松、多、張、度、北)

まかしごめくわれん【俚諺】 ある事を一任されても、自分だけの考えでは事を運ばない。[会話] なんでも こや (それは) なとしょおどい (どうしましょう) 言ううと まあ わしら 判らせんし (ないので) あんた (貴方) な (が) ええよおん (よいように) しといてくれえ (しておいて下さい) 言うのをなあ。マカシゴメ ハクワンワイ (食べません)、はっきり言わんかい (言いなさい) 言うてなあ。まあ あんた (貴方) な (の) 加減で してくれえ (下さい) 言うて 知らん時や (は) 言うやんない (言うでしょう)、そすと なあ (すると) まかしごめ 言うて はっきり 言わな (なければ) お前 マカシゴメ クワレヤセンワイ (食べられません) 言うてな、まかされると。あんた な ええよおん (に) せえ (しなさい) 言うのを それでは いかん 言うのを そいな (そんな) わし (私) の はからい (では) (考えでは) しのくい (わい) (しぬくい) 言う時んなあ (に)、マカシゴメ クワレン言うしなあ。

まかしとけ 引き受けた。(張) [会話] マカシトケ 俺ん (に) そげな (そんな) こた (事は) 言うてなあ。なんでもな 仕事な (が) えらい (大変な) 仕事や (とか) むつかし (難しい) 仕事な (が) 有るとなあ、ほかのもん (者) な (が) よおせんと (出来ないと)、そいな (そんな) こた 俺ん (に) マカシトケ 言う

てなあ。わがと (自分) 自信な (が) 有ると言うてなあ、自信持つて言う事なあ (です) 俺ん (に) マカシトケ言うて。

まかしよ 任せます

まかす (任)【他サ下一】 他に事を依頼する。一任する。

(志、鳥、員、安、一、飯、多、上、張、度、北、尾、熊)

まかせまい 1) まかせない。依頼しない。(安)

2) 撒かせない。[会話] あれん (彼に) マカセマイヤ てんくらする (誤魔化す) よって (から) 言うて、責任持たせまいや (ないでおこう) 言うのを、あれん (彼に) マカセマイヤ 言うてなあ。あれん (彼に) まかしたら (まかせたら) 何事するやら (か) わ かるかれなあ (判るものか)、人 誤魔化すの 上手 なんよって (なのだから) あれん (彼に) マカセマイヤ 言うて。責任は 持たし (せ) てもなあ その責任 よお果たさんもん (でなあ (果たさない)ので) あれん (彼に) まかし (せ) ても はざん (駄目だ) まあ マカセマイヤ 言うのなあ (です)。

まかせやん 任せない。任す事が出来ない。(志、四、尾)

まかせる (任)【他サ下一】 一任する。依頼する。事の処置などを他の者にゆだねて自由にさせる。相手の思うまゝにさせる。(三重県全域) [会話] マカセル 言ううと、その人に 責任持ってもらて (貰って) あんた (貴方) ん (に) マカシタワイ (まかせます) 言うてなあ。あんた な (が) 思うよん (ように) してくれえ (下さい) 言う時んなあ (に) お前にマカスワイ 言うて あんた ん (に) 一任します 言う事やなあ (です)。

まかせる 撒かせる。

まかせん 撒かない。

まかせん まかせられない (一、尾、熊)

まがったらのそかれ。まがったらのびよかれ 頑固だ。

頑固者。[会話] マガツタラノビヨカレ、あんななあ (彼が) こんじん (頑固) で言うて。こんじょくさり (意地悪) の人をなあ、幾ら言うても めったん (絶対) 人の言う事を ああそおか (い (そうですか) 言うて 言わん (言わない) 人をなあ。あんななあ マガツタラノソカレ 言うて。人な (が) こげん (こんなに) したらええ (よい) 思うけどのお (けれども) 言うても、えええ (いやいや) そや (それは) こげん せな (しなければ) 言うて、わがと (自分) の意見通して 人の言う事 聞かせんのなあ (ないので)。

そすと あれん (彼に) 言うたてて (言っても) あんななあ (彼は) のしたら曲がらせんし (ないし) マガツタラノソカレ 言うてなあ。

まかない (まかなひ) (賄) 【名詞】 1) 会計。2) 指図する人。世話人。(志) [会話] 1) あの人 は マカナイに 付いたんでわれ (そうだ) 言うて。組合の 勘定方 (会計) する人を、マカナイヤ (と) 言うて。2) そいで なんかやすん (するの) の あの人 の マカナイ (指図) で言うて。昔は マカナイヤ (だ) 言うて、漁師な (が) 魚を 沖い (で) 渡し (出荷) したり) 市場い渡し たり すん (の) のを (するのを) 一つにまとめて その人らな (が) 勘定 (計算) して 月末になると 勘定 貰いん (に) 行くと その人らな (が) くれたり、十五日勘定なら 十五ん日 (十五日) すると くれたりすんね よって (するのだから) それを マカナイ 言うて、会計やてや (です)。なんでも (なにでも) 事業しても ちょいと (の) (少しの) 事しても あの人ん (に) マカナイ まかしとけ (まかせておけ) 言うて まかす事 マカナイヤ (と) 言うん なあ (言います)。あの人に マカナイ してもらえ 言うて よお言うやんかい (よく言います)。会計の事 やてや (です)。市場 (魚市場) の マカナイヤ (だ) 言うて。

まかないかた (まかなひかた) (賄方) 【名詞】 宴席の料理の総支配者。会計も一緒に行う。料理方。(志) [会話] 料理する人を マカナイカタヤ (だ) 言うて、結婚式の時ん (に) 料理かたや 言うて。その人 な (が) なんを (何を) おいくら (どの位) して言うて、買うもん (物) から、なんから 全部して、にげ (人間) な (が) こんだけや (此れだけだ) 言うて こんだけ こおて (買って) 鮓を こんだけ 巻いて、刺身を いくてびき (幾皿) か こんだけ して言うて、そお言う計算すん (の) のを (するのを) あの人 の料理かたや よって (だから) 言うて、責任持って しとり (一人) みんな (皆) してくれる人 な (が) 有るわい (有ります)。なんもかも (すべて) ちゃあんと して そい なのおを (そんなのを) マカナイカタ。

まかなう (賄) 【他ワ五】 1) やりくりする。生活を支える。2) 買いととのえる

まかのとけ ととのえておけ。やりくりしなさい。

まかます 【名詞】 海魚。かます。カマス科カマス属、腹鰭起始部は第一背鰭起始部直下より、わずかに前方に位置す。体側に明瞭な黄色従帯が二本走る、上顎は短く、後端は鼻孔の下迄達しない。

まからんかい。まからんかな 値引出来ませんか

まがり (曲) 【名詞】 蛇貝。海産の巻き貝で、殻が蛇がとぐろを巻いたように見えるものの総称。(志 (布施田、立神)、鳥 (浦村)) [会話] 貝の マガリか (ですか)。マガリ 採りん (に) いてなあ (行つて)、尻を こつくと (つつくと) ええんやけど (よいのだが) こついてないのを、そんながり (そのまま) とて来て (取つて来て) 炊くやんな (でしょう) そすと (すると) 吸うても (吸い出しても) 息 きたんね (てするのです)。息な (が) 切れる程なあ 吸うても みい (中身) な (が) 出て来やせんね (来ないのです)。尻な (が) ちょいと (少し) こついて有ると 吸うと 最後 (その時) ことんと 喉い (へ) 迄 入ってて (て行つて) 美味いねてや (のです) 又 そのマガリな (が) あまずくうて (甘くて)。慣れとる (慣れて居る) にげやなあ (人間は) 尻ことと かいどし (一本爪の熊手) で こつといくやんかい (つついておくのです) そすと なあ 吸うた時ん (吸った時に) ことんとすんねけど (するのだが) そんな (それが) 穴な (が) あけてねえと (無いと) 息一杯吸いこんでも めったん (絶対に) 来やせん (来ません)、息切ったるよおん (に) 言うて。顔もなんも しゅうてんびん して (真っ赤にして) 吸うても 来やせんねてや (来ないのです) そやけど (しかし) うもおて (美味しく) 顔もなんも しゅうてんびん (に) なる程。マガリな (が) ほん とん (本当に) いっち (一番) 美味い 思ふな (思います)。

まがり 【名詞】 臍曲り。頑固者。[会話] にげ (人間) も 曲つとると (曲がつて居ると) 臍マガリや (だ) 言うて、人の言う事 聞かんと (聞かずに) わがとな (自分が) こげんせえ (こうしなさい) 言うて それを 通さな (なければ) はざん (いけない) にげや (人間は) あや (彼は) マガリやよってん (だから) 人の言う こた (事は) 聞かせん (聞きません)。

まがりちごて。まがりまちごて 万一間違つて。失敗して。マカリは意味を強める接頭語 (大言海) (志 (布施田)) [会話] マカリマチガヤ (えば) まあ 命落とす とこ (ところ) やったない (だった) 言うて。まさか 違えば言う事やわいなあ (です)。

まがりや (間借屋) 【名詞】 借家人。家を借りて居る人。

まがりや 【名詞】 頑固者。臍曲り。[会話] 折れて曲つて、強情ばつとん (の) のも (ているのも) あや (彼は) マガリやよってん (だから)

まかる 値引出来る

まがる (曲) 【自ラ五】 受け取り方がまともでなく、ひねくれる。臍をまげる。頑固になる。[会話] 臍な (が) マガルとか。

まかれる だまされる。盲従している。

まがわし (まがはし) 【形容詞】 まぎらわしい。

まがわす (まがはす) (紛) 【他サ五】 まぎらわしくする。まどわせる。[会話] 同じ よおん (ように) 較べてもなあ、よお (よく) 似た よおな (ような) のをなあ、おおた マガワスナア 言うんなあ (言うのです)。よお 似た よおな 色や (だ) 言うとなあ マガワスよななあ (ようだ) 言うて、違うよおななあ (だ) 言うのをなあ マガワスよななあ 言うのなあ (です)。

まき (槇) 【名詞】 すぐれた木の意。犬槇 いぬまき マキ科の常緑高木。高さ2.5m経0.8mにも達する。樹皮は灰白色で縦に浅く裂け、薄くはげ落ちる。葉は互性し長さ10～15cm幅8～12mmの扁平な線形又は被針形で先が尖る。雌雄異種。種子は球形で緑色に熟す。果托は大きく倒卵形で紫紅色に熟し食用になる。庭園や生垣に植培され、材は建築や器具に使用される。(志、熊) [会話] 家の マキガキとか。いたちんぼのきい (木) を ぐるりと植えると マキガキや (だ) 言うてなあ。いたちんぼのきい マキバシラ言うて マキは 床のま (間) い (へ) するやんない (するでしょう)。マキバシラ言うて 床柱になあ、ちっさい (小さい) うち (間) に 針金で巻いて 立つとる (ている) うちんなあ (間に) 型ん (に) しといて (しておいて) あんのを (有るのを) マキバシラ 言うてなあ 床柱ん (に) すると どいらい (大変) ねえ (値) な (が) すんねやんかい (するのです) 風雅なの (のを) しとる (している) 家な (が) 有るやんかい (有ります) 削って磨いてじっぱん (立派に) して あや (あれは) 皆 マキやんかい (です)。マキバシラ 言うて 床柱にすんの (するのは) おおかた (大部分) マキやんかいなあ (です)、マキのかあ (皮) 剥いて節な (が) でこでこに なつとんのおな (なつて居るのが) マキバシラ 言うて。マキバシラ 言うな (のは) 素晴らしねよお (しいのだ) 言うて、家 普請すると それ みいん (見)に 行くと、あの家の床柱 素晴らし マキバシラしとんねよお (して居るのだ) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。そして 手や足も 腫れてしとると (して居ると) おおた (あゝ) 腫れて マキバシラ みたいなんよお (のようです) 言うて 大仰しな

(く) 言うの (のです)。マキの柱な (が) でこぼこ しとるやんかい (して居ます)、そやもんで (それで) 足や手な (が) 腫れとると (ていとう) 腫れて マキバシラみたいん なつたよお言うて。

まき (薪) 【名詞】 燃料。たきぎ。かまどなどで焚く、細い枝や割木。(張) [会話] 薪木も マキ。マキ マキ してこな (してこなければ) 言うて、薪木を。マキな (が) 無い 言うて、割り木や (だ) 言うけど (けれど) 薪木の事を マキや (だ) 言うて。

まきあみ 巻網 【名詞】 巾着網。あぐり網などの総称。魚群を取り巻いて魚網を敏速に張り漁獲する漁方 (度 (南勢町))

まきえさ (撒餌) 【名詞】 魚をおびき寄せるのに撒く餌。こませ。まきえ。

まきがき 【名詞】 槇の木の生垣。(桑郡、飯) [会話] マキガキ 言うのは、ぐるり (周囲) に植えてあんの (有るのです) いきがき (生垣) になあ。マキガキで植える家な (が) 有るんなあ (有るのです)。

まぎき 【名詞】 1) 他人の話しを密かに聞くこと。2) 又聞き。[会話] 1) 盗み聞き 言うて なんでも (何でも) 人の話 盗み聞きして 言うて たちぎき (立聞き) とかなあ。あのひた (人は) 立ち聞き ばっか (ばかり) して 言うてなあ 立ち聞きして 聞いとたや (ていたら) こげん (こんなに) 言うて 言うて 人の内緒話をなあ 聞くのを マギキやたら (とか) 盗み聞きやたらなあ (とか)。

まきこむ (巻込) 【他マ五】 巻き添えにする。仲間に引き入れる。[会話] あれん (彼に) マキコマレテ 言うんかい (言うのですか)。あの人の話 しとんのん (しているのに) マキコマレテ (ていつて) 言うてなあ。あれを 聞いとたや (ていたら) それい (に) マキコマレテ まあ えらい (大変) 災難かぶつたよお 言うて、話 しとたや (していたら) あれも (彼も) おった (居た) 言うて、なあ (名前) さされるとなあ、そすとさいご (その時) マキコマレテ 言うて。引っぱり込まれてく (て行く) 事をなあ 人のわり (悪) 口 言うのを 植うって (相植うって) ほんえ (本当ですか) そいなんかい (そんなのですか) 言うて、話 しとんの (しているのを) 聞かれたて (てしまつて)、あれも (彼も) こげん (こんなに) 言うて言うとた (言っていた) 言うと、なんも (全く) 知らんねけど (知らないのだが) こげんして (こんなに) して 言うもんで (ので) 話 聞いとたや (ていたら) それい (に) マキコマレタテ (てしまつて) 言う

てなあ。

まきさがす 乱雑に撒く。撒き散らす

まきしお【名詞】 潮の干潮の最もよく引いた時。底いり [会話] そこり 言うのは 干き潮の 一番 潮な (が) 干ききった時、マキシオな (が) 一杯になった時 そんな (それが) 一番 どん底。

まきずし (巻鮓)【名詞】 乾海苔で巻いた鮓。海苔巻き。 [会話] あまのりずし マキズシ。

まきせん (撒銭)【名詞】 撒いて与える金。厄年の年、厄除けのため撒く金銭、又功德のために撒く金。 (尾) [会話] マキセン言うて、はつんま (初午) の時ん (に) まくやんかい (撒きます) ぜん (銭) を。

まきせん【名詞】 巻線 束ねた針金に布を巻きつけコーラルターで染めたもの。真珠養殖の貝を吊るしたり、錨綱にしたりする。 [会話] 養殖の綱いも (にも) きれ (布) 巻くと、マキセン 今日はまこや (まきましよう) 言うてなあ、ぼろ (ぼろ布) を巻く時な (が) 有るやんかい (有ります)。コルタン染めん (る) のんなあ (のに) 錨綱い (へ) 皆 きれ (布) 巻いてなあ、今日は マキセンやよお (だ) 言うて、ぼろ (布) よつけ (沢山) 出して来てなあ ワイヤ (針金) へ巻いて、そし (といて) (そうして) コルタンで染めた (と) (てやると) いかついもんでなあ (強いので) 錨綱な (が)。

まきた (真北)【名詞】 北風

まきつきあるく まとわりつく。 [会話] ちょおける (ふざけて) 言うのは、じゃれる 言う事なあ。じゃれて マキツキアルくと、よけ (あまり) そばえん (な) まあ (甘えるな) 言うて。

まきつきやあるいて まとわりついて

まきつく【自力五】 まとわりつく。 [会話] マキツイテ、言うて 朝顔と一緒に 垣根い (に) マキツイテ、薦でも まあこや (これは) 垣い (に) マキツイトテ (ていて) これ切らな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うてなあ。子供らな (が) あばえて (甘えて) まいあるいて、かあさんとこ (所) よけ (あまり) マキツクナマア言うて、 まとわりつく 言うのを マキツクナマア、かあさん (母様) のとこ ばっか (ばかり) くるりくると もおとる (廻っている) こお (子) な (が) 有るわな (有ります)、あばえて (甘えて) そすと よけ (あまり) マキツクナマア 言うて。

まきつけおび【名詞】 帯の最後を結ばず、巻いた所に差込む結び方。

まきて【名詞】 撒手。餅などお撒く人 ひろいて参照

まきばしら (檣柱)【名詞】 檣の木の床柱。まき参照 [会話] マキバシラ 言うな (のは) 素晴らしねよお (のだ) 言うて 家 普請すると (新築すると) それ みいん (見に) 行くと、あの家の床柱 素晴らしマキバシラ しとんねよお (しているのだ) 言うて。

まきはだ【名詞】 舟の小さな浸水する所に詰める、桧、杉の木の繊維を縄状にしたもの。(熊) [会話] マキハダ 言うななあ (のは)、なんやら (何か) 杉皮みたよな (のような) 綿みたよん (のように) になったの (のを)、なあ (縄) によつといてなあ (編んで) それ こおて (買って) 来て 舟のあとふまえん (に) 入れとんね (ているのです)。そすと、此处から あか (水) な (が) 入って来たれ (来た) 言うとなあ それを こめ (といて) (詰めておいて) こんこんとこつくと (つつかと)、そんな (それが) こまかい (小さい) もんで (ので) そごい (接触) な (が) ええもんで (よいので)、あか な 入らせんの (入らないのです)。やわかいもんで (柔らかいので) きい (木) のかあ (皮) や (です)。古舟ん (に) 乗とると (ていると) いつなんどき (何時) あか な 入って来るやら (か) 判らせんやんない (判らないでしょう)。そすと つぎ (布) こめても (詰めても) はざんの (いけないのです) その マキハダや (で) なけな (なければ) つぎ (布) はなあ じっきん (すぐに) 吹き出してくんの (来るのです)。マキハダは ええねけどな (よいのだが)、きれ (布) こめても (詰めても) 吹き出して来るもんや (ものです)。

まきまき【名詞】 1) 狂って居る人。道理にはずれた行為をする人。2) 腰巻きの上にまく布。(志 (布施田)) [会話] 2) マキマキ 言うと 腰巻きなあ (です)。ぼおし (稲むら) い (へ) マキマキ 編んで言うて。小麦藁でなあ ぐるりつと ぼおし の下い すんの (するのを) マキマキ。腰巻でもなあ 腰巻は横巾やけど (なあ) (だが) 縦巾にしてなあ よお (の) ん (に) してすんの (するのです) マキマキ 言うて、腰巻は巾で まるく (と) お (丸く) なんねけど (なるのだが) 縦にしてなあ それを マキマキ。磯行くとなあ いそなか (の) うい (火) 当たる時ん (に) ぬくたいよん (暖かいように) ぞろつとしてすんの (するのを) いそなか (の) は 二巾やもん (ので) 短こおて (短かくて) さぶい (寒い) もんで (ので) ながお (長く) して、裾い迄 ぞろつとしてなあ ひい (火) 当たる時ん (に)。1) あんごし

(馬鹿) のおも (なのも) マキマキ。 のお (脳) な (が) わり (悪い) の (のです)。

まきもん (撒物) 【名詞】 撒いて散らすもの。餅まきの餅。野菜の種子等。[会話] 金持ちで 金ばらまくてない (のだそうだ) てやら (とか) 餅ばらまいたてやら 言うて、マキモン する時ん (に) ばらまく。

まきもん (巻物) 【名詞】 巻いて有る物。軸。

まきやげる 巻き上げる

まぎらかす (紛) 【他サ五】 1) まぎれるようにする。区別しぬくいようにする。まぎれこませる。2) 騙す。[会話] 1) マギラカス 言うてなあ、よけ (あまり) 邪魔すんな (するな) まあ マギラカシテ 言う時も有るしなあ。わがと (自分) くしゃくしゃしとる (している) 時んなあ (に) きい (気) マギラカス 言う時も 有るしなあ、ごおなわいとる (腹が立っている) 時ん 歌 聞きん (に) いたや (行ったら) 気な (が) まぎれて よかつたれ (よかった) 言うばやい (場合) も有るしなあ、芝居みいん (見)に いた (行つた) とかなあ。

まぎらし 【形容詞】 区別が困難である。似て居てまぎらわしい。[会話] マギラシ事ばつか (ばかり) して言うて、区別のしのくい (しぬくい) 事やなあ (です)。

まぎらわかつ (まぎらはかつ) 【他サ五】 1) まぎれるようにする。区別を困難にする。迷わせる。まぎらかすに同じ。2) 騙す。[会話] 1) まぎらかすも マギラワカス 言うのも 一緒にの事やなあ (です)。 気な (が) くしゃくしゃ しとんのおを (しているのを) なんか (何か) おもしらい (面白い) 事して 誤魔化して 気晴らしする 言うのなあ (です)。マギラワカシタラナ (てやらなければ) はざんわれ (駄目だ) あれも (彼も) くよくよばつか (ばかり) しとるよつてん (しているから) あれの (彼の) きい (気) マギラワカスのん (の)に 歌 うたおかとか、踊りしよおかとか 言うばやい (場合) も 有るなあ。きまぐれに まあ あれも (彼も) なんなと (なにでも) さしたらな (させてやらなければ) はざんわれ 言うたりなあ。

まぎらわし (まぎらはし) 【形容詞】 区別が困難で有る。

まぎらし

まぎらわす (まぎらはす) 【他サ五】 迷わせる。区別を困難にする。

まぎり (間切) 【名詞】 区切り。小さな区切り。[会話] なんやかや (いろいろ) こまこお (小さく) 切んのも (切るのも) マギリして言うてなあ。家でも あの家

や (は) マギリな (が) してあんね (有るのだ) 言うて、幾部屋ん (に) も して有ると マギリな (が) して あんねてわい (有るのだそうだ) 言うてなあ。

まぎる (間切) 【自ラ五】 1) 小さく区切りをする。

2) 船を風上に進めるため、ジグザグに運航する。

(志 (布施田)、鳥、北、尾) 3) 差し出口をして、他人の話を中断させる [会話] 1) きい (木) マギル 言うてなあ。買山のぼく (木) 切つて来ると ぼく 長なりん (に) 積んで有ると あの ぼく、誰ぞ マギッテ くれや (くれれば) ええのんなあ (よいのに) 言うて 切る 言うのをなあ 割る よおんなあ (に) さいぎ (薪) に すんのん (するの)に この位 切つてなあ そのきい (木) を、此 マギッテくれる 人な (が) ほしなあ (欲しい) 思ひおつたね (思つて居たのです)。3) 人な (が) 話 しとると (していると) そや (それは) いかんやんかあ (いけないではないか)、こや (これは) こおや (こうで) なかったのに こおや のにお (の)に 言うてなあ、がわ (側) から 言うのをなあ 人の 言う事ばつか (ばかり) マギッテ言うてな。2) 舟な (が) 風上向いて 行く時 あつちや (あちら) 向き こつちや (こちら) 向きして行くのも、マギル 言うてなあ、マギん (る) のん (に) 上手に マギラな (なければ) 言うて、曲ん (曲る) のを マギル 言うてなあ 島やどこやかやつかえんよん (ように) 上手ん (に) マギレヨオ 言うて。

まぎれる 【自ラ下一】 混ざつて見分け難くなる。まざる

まぎわ (まぎは) (真際) (間際) 【名詞】 その事の始まる寸前。[会話] 死んでく (で行く) きわ迄 元氣でおると、おおた あの人 死にる (死ぬ) マギワ迄 働いてなあとか、元氣やつたなあ (だった) 言うしなあ。なんか (なにか) してもなあ マギワまで せん とおつて (せずに居て) 言うしなあ。しょんがつ (正月) な (が) 来たのん (の)に なんも (なにも) せん とおつて (せずにいて)、まあ マギワん (に) なつて 来てから 大忙しや (だ) 言うてなあ。きわん (に) なつて来ると マギワや (だ) 言うて さしそまつて来た時をなあ。

まく (幕) 【名詞】 場面 [会話] おんな (俺が) 出る マクや (で) ないわ言うて、いなん (要らぬ) 事、喋りん (に) 行くとなあ お前らな (が) 出る マクや (で) ないわ 言われんのなあ (言われるのです)。

まく (巻) 【他カ五】 1) 包む。(南) 2) 帆をあげる。

3) 終り。4) 後を進む人を途中で紛れさせる [会

話] 1) 包む 言うのも 風呂敷で マイトケ よお (ておけ) 言うて、しんぶんがみ (新聞紙) で、マイテ、えごと (完全に) かことけ よお (しまっておけ) 言うて。2) ほお (帆) 揚げる 言うのも ほお マク。お前や (は) ほお マク 錨マク、親父や (は) 酔っぱらって くだ をマク。

まく 狂う。気が違う。[会話] まいて 来たのも マク言うて ちょいと (少し) マキカケ を (始めを) ちょい まき。

まぐあい (まぐあひ) 【名詞】 目合。まぐわいの訛。男女が契りを結ぶこと。情交。

まくあけ (幕開) 【名詞】 事の始まり。

まくしこむ 1) 急いで食べる。急激に行う。2) やりこめる。(南) [会話] 2) マクシコム言うのは、言うて言うて 言いまくるのを、マクシコム 言うんやんかい (言うのです)。お前や (は) どおやんか (だ) こおやんか などとしたやんか (なんとしたでないか) かとしたやんか (かんとしたでないか) 言うて、まあ次々と その人荷めて しとんの (しているのを) マクシタテル 言うて、くすべる (燻す) 言うて、よお (よく) 言うんやんかい (言います)、くすべられてまあ あれん (彼に) 言うて、くすべられて マクシタテラレテ 言うんやんかい (言います)。

まくしたてる (捲立) 【他タ下一】 息もつかせず激しく言い立てる。立て続けに喋って居る。[会話] マクシタテル 言うのは やりこめる。御飯 食べる時はまくり込む 言うの。

まくじまい 【名詞】 終り。まくひき参照

まぐそ (馬糞) 【名詞】 馬の糞。[会話] 馬の糞や (で) ねえんかい (無いのですか)。今し (今) の人ら ばふん やけど (だが) マグソ。馬の糞 牛の糞、馬の糞 みたいななあ (のようだ) 言うて。

…まくつとる 一生懸命にしている。一心になって居る。

…まくつとんね 一生懸命にしているのだ。[会話] じい (字) 書くのも 書いて書いて かき マクツトンネヨオ 言うて。

まくひき (幕引) 【名詞】 芝居の幕を引く人。転じて、種々の事を仲介し、決着をつける人。[会話] もの終いん (に) する 言うんか、なか (間) に立ってマク ヒコヤ (ひきましよう) 言うて、まあ マクじまいや (だ) 言うて、終いん (に) なるとなあ。あんまり (あまり) よけ (沢山) 喋ったり ききに くい (聞き苦しい) よおな事 喋ると、まあ マクヒコヤ (ひきましよう) 言う時も有るなあ。終い迄 ちゃん

と なか (間) 取り持ってくれる人を あのひた (人は) マクヒキで言うて、マクヒキやなあ (だ) 言うて物事 納めて くれる人を。

まくらがみ (枕紙) 【名詞】 枕附近に置く紙。情事の後始末に使う紙。

まくらがや (枕蚊帳) 【名詞】 子供の枕辺を覆うための骨組の小さな蚊帳。[会話] マクラガヤ 子供ら なあ (子供達が) 今し (今) あいなもん (あんな物) 要らんけど (要らないが) じゅうじな、マクラガヤや (だ) 言うて どいらいのおを (大きなのを)。こおもり傘 みたいん (のように) なつとんの (なつて居るのを)。食卓い (へ) 覆せん (せるのの) あれのおっきい (大きい) のおな (のです)。子供 もおけて (産んで) マクラガヤ よお買わんで (買えなくて) 買うの たつこおて (高価で) 言うて、そやけど (それだけれど) 蚊な (が) おって こんなり (このまま) 寝やされやへんやんない (寝させられないでしょう)。泣いても わろても (笑つても) かわな (買わなければ)。真四角や (で) のおて (なくて) 長、短かな (が) 有りおったのお (有りました) 縦ばな (が) ちょいと (少し) 長い。今し (今) 食卓い (へ) ふたすの、ちっさいの (小さいのを) かけとる やんかな (かけて居ます) あいなののお (あんなの) のおっきい のなあ (のです) 量 一枚分 位。

まくらぎょお (まくらぎやう) (枕経) 【名詞】 死者が出た時、すぐ死者の枕許であげる経。僧に変死の有無を確かめさせるために 行われたと言われる。(北 (須賀利)、尾) [会話] おっさん (和尚さま) な (が) 死んでた (でいった) おりん (時に) マクラギョオ 読んでくれんね (くれるのです)、マクラギョオ まだ 読みん (に) きやせんない (来ない) おっさん な (が) 言うて、おっさん な (が) 死んで すぐの のおを (のを) 剃刀で剃る真似するやんない (でしょう) あれマクラギョオ。

まくらげえしゃ (枕芸者) 【名詞】 芸よりも売春することを主とする芸者。淫売婦。[会話] ずるいのを (ふしだらなのを) 言うんかい (言うのですか)、転ぶ芸者を マクラゲエシヤ 言うね (言うのです)。芸者の下駄は 転ぶ 転ぶと音がする なんて まがいいんでしょ 言う歌な 有るよつて (から)、ころびの 事やろなあ (でしょう)。転ぶ 芸者な (が) あんね やろ (有るのでしょう)。

まくらだんご (枕団子) 【名詞】 死者の枕頭に供える、米の粒を蒸して作った小さな団子。(松、多) [会話]

盆に 佛さんへ 供える ころころ団子。マクラダンゴ みたいなやけど (のよなのだが) マクラダンゴと違うんやんか。マクラダンゴ 言うな (のは) 枕経 読みん (に) 来た おりんなあ (時に) ころころ を六つなあ、米のこお (粉) を こねて きい (木) を さいて (刺して) 置くやんない (でしょう) あれマクラダンゴ。死んだ人の 頭の上ん (に) 置いて有る。水向けの水と 団子と あれなあ (です) マクラダンゴ。

まくらめし【枕飯】【名詞】 死者の枕もとに供える飯。
(張) [会話] 飯な (が) もって (よそって)、竹と きい (木) さいて (刺して) そやよって (だから) 竹と きい (木) で 食べんもんや (ものだ) 言うね (言うのです)。マクラメシ 言うのは こんもりと 上 まあうして (丸く) 山みたよん (のように) もって なあ (よそって) そして 竹と きい (木) の 箸をなあ 真ん中へ刺して 死んだ人の頭の上い (に) 置く の (のを) マクラメシ。

まくりこむ【自マ五】 急いで食べる。大量に食べる。
[会話] ひとくらん (一度に) 皆 喰たらんかれ (食べてしまいなさい) そんだけのもん (それだけの物) 言うて、ひとくらん マクリコンダタ (でしまった) あ の よけのもん (沢山の物) マクリコンダたんなあ (でしまった)。

まくりこんだ 大量に食べた。

まくりこんだた 大量に食べてしまった。まくりこむ参照

まくる【捲る】【他ラ五】 1) 覆って居る物を一方に巻いてあげる。紙などを裏返す。めくる。(志 (甲賀)) 2) 疾走する。 3) 仕事を急いで一心にする。 4) 補助動詞として動詞の連用形について、その動作を激しく続ける意を表す。むやみに…する。しつづける。
[会話] 1) 前マクルとか、畳マクルとか、尻マクルとか、蓆マクルとか、敷いて有るもん (物) をマクル 言うて。“今日は七日で 尻まくり” 言うのな (のが) 流行って、尻を まくりやい (あい) しおった (して居ました) 遊びん (に)。七日の尻まくり言うて きゅっと 捲って なんどお (なんだ) 言うとな 今日七日の尻捲り言うて 言よおった (言っていました)。今日は 七日の尻捲りな (が) 流行って みんな (皆) の 尻を捲りん (に) 行きおった (行っていました)。ほすと (すると) ほれ (それ) パンツは いとらせんし (はいて居ないので) 腰巻きだけやで (だから) 男の子らは それを えてん (得意に) ま

くりん (に) きいおってなあ (来ました)。2) 走りマクルとか 3) 仕事しマクルとか 言いマクルとか。言いマクル 言いマクッタ (てやった) 言うのな (が) 有るやんかい (有ります)。なつとかまあ (なにか) ちよいと (ちょっと、少し) した事な (した事が) ごおなわいて (腹が立って)、言うて 言うて 言いマクッタ (てやった) 言うて。言われると 言いマクラレタよお言うて 言いマクッタよお言うて。言いマクッタタヤ (てやったら) 胸な (が) すつとした 言うて、言いマクラレテ ごおなわいて (腹が立って) 言うて。言いまげられた てやら (とか) 言うて。走りマクットル (て居る) 言いマクットル 仕事しいマクットル 仕事しいマクッタよお (てやった) 言うて。飯も 喰いマクッタ なんや (何か) 言われて ごおなわいて。喰うて 喰うて喰いマクットク (ておく) 喰わな (なければ) 損や (だ) おもて (思って) 喰うて 喰うて 喰いマクットイテ (ておいて) 来たてやら (とか) 言うて。

まくれこむ【自マ五】 1) 急いで食べる。2) 急いで走って行く。(南) [会話] 1) マクレコンデキテ なんもかも (すべて) まくりこんで言うて、あんななあ (彼は) 物食いな (が) よおて (よくて) なんもかも (すべて) マクレコムねよって (のだから)。沢山食べる 言う事なあ (です) マクレコム言うのなあ。

まくれる【捲】【自ラ下一】 1) 群がる。集まる。2) めくれる [会話] 1) マクレル。にげ (人間) な (が) よつけ (沢山) 寄って来たのも ドヤマクレテ 来て言うし、荒布やもお (藻) な (が) 寄って来たのおでも まあ ドヤマクレテ 浜一杯やれ (だ) 言うてなあ、此処に何か有る 言うと 人らな (が) 皆 寄って来て ドヤマクレテ 来てなあ言うてなあ。

まくれる【捲】【自ラ下一】 一心に行う。おし押せる。(志 (布施田))

まぐれる【粉】【自ラ下一】 混ざって判らなくなる。

まぐろ【名詞】 くらまぐろ サバ科マグロ属 ほんまぐろとも言う全長3米。体重 350kg に及ぶ。体は典型的な紡垂形。尾は二股に分かれ背方は黒青色で腹方は灰白色を帯びる。マグロ属で最も美味。(度)

まぐわ【馬鰐】【名詞】 四つ爪の有る鰐。(志 (浜島、御座、越賀)、桑市、四、鈴市、松、多、上、阿、度、伊、南) [会話] マグワ 言うな (のは) 四つ手の事 なあ (です)。四つ 爪な (が) 付いとんのおなあ (て居るのです)。他処の人は四つ手や (だ) 言うけど (けれど) 和具は マグワ やろのお (でしょう)。

まあ（もう）マグワで 芋苗床 おこしんいかな（耕しに行かなければ）はざんわれ（いけないです）言うて。マグワ 土 起したりすんの（するのに）起しよおて（やすくて、よくて）田でも ひやけ（ひやけ田、水の少ない田）うつよおん（耕す時に）なると マグワで いなかぶ（稲株）こおして せな（しななければ）普通の畝では はざんの（駄目なのです）。うまだ（沼田）でも ひあがつてくと（水がなくなると）マグワで うたな（耕やさなければ）はざんの。

まけええ まけなさい。値引きしなさい。

まけええ まきなさい。しなさい。

まけさす 値引きさせる。

まけさす 溢れさせる。

まけずぎらい（まけずぎらひ）（不負嫌）【名詞】負ける事が嫌な事。頑固者。

まけた 1) こぼした。2) 船などが転覆した。[会話] 1) 汁マケタ てやら（とか）、ちゃあ（茶）マケタ、飯マケタとか、2) じょおし（漁師）なら 舟マケタタ。こえ（肥料）マケタタ てやら、ひっくり返す。舟な（が）ひっくり返って たんでわれ（て行ったそうだ）言うのも有るし 舟な（が）マケタンてわれ 言うのも 有るし。

まけた（負）買う人の要求に負けることから、割り引いた。価を下げた。[会話] しなもん（品物）買いん（に）いて（行つて）ちょいと（少し）よけ（多く）貰うと マケテモロタ（貰った）言うて。

まけたた 1) 値引きした。値引きしてやった。2) 滞ってしまった。3) 舟を転覆させた。4) 負けてやった。[会話] 3) 舟な（が）引つ繰り返るのも マケタタ。波な（が）えろおて（高くて）まけたて（転覆させて）杉のずうきん（頭巾）被ったねてない（ののだそうだ）言うて。2) 物をよおけ（沢山）入れとんのを（ているのを）滞したる事を マケタタ言うてな、引つ繰り返したとか。ちゃあ（茶）マケタタとかなあそやあれ まあ、ちゃあ まけて 其処ら だっぴやれ（ずぶ濡れだ）言うてなあ。

まけたたない。まけたたれ 1) 値引きしてやった。2) 負けてやった。3) 零してしまった。

まけたて 1) 値引きしてやった。2) 零してしまった。まけたれ参照 3) 船を転覆させてしまった。4) 負けてしまつて。

まけたる 1) 値引きしてやる。（志（布施田）） 2) 零してやる。3) 船を転覆させる。4) 負けてやる。[会話] 1) 今日は まあ 終いやよつて（だから）マ

ケタルワ 言うてなあ。3) 舟 マケタル 言うのも有るしなあ。2) そすと 其処らい（に）なんやかや（いろいろ）いなんもん（要らない物）ほったんのも（捨てるのも）其処らい（へ）マケタル 言う時も 有るしなあ。其処らい あけとけとか マケタレとか。

まけたれ 1) 値引きしてやれ 2) 値引きしました 3) 零してやれ、容器の内の物を外に出しなさい 4) 零しました 5) 船を転覆させよ 6) 転覆しました 7) 負けてやれ 8) 負けました [会話] 4) お茶でも マケタルやんない（でしょう）、そすと おとつしやまあ（あああ）ちゃあ（茶）マケタテ言うね（のです）、失敗した時ん（に）自分でしたても（してしまつても）おとつしやまあ マケタレ 言うて。

まけてく 1) こぼれて行く。2) 転覆する。

まけてた 1) こぼれてた。2) 転覆した。

まけとけ 1) 値引しなさい（客）2) 値引しておく（商人があきらめて）

まけとけ 引つ繰り返しておけ、撒いておけ

まけまい 1) 負けたくない。2) 値引きしたくない。[会話] 2) マケマイ（値引きしない）言うのを、どおあつても（どうしても）まけえ（まけなさい）言うてこぎりたおして。

まげもん（曲物）【名詞】まげもの。桧や杉の薄い板を湾曲させて作る木製容器の総称。桧、杉等の薄板を円形、長円形に曲げて作った容器。材料の木材を柂目に沿って薄く 削ったものを火にあぶるか、熱湯に入れるかして、なまし、円形、長円形に曲げる。合わせ目は桜、しらかんばの皮を薄くテープ状にしたもので、縫い合わせ これに底をつける。（志（布施田））[会話] 飯 入れんのなあ（入れるのです）。磯（海女作業）行くのんなあ（のに）今し（今）みたよん（のよ）に ニュームやなしん（アルミニウムでなくて）桧のマグモンへ 麦飯の ばらばらしとんのお（して居るのを）入れて。みそ箱い（へ）味噌入れて そして（そうして）そんな（それが）弁当や（です）。だいこ漬（大根漬け）一本持つて。マグモンの飯の まんない（へ）梅干しの どいらいの（大きいのを）一つ 突つ込んどいて（でおいて）だいこ漬けを かまぼこ（蒲鉾、まるのまま）、普通みたよん（のように）四つに割つて せんと（せずに）はすぎり（斜め切り）ん（に）すんのを（するのを）百姓切りとかだめな切り 言うて いっぼ（一本）なりを（そのま）を ごすんと 切つたらんと（切つてやらなくて）

ぼたっと 落したらんと (落としてやらなくて) ちょいと (少し) つけて、そいて (そうして) 切り目 入れるわけやな (入れるのです)。それを だめな切りや (だ) 言うて、そしといて (そうしておいて) 食べるよおん (に) になると それを 一つうつ (一つずつ) きさいて (破って、切りさいて) 喰うのな (食べるのです)。それ 弁当やった (でした)。桧のマグモンへ 桧のちっちゃあい (小さい) 味噌箱い (へ) 味噌入れて そんで (それで) 弁当や (です)。今しみたいん あいな (あんな) 品のええの (よいのを) しよおかい (しません)。味噌箱も 桧のちっさい (小さい) の (小さいのが) 漆な (を) ちょいと 塗って、マグモンは 白いし (白いのです、塗ってありません) 味噌箱は ちょいと (少し) しよい (醤油) な (が) 浸み込むやんない (でしょう) そやもんで (それで) 漆なな (です)。マグモンは塗ってあんの (有るのも) 有るけどなあ (けれども) しらきを しおったな あ (して居ました)。しらきは 汚れて来ると みがき砂つけて みがくと じっばん (立派に) なるやんない (でしょう)。そやもんで (それで) しらきの方な (が) よかった。漆んの おも (のもの) 有りおったけど (有ったが) おおかた (大多数) しらきやわい (です)。漆んのおは (の) は (は) げて来ると きたの おて (汚くて) いやらしん (汚いのです)。昔や (は) 嫁入り道具な (が) にじゅうかがり (腰籠) マグモンと、味噌箱と それい (それへ) いそじよつき (海女の作業衣) 入れて 磯桶い (へ) して そんな (それが) 嫁入り道具やった (でした)。箆もなんも (なにも) こおてもらわれやへん (買って貰えません)。百姓切りの だいこ (大根) きさく 言うたのは ひきさく言うの (ののですが) 切ったらんと (切つてやらずに) 下な (が) ちょいと (少し) つなげてあんの (つないで有るのです)。それを引き裂いて 喰い (食べたり) まるっぽ (そのまま) で、かぶりつく時も 有りおったなあ (有りました)。切らんな なあ (切らずに) 畑から来て いそがして (忙しくて) つちあし (土足) で 家、入れやせんし (入れないので) だいこ漬け 出して来て 切つとる (て居る) 暇無いし 麦であるて (麦穀でぬぐって) まるっぽ (丸のまま) で ばりばりと、かぶりつく時も 有るしなあ 家 おって (居て) する時は だめな切り ちょいと (少し) 切りかけ しときおったけどなあ (しておきました)。

まける (負) 【他力下一】 買手の要求に負けるので、割

引きする。値段をやすくしたり、品物を余分に渡したりする。

まける (撒) 【動詞】 1) ひっくり返す。ひっくり返った。船なまけた。 2) 水などがこぼれる。 3) 容器中のものをあける。空にする。こぼす。(志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、一、松、多、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 2) しる (汁) マケル てやら (とか)、茶 マケル、飯 マケルとか、1) じょおし (漁師) なら 舟 マケル、舟な (が) ひっくりかえってたんでわれ (たそうだ) 言うのも 有るし。舟な マケタンテワレ 言うのも 有るし。畑い (へ) 行くと こえ (肥) マケタタンヨ オ (てしまった) 言う時も有るし。

まげる (曲) 【他力下一】 盗む。くすねる。ちょろまかす。人差指を、曲げる意

まごじいさん 【名詞】 祖父 (一、飯、南)

まごじじ (孫爺) 【名詞】 祖父 (志 (鶴方)、鳥 (鳥羽))

まごち (真東) 【名詞】 真東の方から吹いて来る風。(鳥 (国崎)) [会話] 風の事かい (ですか)。マゴチ 北ごち まぜごち。マゴチ 言うのは 東から吹いて来るのマゴチ。今日は 北ごちやなあ (だ) 言うの (のは) 北からなあ。

まごつく 【自力五】 迷ってうろつく。うろたえる。[会話] まごまごして 何処い (に) 行たやら (のか) わけな (が) 判らん マゴツイトタヨオ (ていました) 言うて、まよとんの (迷っている) をなあ。どこそこい (に) いたや (行ったら) なんも (少しも) 訳な (が) 判らんで マゴツイて、まごまごばつか (ばかり) しとて (していて) 言うて。東京のステエシヨ降りたら 行くとこ (所) な (が) 判らんで まごまごして マゴツイタ言うて。

まごばあさん。まごばば (孫婆) 【名詞】 祖母 (志 (鶴方)、鳥、南) [会話] 娘の子な (が) まごじじ マゴババ お婆さん ひこ婆。

まごぶし (馬子節) 【名詞】 どうでもよい事。有っても無くてもよい物。[会話] しよおことなし (仕方なし) の、マゴブシやれ (だ) 言うて 昔の人ら。

まごまご 【副詞】 うろついて居るさま。うろろ。とまどう。仕事が順序よくはかどらない。[会話] マゴマゴ しとらんと (しておらずに) ちゃつちやと (さつさと) のけまあ (のきなさい) 言うて、うろろしとる (して居る) 事を、マゴマゴ。うろろ しとんの おを (して居るのを) マゴマゴしとる。うろろしと

ると マゴマゴと まあ (もう) 言うて、うろうろも マゴマゴも一緒やけどなあ (です)。仕事する時ん (に) 手順な (が) わりいて (悪くて) 進んでかせん 時ん (捗らない時に) マゴマゴしとて (して居て) よおせらったんよお (出来なかった・ようしなかったの です) 言うて。今日は だんどり (計画) な (が) わりいて (悪くて) マゴマゴしとて 捗ららったよお (なかった)。

まごまつだい【名詞】 永久に。いつまでも。

まこも【名詞】 水草 [会話] マコモ 言うて 苔。井戸い (に) 生えるねよってなあ (のだから) 苔の事を言うのなあ (です)。緑色の ほっそおい (細い) ちょろちょろ しとんの (しているのを)。“池のマコモで 身を冷やす” 言うんよってなれ (言うのだから) 言うて つらまし (つらい) 事な (が) 有ってなあ えらい (大変な) 事な (が) 有るとなあ “池のマコモで 身を冷やす” 言うて いくら考ても 考ても 努力しても 思うよおん ならへんし、つらい事ばつかで (ばかりで) するやんない (でしょう)。苦勞事な (が) よおけ (沢山) 重なった時の事を 言うんやろなあ (言うのでしょう) いくら考ても努力しても 思うよおん (ように) ならへんし (ならないし) ま つろおて (つらくて) つろおて しゃあない (仕方ない) 時の事を言うのな (です)。つらい事な (が) 有ると “池のマコモで 身を冷やす” 言うて。

まさ(紐)【名詞】 木目がまっすぐ通って居ること。[会話] きい (木) のマサ。マサばつかで (ばかりで) してあんね (有るのだ) 言うて、年輪の事を 言うんやろなあ (言うのでしょう)。きい (木) のマサ ばつかで して有って ええ (よい) 家やど (だ) 言うて。真ん中の 芯の きい (木) のがら (模様) な (が) 有るやんない (有るでしょう) あれを マサや (です)。杉のマサばつかで して有るとかなあ マサで しといて (しておいて) あんのは (有るのは) 材料な (が) ええ (よい) の、つこて (使って) 有る 言うて 喜ぶのなあ (です)。

まさか【副詞】 万一にも。万一のよもや意

まさかちごて まかりまちがって。万が一。[会話] ひよとして あんな (彼が) 来てくれや (くれれば) 言うて、マサカチゴテ 言う事やろなあ (でしょう)。

まさかりよき【名詞】 木を伐ったり、割ったりするのに用いる大形の斧。まさかり。よき参照 [会話] マサカリヨキ 言うな (のは)、はあ (刃) な (が) ひらくとおて (平で) まさかり かずいて 金太郎、あ

んな (彼の) 持つな (のが) まさかり。

まさば(真鯖)【名詞】 鯖。ぐるくま サバ科グルクマ属 サバ属魚類と近縁だが、体高がより高く側扁度がより大。羽毛状の長い鰓耙は数が多い。沿岸表層を群をなして回遊する。[会話] 鯖でも 生で食べて ええ (よい) 鯖と、生で食べたら いかん (いけない) 鯖と 有るやんかなあ (で有りませんか) ごまさばやたら (とか) マサばやたら (だとか)。鯖で当たる言うのは 皮をつけるとなあ いかんね (いけないの です) 皮を剥がな (なければ) はざん (いけない) のなあ (のです)。薄皮 剥いだると (てやると) ええ (よい) ねけどだ (のだが) 煮付けんな (るのは) そんなり (そのまま) 食うけど (食べるが) つくり (刺身) ん (に) すんな (するのは) かあ (皮) へぐけど なあ (剥きます)。

まさめ(紐目)【名詞】 木目の真っ直ぐに揃っている物。まさ (南)

まざりもん【名詞】 混物。主となる物の中に混入して居る物。挟雑物。(志 (布施田))

まざる(混、交)【自ラ五】 二種類以上の物が一緒になつて一体となる。まじり合う。[会話] マザル 言うね (言うのです)。まぜたたよお (混ぜてしまった) 豆と小豆と まぜこみにしたた (してしまった) とか、麦と米と マザルとか言うて まざりこんだ とかなあ。こねたると (てやると) こねこねにしたて (して しまった) 言うて、まぜこぜん (に) したた (して しまった) 言うて、まぜたた 言うのなあ (のです) まぜこぜん (に) したた (して しまった) 言うて。マゼル 言う時ん (に) 小豆と とまめ (蚕豆) と すんのも (するの) 言うし。

まし(増) 他と比較してまさって居る事、又そのさま。

よりよい事 (志 (片田、鶴方)) [会話] ちよいと (少し) マシやなあ (だ)、ええ (よい) 言う事やわ (です)。ちよいと 此れより ええなあ (よい) 言うのを マシやなあ (だ)。うわて (上手、すぐれて居る) な事を ちよいと マシやなあ言うて。較べて見て こちらのより こっちや (こちら) の方な (が) ええ 言うの (のを) ちよいと マシやなあ言うて。おっきさ (大きさ) も言うし 質も有るし いろみ (色味) も有るし。いろみ (色) でも わがとな (自分の) 好みの色と 較べて見ると 此の方な (が) マシやなあ とか言う時も有るし。人間でも 較べて見ると あれより ちよいと (少し) マシやなあ 言うて、次なにげと (少し足りない人と) 賢いのおと (の

と) すると (較べると)。 なんでも (なにでも) ええ
よってん (よいから) 二つ較べて見て ちよいと え
え 方を マシや 言うの なあ (のです)。 どいらい
(大変) ええ (よい) 言う こた (事は) 無いのなあ。
ちよいと ええ のを マシや なあ言うの な。

まじえ【名詞】 南風。(鳥(答志)) [会話] まぜ よお
言わんで (言えなくて) マジエ 言う人 なあ (が)。

ましえこ(ませこ)【名詞】 年令以上に大人のように見
える子供。[会話] 大人 みたい な (のような) 事 言
うたり したりすると ませとる (大人ぶっている)
マシエコや (だ)。

ましえとる ませとる参照。年令以上に大人びて居る。
[会話] ませとる よお言わんで (言えなくて) マシ
ェトル 言うて、 ひねこし (大人びた) 事を なあ。 あ
や (彼は) どいらい (大変) マシエトンナア 言うの
なあ (です)。 マシエトンナア 言うて 小癪な言う
たり ひねこし 言うたり。

ましえる 年令以上に大人びている。ませとる。ましえ
とる。ひね参照。[会話] マシエル 言うと 冴えと
る (利口な) 事を なあ あの かあ (子は) どいらい
(大変) 冴えとんなあ (ている) 言うのを、 マシエト
ンナア 言うて なあ。

まじえる 混じて居る まざっている

まじえる【他ア下一】 まぜ合わせる。加えて一つの物に
する。マズ(交)の転。マジエルの訛(鳥、度) [会
話] あらめな (荒布) と なあ (菜) と マジエテ
そんな (それが) 美味いんてや (美味いのです)。

ましお(真潮)【名詞】 西から東へ流れる海の流れ。
(志(布施田)、鳥(国崎)) [会話] マシオ そこ底。
マシオ 言う な (のは) 西から流れてくんのな (来る
のが) マシオ。東から流れて くん な (来るのが) そこ
潮。沖から くん のは (来るのは) より潮 たか (陸)
から 沖い (へ) 出て く の (行くの) は 出潮 言うの
(のです)。 出潮 な (が) は よおてまあ (早くても
う) 言うて こっちゃ (此ちら) おると 判らせんけ
ど (ないが) 大島かづく (海女する) よおん (に) な
ると 出潮 でも 沖むいて 流されてくやんない (て
行くでしよう)。 そすと (そうすると) より潮 言う
な (のは) たか (陸) 向いて 流されんねやんかい
(流されるのです)。 そやけど (しかし) 出潮 や 言
うと 沖向いて 流されてくもんで (て行くので) 泳
ぐのおで (ので) 一生懸命やんかい (です)。 マシオ
は あお潮 で 澄んで かあんと して そこ潮 や
(と) 言うと 濁って でんぐり (ひつくり) 返って

来んの (来るのです) すぐん (に)。 そこ潮 な (が)
そこらい (其の辺に) 来ると ちよいと (少し) 見る
と そこ潮 な (が) 来た なあ 言うて、 真つ黒ん
(に) 黒幕落したよおん (に) してくんね (して来る
のです)。 そやけど (しかし) マシオン (に) なると
かあんと澄んで 針 な (が) おつと ても (落ちて居て
も) 判るよおん (に) なって くんね (来るのです)、
よお (よく) 澄んで。 おか (陸) から 見と ても (て居
ても) 底 な (が) 立派に見えるの (のです) そやけど
(しかし) そこ潮 な (が) 来ると 一つも (少しも、
全く) 見えやせん (見えません)。 マシオン (に) な
ると あばぼおて (まぶしくて) 目 な (が) 舞う程ん
(に) 明るな てくんの。 あばばい あばぼおて 言
うて な 眩しい事 を言うの (のです)。 眩しい事 を。
潮 な (が) 澄んで かあんと して来る 時 な (が) 有る
と あばぼおて 目 な (が) 舞うよお なあ (よう
だ) 言う (言います)。 上 から おおび (鮑) な
(が) おん な (居るのが) 見えとんねよお (見えて居
るのだ) 言うて、 ふつかあい (深い) とこ (所) でも
見えとる (見えて居る) 時 な (が) あんの (有るの
です)。 そげん (そんなに) 澄んで 来んの (来ます) マ
シオン (に) なると。

ましかく(真四角)【名詞】【形容詞】 真に四角であるこ
と。正方形。[会話] 正方形の事を マシカクや なあ
(だ) 言うて なあ。

まじきり(間仕切)【名詞】 物と物との間にしきりをつ
けること、又そのもの。区域を定めること。[会話]
家をしきる事を マジキル 言う けど なあ (言いま
す)、八畳の まあ (間) ん (に) したり、六畳にしたり、
三畳に すんのを (するのを) しきる事を あの 家
や (は) 上手 ん (に) マジキリ な (が) して あんなあ
(して有る) 言うて しきり 入れとる 事を あの 家
や どいらい (大変) 上手 ん (に) 間取り な (が) え
え なあ (よい) 言うのを マジキリ な (が) 上手 ん
(に) して あんなあ 言うて。

まじく な か す。 **まじく** の か す。 **まじく** ら か す 誤魔か
す。[会話] 誤魔かすことを マジクナカス マジク
ラカシテ 言うて。

まじく ら か さ れる 誤魔かされる。

まじない(まじなひ)【名詞】 1) ごまかすこと。
2) 神佛に祈ること。3) 賄賂。[会話] ② 骨立た
言うと マジナイ してくれえ (して下さい) 言うて
マジナイ したろかい (してやるうか) 言うて、に ご
うめ や の ご はん に ご の うめ や の ご はん 言うて す

んのを (するのを) マジナイ。骨立てて マジナイして 抜いてもろた (貰った) 言うて、となえ (称) 言うて すんのなあ (するのです) マジナイ 言うて。

まじないほど【形容詞】 少し、ほんの少し。(阿、張、名) [会話] なんやかや (いろいろ) ちょおいとな (少し、くれたり もろたり (貰ったり) するとなあ おおた マジナイほどよりくれらったね (くれなかったのだ) 言う時も 有るわい (有ります)。ちょおいと 貰うとなあ、マジナイほどきとか、せんまい (饅米) ほどけ (程) とか 言うてなあ。

まじなう (まじなふ)【他ワ五】 神佛に祈り吉凶を占う。

まじなかず 誤魔かす。[会話] マジナカされてまあ言うて、人な (が) かしん (菓子) くれたり ああ なん (何か) くれたりして、マジナカシテ、言うて。そいなのおを (のを) マジナカス 言うのなあ (です)。マジクナカスも マジナカスも一緒や (です)。マジクナカス マジクナカサレテ 言うて。

まじまじ【副詞】 じっと見つめて居るさま。あきれて人の顔を見るさま。おとなしくして居るさま。神妙なさま。(志) [会話] マジマジと おらばっか (私ばかり) 見とんない (見て居る)。しんびよお (神妙) にしとる時んも (して居る時にも) 言うやんかい (言います)。マジマジとしとる (して居る) とか マジマジとしんびよお しとるとか (していると) 言うて おとなし (おとなしく) しとる (している) 時も。なっともならんと (なんともならず) こちらばっか (ばかり) みとんのおを (見て居るのを) マジマジと みとんない (見て居る) 言うて、じっと 見つめとる (て居る) じいっと しとんのおを (して居るのを)。

まじめくさる【自ラ五】 真面目な様子をする。神妙にする。

ましゃく (間尺)【名詞】 物事の計算。割合。間 (けん) と尺の意。

ましゃくにあわん 割に合わない。損になる。(員) [会話] かんじょんあわん 言う事かい (ですか)。損する言う事や (です) マシヤクニアワン言うのは。

ましよお (ましょう)【名詞】 魔性。悪魔、また悪魔のような性質。人間をたぶらかしたり、まどわせたりする性格を持っていること。[会話] あや マショオのもん (物) やどお (だ) 言うて、魔のもん (物) 言うんかい (言うのですか)。

ましよおじき (ましょうじき)【名詞】 嘘がなく、しんから正直であること。馬鹿正直。[会話] マショオジキ あや (彼は) マショオジキなねよって

(なのだから) 嘘 言うても ほんとん (本当に) すんど (するぞ) 言うてなあ。

まじらかず 混合する、二つ以上の物を混ぜ合わす

まじりもん【名詞】 混ざって居る物。挟雑物。不要の混合物。まざりもの (物、者)

まじる (交)【自ラ五】 1) 混合している。まざり合って居る。2) 仲間に入る。[会話] 1) マジル とか まぜる 言うな (のは)、ふたあつを (二ヶを) 一つに したんのな (してやるのが) まぜこみしたたれまあ (してしまった)。まぜこみしとけ (しておけ) 言うて。

ましん (真芯)【名詞】 中心。[会話] 真ん中の事をマシン 言わせんかい (言いませんか)。マシンを中心にして 言うて 真ん中の事やなあ (です)。

ます (鱈)【名詞】 スズキ科の海魚。体はスズキ型で全長 90cm 位になる尾鰭の後縁は丸い。若魚は 淡褐色で七條の黒褐色の横縞が有るが、成魚では不明になる。えらぶたに少数の棘をもつ。はたじろ。1) まはた。眞羽太 2) ハタ科の魚の総稱 まあす参照 (志、鳥、度、尾、熊、南) [会話] 魚のマス。ハタジロマスや、アズキマス、やてやら (だとか) 言うて 小豆の模様してあんの (有るのを) アズキマスや言うし (と言いますし) すじん (條に) なっとんのおを (なつて居るのを) ハタジロマスや (だ) 言うて。

マス【名詞】 男子の手淫。マスターベーションの略。

まずい (まづい) (不味)【形容詞】 1) 粗末である。(鳥) 2) 下手である。劣って居る。3) 味が悪い。(一、飯、張、名) [会話] 3) マズイ 言うな (のは) うまない (美味くない) 事を ああ、マズイ 言うて 青汁飲む人な (が) 言うて来るし。1) しなもん (品物) でも わり (悪い) もん (物) 見ると こや マズイなあ 言うて、食うもん (物) でも、わり となあ マズイもん (物) ばっか (ばかり) 食うて 言うて。

マスかき【名詞】 手淫する人。

マスかく 手淫する。(上、阿)

ますきり【名詞】 米寿。米寿の祝い。(志) [会話] 八十八のマスクリ 米寿。昔や (は) 米寿言わんと (言わずに) マスクリや (だ) 言うて。

まずし (まづし) (貧)【形容詞】 貧しい。貧乏で有る。

ますなあ ますなわ【名詞】 くえ鱒を釣るのを目的とする延縄。(鳥、度)

まずみ。まずめ【名詞】 薄暮。朝夕の薄明時、日の出、日の入りの頃。マジメ沈静の意。此の時刻は深海の魚

類も水面近く浮くので好漁の潮時（広辞苑）（志（布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗）、鳥（桃取、国崎））[会話] カイマズミ とか、ユウマズミ とか、カイマズミ 魚な（が）喰う（釣れる）時な（が）有るし（有ります）。カイマズミ 言うな（のは）日な（が）くれあいと、おつてく（落ちて行く）時との あい（あいだ、間）で 境を言うん なあ（言うのです）。カイマズミ うちんいこや（うちにいきましよう）言うて、うちあみ（網漁の一種）ん（に） なるとなあ 夕方ん（に）出てて（出て行って）ひい（太陽）な（が）いってく（入って行く、落ちる）のを 待ちかねとて（て居て）網やつて（入れて）すんのを（するのを）カイマズミ うちん（うちに）こや（行きましよう）言うの（のです）。夕方の暗い、日な（が）落ちてく時ん（て行く時に）まあ境の時を カイマズミや（だ）言うて。かいくらもと 言うて 言うけど、海辺は カイマズミ 言うて。

ますら【名詞】 そらとぼける事。 1) 知って居て知らないふりをする。すら参照。ま接頭語、全くの。 2) 厚かましい。図々しい。（志）[会話] 1) マスラしてまあ 言うて 知らん顔 しとんの（して居るのを）。知つとても（知って居ても）知らんふりしたり聞いとても 聞かんふり しとんの マスラや（だ）言うて。マスラしてまあ 知つとて なんも（少しも、なにも）言わせん（言わない）とか。聞いとても 言わせん とか言うのな（のが）マスラや（です）。聞いておつて（居るのに）あや（彼は）マスラ しとんねど（して居るのだ）言うて。わがと（自分が）知つておつて（知って居ながら）やんない（でしょう）知らんふり しとんのおを（して居るのを）すらばこして言うて。知つとておつて わり事（悪い事）しといておつて（しておいて居ながら）、わしや（私は）なんも（全く）知らん（知らない）言うて、すら（とぼけて）しとんのおを（しているのを）マスラして 知らん顔して 言うて。

ませ【名詞】 動詞ませるの連用形から、ませて居る事。子供が年令のわりに大人びて居る事、またそのさま。そのような子供を言う。早熟。おませ。（志（浜島））[会話] マセとんねよつてん（て居るのだから）言うて、ひねこし（大人のような）事言うと。ちつそおても（小さくても）大人みたいな事（のような事）言うたりすると、あやまあ（彼は）マセとて（ていて）大人みたいな（のような）事 言うて言うてなあ、ちつそおても マセこやなあ（です）言うの。年（年令）

の割りに なんでも（何でも）ひねとる（老成して居る）事なあ（です）。なんでも しつとて（知って居て）する事でもするし、それを マセとる 言うのな あ（のです）。オマセや（とか）そいな（そんな）言葉使うのも 言いよおな（が）違うだけで 言うこた（事は）一緒やけど（だが）なりもん（なりもの）で言うたら 早生みたいなんも（のような物）、にげ（人間）の 早生 あや（彼は）早生やなあ（だ）言うて 言うやんかい（言います）。

まぜ【名詞】 南風。（志（磯部、穴川、甲賀、志島、立神、神明、鶴方、国府、安乗、畔名、名田、波切、船越、布施田、越賀 御座、浜島）、鳥（鳥羽、坂手、小浜、桃取、菅島、答志、安楽島、浦村、石鏡、国崎、千賀、相差 堅子）、四、松、多、伊、度、北、尾、南、熊）[会話] 風 マゼの風なあ（です）南から未（ヒツジ）もとから吹いて くんのを（来るのを）マゼ。マゼもとな（南の方が）くらがったよつて（暗くなったから）雨やどお（だ）はよ（早く）取り込まな（なければ）言うて。麦を干しとると（て居ると）言いおつたわい（言っていました）。こつちやからは（こちらからは）いなさもと（東南）いなさもとな（が）くらがったれ（暗くなった）言うて。いなさもとから 雨たもれ（下さい）言うて。おしよおじ（祭り）になると 富士詣りの人らな（が）歌いおつたやんかい（歌いました）。

まぜうねり 南風が吹いて波が大きくなって来るさま。
まぜぐも参照

まぜかやす（まかえす、まぜかへす）（混ぜ返す）。まぜくりかやす（混ぜ返）【他サ五】 1) 幾度もかきまぜる。 2) 冗談や揚げ足取りで人の話を混乱させる。ちやかす。まぜかえす。（一、松、多、度、伊）[会話] 2) 人の話し しとるとこい（して居る所へ）さしでぐち してくと（して行くと）マゼクラカシテ まあ人の（が）話し しとんのん（して居るのに）言うて、マゼカヤシテ あんな（彼が）来たや（ら）言うて。人の話 先取りしたたら（とか）言うて。人の話 しとるとこい 人の話のなんも（少しも）わきまえんと（ずに）いろいろの事 喋ると マゼクラカシテ いなん事（よけいな事）言うのをな（です）マゼカヤシテまあ 言うてなあ（言います）。

ませくさる【自ラ五】 いやに生意気に見える。くさるはののしりの意を添える。[会話] ませとんの（ているのを）マセクスル 言うてなあ。あんまり（あまり）ひねこし（大人のような）事ばつか（ばかり）言うと

る（言っている）もんで（ので）、ちっそおておって（小さいのに）マセクサッテ 言うんかいなあ（言うのでしょうか）マセクサッテ 言うて ませとて（ていて）彼氏こさえたり（作ったり）するもんで（ので）怒る時の事やなあ（です）。

まぜぐも【名詞】 南風が運んで来る雲。南の方にある雨雲。（鳥（石鏡）、北（須賀利））[会話] 南から 入れて（出て）くんの（来るのを）マゼクモ。マゼグモ な（が）入れて 来たよって（から）雨やどお（だぞ）こや（これは）言うてなあ。まぜんみ（南風による波）な（が）して来ると ろお（櫓）よお漕がん（漕げなくて）で、こやまあ うねりな（が）ついて来た、マゼウネリやなあ（だ）言うて 南から来ると こやまあ（これは）やまぜ（南風）な（が）吹いてくんねど（来るのだ）早よ（早く）逃げな（なければ）言うてなあ そすと こんだ（今度は）やまぜがえしの 西や（は）怖い 言うて、西な（が）こんだ どやまくれて（急に強く吹いて）くんど（来るぞ）言うて。やまぜな（が）吹いた 揚げ句は（後は）西な（が）吹く。昔の人は 大島い（へ）いとると（行っている）やまぜな（が）吹いて来たど（ぞ）早よ（早く）家い（へ）逃げな（なければ）言うて。早よ行かな（なければ）こんだ やまぜがえしな（が）来ると おとしど（怖いぞ）はよ乗れ、それ乗れ 言うて まぜん（が）吹いて来るよん（ように）なると まぜもと（南）な（が）くらごお（暗く）なつて、こやまあ（これは）やまぜな（が）吹いて くんねど（来るのだ）はよ乗れ 言うて。

まぜくらかす。まぜくりかやす（まぜくりかえす、まぜくりかへす） 冗談や揚げ足取り、又横槍を入れて人の話しを混乱させる。まぜかやす参照 [会話] 人の話 しとるとこい（している所へ）差し出口 してくと（行くと）マゼクラカシテ まあ 人の話ししとんのん（しているのに）いなん（いらぬ）事 言うて。

まぜくる【他ラ五】 1）まぜる。まぜあわす。かきまぜる。（熊）2）差し出口などをして邪魔する。まぜかえす。[会話] 1）なんやかや（いろいろ）物、まぜん（る）のも マゼクル 言うしなあ、マゼコミん（に）したて（してしまつて）麦と米と マゼコミん（に）したて（してしまつて）言うて。2）人な（が）話 しとんの（しているのに）いろいろの事言うてまじくり返すのも マゼクル、人な（が）話 しとんの（しているのを）言うて、いなん（要らぬ）話 して来てなあ、その人な（が）必要な話 せな（しなけ

れば）いかん（いけない）とこ（所）へ いなん事 言うてくんのをなあ（来るのを）マゼクル 言うてなあ。

まぜげ【名詞】 南風の吹く事。[会話] マゼゲ 言うて、まぜな（が）吹いて来る事をなあ。まぜぐも（南からの雲）な（が）入れて（出て）来ると、まあ、マゼゲん（に）なつて来たなあ ひより（天候）な（が）おちんどお（悪くなるぞ）言うてなあ。

まぜこ【名詞】 年令以上に大人ぶっている子供。[会話] マセコ。ひねこしの（大人のようなのを）マセコ やなあ（だ）言うて。子供をマセコ。こや（これは）マセコで、大人の言うよおな事 言われ（言う）言うてなあ。

まぜこぜ【名詞】 色々の物がまじり合つて居る。（張）[会話] かぼちや飯い（へ）芋 入れても。がちやがちや 言うのは、マゼコゼ 言うよおな意味や（で）ねえんかい（無いのですか）。マゼコゼん したて（してしまつて）言うて、あれもこれも 一緒ん（に）したるとなあ（してやると）米と麦とマゼコゼん（に）したてまあ（してしまつて）言うてな ごちやごちやん（に）したたとか マゼコゼんしたた（してしまつた）とか いろいろなもん（物）な（が）まざつとんの（ているのを）こや（これは）まあ マゼコゼやなあ（だ）言うし。

まぜごち【名詞】 南東の風（南）

まぜこみ 混ざりあう、また混りあつたもの。まざる参照 [会話] 大豆と小豆と マゼコミにしたた（してしまつた）。

まぜこみんして 混ぜてしまつて。

まぜた 早熟で有る。

まぜたた 混合してしまつた。混じり合わせてしまつた。[会話] 米と麦と マゼタタ とか まざりこんだとか。

まぜたれ 1）混ぜよ。2）混ぜました。

まぜたる 混ぜ合わせてしまう

まぜて 混ぜ合わせて

まぜとく 混ぜておく。

まぜとけ 混ぜておけ。

まぜとる（ましえとる） 年令以上に大人ぶつて居る。

（志（片田、鶴方、立神）、一、松、度、伊、北）[会話] マセトルとなあ ひねこしなあ（大人びている）言うのなあ（のです）。

まぜんみ【名詞】 南風が吹いて波が高くなること まぜぐも参照

まぜのおちばなふねをだせ【俚諺】 南風が吹き始めたら海が荒れるから、早く帰る用意をして舟を出しなさい。
[会話] まぜ (南風) は、後で波な (が) 立ってくる もんで (大きくなるので) 吹き出したらすぐん (に) 家 向いて来い言うの。

まぜのかぜ【名詞】 南風。(志、鳥 (坂手))

まぜのかぜでもしぎよふきやさぶい。まぜのかぜでもよけふきやさぶい【俚諺】 暖かい 南風でも 沢山吹けば 寒くなる。過ぎたるは及ばず (志 (名田)) [会話] 南から吹いて来る風。マゼノカゼデモ シギョ (沢山) フキヤ (吹けば) サブイ (寒い) 言うて、よけ (沢山) 吹いて来るとなあ まぜのかぜでもさぶい 言う事やわい (です)。ちよろちよろしととなあ (していると) まぜは したたりんけど (湿っぽい) が よつけ (沢山) 吹いて来ると、まぜでも さぶい 言う事。よけ 言うのは 沢山 びゅうびゅう して来るとなあ 涼しいのな (が) 冗じて、さぶなって (寒くなって) 来る 言う事やわい (です)。よけ 言うのを しぎよ 言うてなあ。

まぜばやし。まぜばやて【名詞】 南からの突然吹く強い風。[会話] あんまり (あまり) 急に 吹いて来ん な (来るのは) はやてな (が) して来た まぜ (南) から 吹いて来ると、マゼバヤテな (が) して来た。

まぜぶき【名詞】 1) 強い南風の吹く事 2) 南風が長く吹く事。(志 (布施田))

まぜまぜ 混り込む。二つ以上の物が混在していること。(上、阿) [会話] マゼマゼん (に) なっとんのを (なっているのを) ごちゃごちゃ 言うのなあ (です)。

まぜもと【名詞】 南の方角。南。(志 (布施田)) [会話] マゼモトな (が) くらがった (暗くなった) よって (から) 雨やどお (だ) 言うて 南な (が) くらがな って (暗くなって) 来ると。

まぜもん【名詞】 二種以上の物をまぜ合わせたもの、また主としたものに混ぜ合わす物。[会話] 純綿や (だ) 言うても ナイロンな (が) まぜっとたりなあ (混っていたり) 絹や (だ) 言うても 人絹な (が) まぜったり (混ったり) すんのなあ (するのを)。そして 白米や 言うても くろ (玄米) な (が) まぜ っとたり すんのなあ (するのを) マゼモンな (が) しとる (している) 言うて。悪いもん (物) な (が) まぜとる (混っている) 時をなあ マゼモンな (が) しとる、混ざりもん (物) 言うのを、マゼモン な (が) して有って 言うてなあ。

まぜりこむ 混ざり込む。入りこむ。[会話] にげ (人間) でも あしこい (あすこへ) マゼリコムてやら (とか) 言うて、おおぜ (大勢) のちい (へ) マゼリコンでて (で行って) 判らんよおん (ように) なつて た (なつていった) 言うて。

まぜる【自サ下一】 老成している。大人ぶって居る。年令のわりに大人びる。(鳥、久、度、北)

まぜる【他ザ下一】 1) 一緒にする。ある物に他のものを加えて一つにする。2) 仲間に入れる。加入させる。3) 混じる。まざる。混入する。(員、三、鈴郡、鈴市、一、松、上、阿、張、伊)

またあした【名詞】【感動詞】 別れの時の挨拶。又、明日逢いましょう。

またい【全】【形容詞】 1) 真正面。真正直。まったい、全い、完全である。欠けた所が無い。安全である。まうけ参照 (志 (鶴方、神明、志島、甲賀、国府)) 2) 確実だ。間違いない。(志 (布施田、浜島、鶴方、神明、志島、甲賀、国府)、鳥、桑郡、三、四、鈴市、亀、松、北、尾) 3) 馬鹿正直で要領が悪い。人がよい。(松)

またえ またもや。又また。再々。しばしば。[会話] また (再度) 来たんかい (来たのですか) 言うて、ふたあくらめも (二度目も) みいくらめ (三度目も) も来るとなあ マタエ言うて。なん回もなん回も 来ると マタエ 言うて、一回やどけは (などでは) 言わ せんけど (言わないが)。一緒にの事 なん回も聞くと マタエ 言うて そや (それは) さつき (先き程) 言うたやんかい (言ったで有りませんか・言ったで無いか) 言うて そいな時んなあ (そんな時にです)。

まだええな。まだええなあ 1) 余裕の有る状態を言う 2) まだよろしいね (時間の余裕を言う)

まだか まだですか。[会話] かあやん (お母さん) 飯や (は) マダカ、おお まだやれ (だ) 今日は よ がき (夕方までかかって) でなあ 言うて。とおさん (お父さん) な (が) 帰って来やへん (来ない) 時もなあ とおさん マダカ 言うてなあ まだ来やせん われ (来ません) 言うてなあ。

まだかあ まだですか。[会話] マダカア 言うのはその にげ (人間) によってなあ 子供らは まだか 言うし、とおやん (主人) は マダカア 言うし、ちよいと (少し) 発音な (が) ちごて (違って) くんの なあ (来るのです)。マダカア 言うて おとなし言うとする時は ええんけど (よいのだが) マダカア 言うて、かあな (が) なんごなつて (長くなって) 来る

と ごおなわいとんね (腹が立っているの) やんかい (です)。マダカア はよ せなまあ 言うて。

またかい またですか。

まだかい まだですか。まだ済みませんか。食事時分に訪れた時の挨拶。[会話] マダカイ 言うのも、まだ御飯 食べとらへんのかい (食べていないのですか) 言うのに、マダカイ言うて。とおやん マダカイ言うて、おなごら (女) は 言うし。とと (主人) な (が) かか (妻) に言う時や (は) まだか言うてな男とおなご (女) と子供で ちごてくる (違つて来る) 同し言葉やけどな (だが)。

またがし (又貸) 【名詞】 一方より借りて更に他人に貸す事。

またがり (又借) 【名詞】 人の借って居るのを更に借りる事。

またぎき (又聞) 【名詞】 当人より聞かず、聞いた人より又聞く事。

またきておくれ また来て下さい。客を送る挨拶。[会話] また来て下さい 言う事 マタキテオクレ 言うて、またこいよ また来てくれよお とかなあ。行く時やなあ (は) おお またくるわ (また来ます) 言うて 言うといてくしなあ (言っておいて来ます) おお また はよ (早く) 来いよお (来なさい) 言うねんなあ (言うのです)。

またきてくれえ。またきてくれよお また来て下さい。客を送る挨拶。[会話] また来て下さい 言う事 マタキテクレヨオ 言うて。

またくら。またぐら 【名詞】 1) 股座。両股の間また、又になって居る所、物。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗) 安) 2) 物と物の間。[会話] 1) マタクラ 言うんかい (言うのですか) 股をマタクラ 言うてなあ、マタクラい (へ) 入って来て言うて よお言うんなあ (よく言います)。マタグラやなしん (でなくて) マタクラ。マタクラや (だ) 言うて マタグラ 言わせんなあ (言いません)。両方のふともも (太腿) の間を マタクラや (だ) 言うて 2) そして (そうして) きい (木) でも なんでも (なにでも、すべて) 股 (二つに別れて居る) ん (に) なつとると (て居ると) マタクラや (だ) 言うて。股ん なつとると あの マタクラへはさけといて来た (挟んでおいて来た) てやら (とか) 言うて よお言うんかい (よく言います)。木な (が) ふたあつん (二つに) 別れとるとなあ (て居ると) マタクラみた よんしとんない (のようにして居る) あやれ (あれ)

言うて、なんでも (何でも) ひつついとんのな (て居るのが) 別れると マタクラん (に) よおにとんなあ (よく似て居る) 言うやんかい。

またぐらごうやく (またぐらがうやく) 【名詞】 内股膏薬。内股に貼った膏薬が、あちら着いたり、こちらに着いたりするように、定見、節操がなく、その時次第であちらに着いたりこちらに着いたりする事、又そのような人。[会話] うちまたごおやく 言うて あっちやい (あちらへ) 着き、こっちやい (こちらへ) 着きして、あんたな (貴方の) とこい (所へ) いても (行っても) ええよおん 言う。ほかの人のとこい 来ても ええよおん (よいように) 言いすると マタグラゴオヤク あっちやいひつつき こっちやいひつつき 言うて。

またくるわ 又来ます。別れの挨拶。[会話] また、きておくれ (来て下さい) 言うて おお、マタクルワ、言うて。

またこ 又ですか、またえ、またや参照

まだこ まだですか

またこいえ。またこいよ。またこいよお また来て下さい。客を送る時の挨拶。[会話] マタコイエ マタコイヨオ 言うて、マタコイエ 言うのは 同じ位の人同輩のもん (者) になあ、こいよお 言う時は 目下のもん (者) に、目上の人らん (に) 言う時は、また来ておくれ 言うしなあ。

またづて (又伝) 【名詞】 頼まれた伝言を更に他の人に頼むこと。当人より聞かず他の人から聞くこと。

またなあ。またねえ。またのお 人と別れる時の挨拶。

又あいましょう。[会話] また来る 言う事を マタナア 言うたり、マタネエ 言うたりな 別れて またあした (明日) あおや (逢いましょう) 言うよおな挨拶やなあ (です)。マタネエ また 今度ねえ 言うてな。又あおや (会いましょう) 言うの (のを) マタナア 言うて、又あした あおやなあ (会いましょう) 言うの (のを)、マタネエ 言うて マタナア とか マタネエ とか。マタノオも 言う (言います)。そのにげん (人間に) よって 友達やどけや (などには) マタネエ 言うし 目上の人に言う時や (は) マタノオ 言うて。さよなら 言うよおな 意味やけど (だが) 又会いましょお、さよならも そんで (それで) 兼ねとる (ている) わけやわいなあ (わけです)。別れる時ん (に) 言うねよつて (言うのだから)。別れると マタネエ 言うの (のです)。さよなら 又 あした (明日) あおや (会いましょう) 言う意味やな

あ (です) あんで (あれで)。

またのひい (又日) 【名詞】 次に会う日。次回の日。

またひばち (股火鉢) 【名詞】 火鉢にまたがるようにして暖をとること。火鉢を足で抱え込むようにして暖をとること。[会話] マタヒバチ 言うな (のは) 男の人らな (が) 股い 火鉢かいこんで (囲んで) すんの (するのを)、おなご (女) らは、そいな (そんな) 事 しやせんけど (しないが) 男の人らは よお (よく) しとりおったやんかい (していたで有りませんか)。

まだまん 未だ。まだまだ。(三重県)

またむすび (股結) 【名詞】 海女の磯着の腰巻が潜水中に開いたり、まわりついたりするのを防ぐため、後と前とを結び合わせる紐。(志、鳥) [会話] いそなかねの マタムスビ。うわまい (上前) と したまい (下前) の はんぶ (半分) となあ 結ぶの。腰巻きな (が) 吹けん (開かない) よん (ように) 海 行くとなあ ばあつと 吹けるやんない (でしょう)、そんな (それが) 吹けんよんなあ マタムスビ 言うてなあ うわまい (上前) の 真の中と 後ろの真ん中 しばん (くくる) の (のです)。吹けやせんし (ないし) めえやせんし (陰部も見えないし) それ しとく となあ (しておく)。足 広げても 見えやせんね やんかい (見えないのです) そやけど (しかし) そんな (それが) 取れてくとなあ (て行くと) どんじり (尻) も ひんまくつてなあ (まくれて) マタムスビな (が) とれてて (取れていって) かずかれやせんよ お (ない) 言うて、人らな (が) おらん (居ない) と こい (所へ) 行かなあ (なければ) だばし (陰部を丸出し) ん (に) なるもんでなあ (ので) 人のおらんとこ えって (選んで) かずく時な (が) 有るんなあ (有るのです)。

またや 又ですか。度度するので嫌になった時に言う。女性、子供が多く使用する。[会話] マタエ 言うて 今し (今) したのん (に) すぐに これ してくれ (して下さい) 言う、マタエ言うてなあ。マタエ言う人も有るし、マタヤ言うて、女の人な (が) 言う時はなあ、マタヤ言うし、男の人やったら (だったら) マタエ言うしなあ。またですか 言う意味で。おばんこと 一緒ん (に) ねて (寝て) その時代は 電気な (が) 無いし くらがりわい (暗いです)。おばんこ (情婦) な (が) とと (男) と寝て まあして 済んだおもて (思つて) しとんの (しているのに) 又他のもん (者) な (が) よばん しいん (しに) 行て

なあ そして 又 しょおや (しましよう) 言うて かかつてたや (て行ったら) マタヤ 言うて。

まだや。まだやよお まだです これからです

まだやれ まだです。まだだ [会話] かあやん (お母さん) 飯や (は) まだか (まだですか) 言や (言え) ば マダヤレ。

まだら (斑) 色々の色の入り混じった様。

まち (町) 【名詞】 人口の多い家屋の密集している所。

[会話] マチい (に) 遊びん (に) 行こや (行きましよう) 言うてなあ、他所行くと 宿屋い (に) いとて (行っていて) 飯 食うたら、宿屋ん (に) ばっか (ばかり) おらんと (居ないで) マチ いて (行つて) 見てこおや (来ましよう) 言うてなあ。賑やかななあ、商店街な (が) 有る方いなあ (へ) いて (行つて) 見てこおや 言うて ぞめきん 行きおったね (行つて居たのです)。買わんとおって (居て) 見廻すのを ぞめきや (だ) 言うて。

まち (襦) 【名詞】 1) 衣服の布の足りない部分に別に補い添える布。2) 目印 (松) [会話] ① きもん (着物) の マチや (だ) とか、羽織のマチや (だ) とかなあ ② そして たあ (田) 植えんのんなあ (るのに) マチ打つて言うて、なあ (縄) 引つ張つといて (ておいて) それい すんぼ (尺) 当てて マチをなあ 五寸置きなら 五寸置きん (に) してくね (して行くのです)。そして 植えてくんやんかい (て行くのです)。そすと真つ四角ん (に) なんねやんかい (なるのです)。そげんして (そんなにして) 先い (へ) だんどり (準備) すんのを (するのを) マチ打つ言うね 目印 つけん (る) のおを (のを)。きもん (着物) 縫う時でもなあ 縫い間違ひ したらんよ ん (してやらないように) マチ打つて 言うてな、マチ針 打つのも 言うしなあ。マチ入れる 言うて、ひこ (沿え布) 居れん (る) のも マチ入れて 言うてなあ。

まちいしゃ (町医者) 【名詞】 一人で開業して居る医師。開業医

まちうつ 目印をつける。

まちがい (まちがひ) (間違い)。まちがえ (まちがへ)

【名詞】 1) 禍事、不幸、凶事 2) 差し支え 3) 失敗 4) 男女間の不義 [会話] ③ なんやかや 仕事を こげん しよお (こんなにしよう) おもたのん (思ったのに) 違う事 したた (してしまった) マチガイとか、こげんして (こんなににして) 言うたのん (のに) お前な (が) 言うたのと 違うやんかい (違

うではありませんか) 言うの (のを) 間違ごた (がった) やんかい (です) “マチガイ 気違い どこん (に) でも有る” 言うて。ぜに (銭) の勘定しても “おっと マチゴタ 〇やんの勘定” 言うて 勘定間違ごたると (がえてやると) 〇やん 八百屋したり ぼて屋 (担い売り) したり こそがい (闇商い) しょおって (して居て) よお間違いおったんやろなあ (よく間違えて居たのでしょう)。てんぐさ (天草) の こそがい (内密買ひ) して ひとらげや (他の人の家では) こんだけん (これだけに) こおとるよってん (買って居るから) 言うて、そすと 嘘やねえんかい (でないのですか) どこそか (何処かは) こんだけん (これだけに) 売って来た 言うのん (に) 言うたや (たら) いいいん (いやいや) こんだけ (これだけ) やてや (です) 言うて。まぜくなくして (誤魔かし) て やすう (安く) てぐさを 買われた事な (が) 有って 〇やんに ふつつり (絶対) 売られんなあ言うて どいらい (大変) すばくら (誤魔かし) すんの (するのが) 上手なんてや (上手なのです)。あいな (あんな) ひよげ (劇軽) みたよん (のように) して おって (居て) すばくらすんの上手でなあ (です)。すばくら またくら言うてなあ、人 誤魔かすのな (が) すばくらや (です)。人を 誤魔かすと あや (彼は) すばくらで まあ 誤魔かされたよお言うて。
1) 不幸な出来事 わり (悪い) 事な (が) 起こると マチガイな (が) 有った言うて。マチガイおこしてなあ言うて、失敗したるとなあ (してやると) マチガイおこしたて (してしまつて) まあなあ言うて 言う時も 有るんなあ (有ります)。なんか (なにか) 見舞い 言う時ん (に) あんな (彼が) マチガイおこしたて えらい (大変) 迷惑かけたのお (かけました) とか 言う時な (が) あんなあ (有ります) 失敗した時ん (に)。
4) 男とおなご (女) の間のマチガイ。マチガイおこした (してしまった) 言うて 嫁入り前やのん (だのに) あれ (彼) とマチガイおこして (してしまつて) まあ 言うて よお言うやんかい (よく言います)。

まちがいど【名詞】 私生児

まちかた【町方】【名詞】 都会。村方 (農村)、山方 (山村)、浦方 (漁村) に対し町をさす語。[会話] 町の人を マチカタ。山の方の百姓屋の人を やまかたや (だ) 言うしなあ。マチカタの人らな (が) 来て 言うて 町の人らを 言うしなあ。

まちかねた 来るのが遅いので待つのが嫌になる。

まちかねとる 来るのが遅く待つのに苛々している。辛抱の限界に達して居る。

まちかねる 待つのに辛抱出来なく苛々する

まちかまえとる 準備をして待つて居る

まちくたぶれる。まちこがれる【自ラ下ー】 待草臥。長い間待つて疲れる。疲れて嫌になる程長い時間待つ。

[会話] 待つて待つて マチクタブレタ マチコガレタ 言う時も有るし 待てど暮せどこんで (来なくて) 言うて 長い事 待つた くたぶれた (疲れた)。

まちごた 間違つた。(志 (立神)) [会話] マチゴタ時も なっちやら (何とか) したた (してしまった) 言うの (言います)。

まちごとる 間違っている。(志 (布施田)、多) [会話] 違ごとる 言うの マチゴトル。間違いと気違い どこんでも (何処にでも) あられ (有る) 言うて、間違っている それ、マチゴトル 間違とる (ている) 言わせんの (言わないのです) マチゴトル 言うのな あ (です)。

まちちん【待賃】【名詞】 待つてもらった事に対して支払う料金。[会話] マチチン やるわい (あげます)、待つとて (ていて) くれえ (下さい) 言うて。

まちど【形容詞】 待遠しい。

まちどおし (まちどほし)【待遠】【形容詞】 待つて居ても、なかなかその時や事態が来ないのでやりきれない。その時や事態の早く来る事を望んで居る状態を表す語。

まちどし (まちどほし)【形容詞】 まちどおしに同じ[会話] まちどおし 言うのを マチドシ 言うの (のです)。マチドシなあ 言うて、嫁 貰うのん (のに) 樽入れ いとか (何日) や (だ) 言うと、マチドシなあ 言うて、樽 はよ (早く) 入れて ほしのおで (欲しいので) その ひい (日) な (が) マチドシなあ 言うて。待つとんのな (ているのが) つらい言う事やなあ (です) 待ち遠い言うて 待つとんのな 遠い言う事やわい (です)。

まちなか【町中】【名詞】 町の家が立ち並んで居る所。繁華街。[会話] マチナカを おめきもて (叫びながら) 歩いとる (ている) てやら (とか) 裸で歩いとる てやら 言うてなあ、町の一番 にぎやかなとこ (所) マチナカ。

まちば【町場】【名詞】 町のなか。中心部。繁華街。[会話] マチバ 言うのは 町の事を 言うんやろ (言うのでしょう)。マチバい (へ) 行たら (行けば) そいな (そんな) もな (物は) よれやれ (沢山だ) 言うて、町の店 行くと なんやかや (いろいろ)

ろ) よけ (沢山) 有るやんない (有るでしょう) 田舎の方はのおても (無くても) マチバ*い* (へ) いきや (行けば) よれやれ 言うてなあ 町の事なあ。

まちばり (待針) 【名詞】 裁縫で縫う前に、布をとめておいたり縫いどめの印として刺しておく針。普通頭に小さな玉などがついて居る。[会話] 裁縫する マチバリ。針で印ん (に) したり、いごかんよん (動かないように) したりすんの (するのを) マチバリ。頭い (に) ちっちゃあい (小さい) こんころも ついとる しなあ (ています) 紙の のおも (の) 有るしなあ。昔や (は) あいなの (あんなのを) 使わせんし (ないので) 普通の針の へしよおれてた (折れていった) のおやなあ (のとか) わり (悪い) のおを マチバリに しいおったなあ (していました)。あいな 頭の ついとんのおは (付いているのは) よけ (あまり) 無いしなあ めどの欠けてたり (て行ったり) へしよれてたり すんのを (するのを) マチバリに 使いおったの (て居たのです)。

まちびと (待人) 【名詞】 待って居る人。訪れてくる人

まちびと (町人) 【名詞】 山、漁村以外、町に住んで居る人。

まちほおけた。まちほおけたない。まちほおけたれ。まちほおけたわい。まちほおけたわな (女性語)。 まちほおけたわれ 待ち疲れた。惚ける程待った。[会話] 待てど暮らせど こんで (来なくて) 言うて、待つとも (ていても) こんと (来ないと) さいご (その時) 待てど暮らせどきやせんない (来ないのだ) マチホオケタレ 言うて。

まちほおける (まちほうける) (待惚) 【自力下一】 待ちあぐんでぼんやりする。長い時間待つ。[会話] マチホオケル 言うて、待つとも (ていても) 待つとも 来やせんとなあ (来ないと) マチホオケル 言うてなあ。まあ いつから (ずうっと) 待つとんねけど (ているのだが) 来やせんねよお (来ないのだ) まあ マチホオケルよお 言うて、長い事 待つとる (ている) 事。まあ 惚けてた みたいん (ように) なつくと (て行くと) マチホオケルよお 言うて 待ちくたびれた 言う事やわなあ (です)。

まちばけ (待惚) 【名詞】 待ちぼうけ。待ちあぐんでぼんやりする。(上) [会話] マチボケ食わされた 言うて、待つとも (ていても) 待つとも こざった (来なかった) とすとなあ、マチボケ 食わされたよお 言うのなあ (です)。まちほおけ ぼおけ 言わんと マチボケや (です) マチボケ食うたよお 言

うてな。

まちまち 1) 別々に、各自、それぞれに。(志 (布施田)) 2) 各々違って居る事。不揃いのさま。[会話] ₁₎ 皆 それぞれ 言うのをなあ マチマチや (だ) 言うてなあ、いろいろの事をなあ。マチマチにいこや (行きましょう) 言うて、別々ん (に) しょおや (しましょう) 言うのなあ、みんな (皆) そろて (揃って) いきや (行けば) ええんけど (よいが) まっとんのな (待っているのが) えらいよつて (大変だから) まあ マチマチに いきや ええない (よいしい) 言うて、₂₎ 揃わん事も マチマチやなあ (だ) 言う時も有るし いろいろなのおな (のが) あんのを (有るのを) こや マチマチやなあ (だ) 言うて、色な (が) 赤 有り 白が有り 黒が有りすると、形も変わったのな (のが) 有ったりすると こや マチマチやなあ 言うて。

まちやう (まちあう、まちあふ) 【自ハ五】 待合う。待つて居る。

まちよとる 待ち合わせをして居る。

まっか (真赤) 【形容詞】 真紅。真っ赤。赤い色調。[会話] かあ (蚊) でも 尻な (が) マッカん (に) なつとると (なっていると) だんぶくろ (大袋) や (だ) 言うて。

まっかく (真角) 【名詞】 【形容詞】 真四角。正方形。(南) [会話] 四角なのおを (のを) マッカクやなあ (だ) 言うて、正方形なつとると (なっていると) マッカクやなあ 言うて、ちよいと (少し) かたんどると (傾いて居ると) ちよいと (少し) ずれとるやんかあ (ずれて居るでないか) 言うけどなあ (けれど) 真四角ん (に) なつとんのを (なっていると) マッカクやなあ (だ) 言うて、あの畑や (は) ほん (本当に) マッカクな畑や (だ) 言うて。

まつかさ (松笠) 【名詞】 1) 松の果実。まつぼっくり。(志、鳥、桑市、員、四、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) 2) 魚 まつかさうお マツカサウオ科の海魚。全長約十五糎に達する。体は側扁した随円形。体は黄色で大形の堅い鱗が松かさ状に覆う所からこの名が有る。下顎に一对の発光器を持ち、そこに共生する発光バクテリアによって強く発光。肉は食用としてかなり美味。かまぼこの材料にもする。[会話] ₁₎ マツカサ 言うな (のは) 松のもも (実)。肌な (が) わりいて (悪くて) マツカサ みたよなあ (のようだ) 言うやんかい (言います)。ざらざら しとるとなあ (してい

ると、冬ん (に) になって 西の風な (が) 吹くとなあ マツカサみたよん (のように) かさかさして くんの (来るのです)。₂₎ マツカサ 言う 魚な (が) 有るやんかなあ (有ります) こんごふぐ みたよな (のような) のおの (のが) はだ (鱗) な (が) ああらあい (粗い) のな (のが) はだ (鱗) な (が) マツカサみたよん しとるやんかいだ (しています)。

まっかてつか (真赤鉄火) 【形容詞】 非常に赤いさま。

真っ赤なさま。[会話] あっかい (赤い) のおを (のを) 真っ赤なのおを マッカテッカ 言うて、顔でも あっこお (赤く) すると、おおた (おゝ) しゅうてんび (赤く) ん (に) したてやら (とか)、マッカテッカん (に) 顔もして てやら 言うて、真っ赤ん (に) しとると (して居ると)。顔は しゅうてんびん しとる (している) 言う人も有るし、マッカテッカん (に) 顔して 怒って言うたり、酒のおで (呑んで) 酔おて 顔も マッカテッカん (に) なっとたれ (なって居た) 言うたりなあ。

まづき (真搗) 【名詞】 米、麦を製白する時、先に少し搗いて、最後に今一度搗いて精製する。最後に搗く事。[会話] 麦 こづき (小搗) 言うて 麦、唐臼で搗いて 糠 離しといて (離しておいて) こんだ (今度) は マズキ 言うて、もお (もう) ひとくら (一度) 搗くのなあ (です)。

まっき。まっきいよ。まっきよ (真黄) 【名詞】 【形容詞】 混じり気の無い黄色。(志 (布施田)、鈴市) [会話] きいよい (黄色い) と 最後 (その時) マッキヨやなあ (だ) 言うし ああい (青い) と まっさおやなあ (だ) 言うたり、“ま” つけんのなあ (つけるのです)。

まっくながり。まっくらがり (真暗) 【名詞】 【形容詞】 あたりのまったく暗いこと。真の闇。(志 (布施田)) [会話] マックラガリ。おおた 雲な (が) 出て来て 雨な (が) して (降って) マックラガリやよお (だ) 言うて。マックラガリ 言う人と マックナガリ 言う人も あんなあ (有ります)。くながり 言うて、まっくら闇 言や (えば) ええんけど (よいのだが) マックラガリや (だ) 言うて。

まっくらけ 1) 眞暗闇 (上、阿、張、名) 2) 真っ黒なさま

まっくろ (眞黒) 本当に黒い事

まっくろけ 真っ黒な事。

まつげ 【名詞】 睫毛。眼瞼に生えて居る毛。[会話] マツゲはなんも (なにも) 言わせんけど (言わないが)

眉毛はおろす。すんのを (剃るのを) おろす 言うし なあ (言います) マツゲの事は なんも (なにも) 言わせんなあ (言いません)。マツゲな (が) なあがい (長い) とか 短い とか 言うけど (けれど)。あのひたまあ (人は) ねぼさく (よく寝る人) かして (と見えて) マツゲな (が) なあがい 言うて マツゲな (が) なあがい ひた (人は) ねぼさくや (だ) 言う。

まっこ 【名詞】 抹香。沈香。梅檀などをついて粉にした香。今は櫛の葉と皮を乾燥して、細末にする。仏前で焼香の時用いる。まっこう まっかうの語尾の省略。

(志 (片田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、員、多) [会話] せんこ (線香) マッコ 抹香の事。お寺い (に) いて (行つて) 焚くの (のを)。

まつごみ 【名詞】 松の枯れ落ち葉 [会話] たきつけ (火をつける物) ん (に) 使う 松のはあ (葉) マツゴミ。

まっさお (まっさを) (眞青) 【形容詞】 1) まったく青いさま。2) 病気や恐怖などで顔に血の気のないさま。[会話] ₂₎ 色な (が) マッサオや (だ) おとし かつて (怖かつて) まあ言うて。驚いたりなあ、病気しても、あのひた (人は) しんぞ (心臓) な (が) わりねやかなあ (悪いのだろうか) 色な (が) マッサオやなあ (だ) 言うてなあ、蒼白いとなあ マッサオな色 しとんなあ (している) 言うて。

まっさかしま 【名詞】 【形容詞】 眞つ逆さま。逆になっていること。(志 (布施田))

まつざかじま 【名詞】 松阪木綿。[会話] マツサカジマ 言うのは 松阪は 縞を よけ (沢山) およおったやんかい (織つて居たで有りませんか)。松阪の縞はぢい (生地) な (が) よおて (よくて) もちな (が) ええ (よい) ので マツサカジマや言うと ねえ (値) な (が) よかりおったの (高かったのです)。松阪木綿の事 マツサカジマ 言うて、縞な (が) 有名な (で) かつてなあ (有つて) いかついもんで (強いので) マツサカジマで ええねなあ (よいのだ) 言よお った (言っていました)。縞のきい (木) みたよなの (のようなのを) きよおった (着て居ました)。なんも (少しも) 温くみ 無いんけど (ののだが) おもとお て (重くて) いかつい もんで、持ちな (が) ええ もんでなあ。

まっさかり (眞盛) 【名詞】 【形容詞】 全盛 最高の状態 (態)

まっさき (眞先) 【名詞】 【形容詞】 最も先で有る事。マ

サキ(眞先)の音便(大言海)

まっさら(眞新)【名詞】【形容詞】全く新しい事。まだ全然使われたり、触れたりして居ないさま、又その事。まっ、真、接頭語“ま”の下に促音の入ったもの。名詞、形容詞、形容動詞について語勢を強める。さら、新、更参照 [会話] マッサラ 言うのも、あらの(新しい) さんさらやなあ(だ) 言うのも有るし、マッサラやなあ(だ) 言うのも有るし、新しもんをなあ(新しい物を) さんさらの きもん(着物) 着て来ててやら(とか)、さんさらの てのげえ(手拭) 被って来て てやら 言うて。新し事をなあ。

まっしかく(眞四角)【名詞】【形容詞】完全な正方形であること。四角、かどばっているさま。[会話] 正方形の事 マッシカク。

まっしゃ(末社)【名詞】縁続きではあるが、関係の薄いこと。

まっしょおじき(まっしゃうぢき)【名詞】眞正直

まっしろけ 眞小白の状態

まっすぐ(眞直)【名詞】【形容詞】全く曲り歪みのない事。

まっずみ(松炭)【名詞】松の木を焼いてつくった柔らかい炭。(熊) [会話] 松の炭 松、焼いた炭や(です)。雑木で焼いたの(のを) あさずみや(だ) 言うし、いまめの 焼いたのを かしずみ(樫炭) 言うしなあ。きい(木) の かつたい(堅い) きい(木) で焼いたの(のを) かしずみ。ちんちんずみや(だ) 言うてなあ、叩くと ちんちん 言うて なんので(鳴るので) ちんちん炭や(だ) 言うてなあ。いまめ、やなあ(とか) 樫のきい(木) の かつたい のおで(ので) 焼く炭は かしずみで、ええんやんかい(よいのです)、ひい(火) の持ちな(が)。そして あさ炭 言うななあ(のは) 雑木を 櫻や(だ) とか しばや(だ) とか あいな(あんな) きい(木) で焼くのは あさ炭 言うて、安いし ひい(火) の持ちな わりの(悪いのです) じっきん(すぐに) たってくの(のです)。マツズミも あさ炭やわい(です)。

まっそこり【名詞】潮の最も干いた時。(鈴市)

まったい【形容詞】眞正直。疑う事を知らない。また、まうけ参照 [会話] マツタイは さつき(前に、先に) 出て来た まうけと一緒に、人間な(が) まるくたい(丸い) 事ななあ(です)。まるくたいな(のは) あや(彼は) てんぼせん(天保銭) やよってん(だから) 言うわい(言います)。

まっだい(末代)【名詞】遠い先の世。行く末。[会話] 孫 マツダイ迄 忘れやせんわ(忘れない) 言うてなあ 一生忘れられん事な(が) 有ると、マツダイ 言うと 末迄忘れん 言う事をなあ。孫マツダイ迄 こげん(こんなに) 言われて、ごおなわく(腹が立つ) のん(のに) 忘れよかれ(忘れるものか) 言うて。いつ迄も 言うの(のを) 孫マツダイ 言うねよって(言うのだから) 一生一代の事を 言うんやろなあ(言うのでしょうか)。

まっだいもん(末代物)【名詞】末代迄も使用出来るような立派な道具、又、丈夫な道具。立派なもの。

(志(浜島)) [会話] マツダイモンやなあ(だ) こやまあ(此れは) 丈夫でとか、よおて(よくて) とか 言うななあ(のはです) にげ(人間) な(の) 一代も末代も有る 言う事なあ(です)。いかつい(強い、丈夫) とか、よおてとかなあ すると、いかつうて(丈夫で) こやまあ マツダイモン やなあ 言う時も有るし。まあ(もう) よおて こや(此れは) マツダイモン(物) やなあ だいじん(大切に) せな(しなれば) はざんなあ(いけない) 言う時も 有るしなあ(有ります)、代々 孫末代 持つなあ(保つ) 言うのも有るし 丁寧に しとかな(しておかなければ) はざんなあ 言う時も 有るし。丈夫なもん(物) や(だ) 言う意味と 立派なもん(物) やよって(だから) 末代迄 残さな(なければ) はざんなあ 言う意味と ふたとおり(二つの意味) なあ。

まったけ【名詞】1) 松茸。まったけでなく、まったけと促音化される。(員、鈴市、津、一、松、多、度、伊、北、尾) 2) 男根 [会話] 1) 山へ出るのは マツタケ 茸、2) 前へ出るのは ちんぼこ おめこ。松茸言わんと(言わずに) マツタケ 言うて、そげん(そんなに) 言うひた(人は) よれやなあ(沢山です)。

まったけめし【名詞】松茸を入れて炊いた御飯。[会話] マツタケメシ 美味いなあ 言うて。

まったち【名詞】【形容詞】縦に一直線である事。

まったれ 1) 待ってやれ。(志) 2) 待ちました。[会話] 2) 待った事を マツタレ。まあ のおな(お前が) 来るか来るか おもてなあ(思つて)。マツタレ まあ、せえいつばい(出来るだけ) 言う時も 有るんなあ(有るのです)。待ちました 言う時ん(に) まつとたれ(待っていました) 言うのを マツタレ 言うてなあ。1) まあじっきん(すぐに) 来るよって(から) マツタレマア、行かんと(行かずに) 言うて ま

ってやれ 言う事を。

まっち (真土) 【名詞】 畑の赤い色をした土。耕作に適した土。(上、阿) [会話] くろぼく (黒い土) の とか (所は) 土な (が) 真っ黒やし (ですし)、マツチや (だ) 言うて ちょいと (少し) あっかい (赤い) よおな。赤土より ちょいと うっすい (薄い) 色 しとると (していると) こや (これは) マツチ畑や (だ) 言うて うつくしの (美しいです)。

まっちば 【名詞】 燐寸、又はその軸。

まっちたる 1) 祭ってやる。後を弔う。(安) 2) ほころびを直す。かがる [会話] 1) 神さん祭る。佛さんマツツタル。まあ あの家や (は) だれんも (誰も) 後持つ もん (者) な (が) ねえよって (無いかから) おらな (俺等が) マツツタルワ 言うてなあ。マツツタル 後を弔う、後 弔たらな (てやらなければ) あの家や (は) 後見る もん (者) な (が) 無いね (無いの) よってん (だから)、おらな (俺達が) マツツタロヤんかれ (てやりましょう) 言うてなあ。2) きもん (着物) な (が) 引き裂けた時も ちょいと (少し) まっちとけ 言うてなあ マツツタルワ、だれ (どれ) おこせ (よこせ) 言うて。

まって。まってえ 待つて下さい。[会話] 待つてくれ (ていて下さい) 言うの マッテエ 言うね (のです)。

まってん (真天)。まってんじょ (真天井) 【名詞】 頂上。最も高い所。すぐ頭の上。[会話] 畝のマッテンへ 植えとけ (ておけ) 言うて、畝を たっこお (高く) もるやんない (盛り上げるでしょう) そすと、その一番とおげ (峠、高い所) せえ (しなさい、植えなさい) 言う事を すてんべ 植えとけとか 言うてなあ、一番上い (へ) する事を。マッテン 言うこたなあ (事は) 真ん中の いっち (一番) 上をなあ マッテンや (だ) 言うて、頭のマッテンジョ てやら (とか) すってんじょ てやら 言うやんない (言うでしょう)。頭の髪をなあ 高っこお 結うと 頭のすってんじょい (へ) 結うて 言うて 真ん中の いっち (一番) 上い (に) すると 頭のすってんじょい (に) 結うた 言うて。鼻のすってんじょい (へ) すってんべい (へ) 墨付けて そやれ (それ) 言うて 言う時な (が) 有るやんかい (有ります)。

まっと 【副詞】 もっと。更に。もう少し。(志、鳥、桑郡、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊) [会話] まだくれえ (まだ下さい) 言うのを マッくれえ (下さい)。もつとくれえ 言うのを マッくれえ

言う人な (が) あんなあ (有ります)。もつとくれえ とか もおちょいと (少し) くれえ 言うて もおちょいと してから行くわい (行きます) 言うて、よけ使わん (多く使わない) 言葉や (です)。

まっといて。まっといてえ 待つて居て下さい。(鈴市) [会話] マッテクレエ (ていて下さい) 言うの なあ (です)。マッテイテ マッテエ 言うね (言うのです)。マッテエ言うてなあ マッテイテ 言うたりなあ マッテイテエ 言う時も あんなあ (有ります)。

まっとお (まっとう、まったう) 【形容詞】 まじめ。まっとう、全う。またい参照。真当。全くの転。まともなさま。まったい参照 [会話] マットオ。あや (彼は) マットオな にげ (人間) やよって (だから) 言うて 真面目な人 まったい 言うのも、いちがい (一途) な 人や (だ) 言うねよって (言うのだから) あんまり (あまり) わり (悪い) 言葉や (で) ないわなあ (有りません)。

まっとたれ 1) 待っていました 2) 待つてやりなさい [会話] 2) マッタレ。まあ じっきん (すぐに) 来るよって (から) マッタレマア。行かんと (行かずに) 言うてなあ。待つてやれ 言う事を マッタレ 言うてなあ。

まっとて 1) 待つて居て下さい。2) 待つて居て

まっとてえ 待つて下さい。待つていて下さい。[会話] わしも (私も) 行くよって (から) ちょいと (少し) マッテエ 言うてな まっとてくれ (待つていて下さい) 言うのを。

まっとるわ。まっとるわい。まっとるわな (女性語)。

まっとるわれ 待つています。[会話] おお マットルワ。待つております。まっとて (待つていてください) 言うと マットルワイ 言うの (のです)。マットルワ で切る時と マットルワイ 言うて “い” つけんの (つけるのです)。目上の人ん (に) 言う時や (は) マットルワイ 言うて 同じ位の人やったら (だったら) マットルワ言うてなあ マットルワレ言うてな、目下のもん (者) に 言う時やなあ マットルワレ のな (お前が) 来る迄 とかな。

まっとれ。まっとれまあ 待つて居れ。[会話] マットレマア 言うて 待つておれ 言うのを。

まつながした。まつながしたた もつれさせた。絡みあわせた。[会話] マツナガシタ 言うねやわい (言うのです)。まつのらかしたた。マツナガシタ 言うにげ (人間) も有るしなあ。マツナガラシタ 言

うのも あんね (有るのです)。まあ 糸 マツナカシタタや (ら) ほどくのん (に) 半時間もかかった言うて “下手な長糸 上手な小糸” 言うて 上手な人から 短こお (短く) すんねけど (するのだが) ま な あごおして (長くして) マツナガシタノ (てやるのです) じっきん (すぐに)。ぐちゃぐちゃん (に) なって こんがらかつとる (ている) 言う事やわいなあ (です)。

まつながしとる 纏れさせている

まつなかつ もつれさせる。絡みあわせる。

まつながった もつれた。

まつながらかしたた もつれさせれしまった まつながしたた参照

まつながらかす もつれさせる。

まつながらかった 絡みあった。もつれた。

まつながらかした。まつながらした もつれさせた。

まつながる もつれる。(志 (鶴方、神明、志島、甲賀、国府、安乗))

まつならかった もつれた。

まつならす もつれさせる。

まつならした もつれさせた

まつなる 1) もつれる。糸などが絡みあう。(志)

2) 絡みつく。まつわりつく。子供がまとわりつく。

[会話] 1) マツナル 言うて、まつなかしたた (てやった) 言うて、糸な (が) こねこねん (に) なってく と (行くと)、糸も マツナル言うて。網な (が) マツナル言うて。糸な (が) 団子ん (に) なって 端な (が) 有っても 巻かれやせんと (巻けないと) まつなかしたたよお (てしまった) 言うて、まつならかつてた てやら (とか) まつながってたよお てやら 言うて。まつなかしたた とか まつながらしたた とか まつながらしたも 言うし (言います) 同じ事やけど (ですが)。網な (が) まつながってて (てしまつて) てやら 言うて まつのらしたた 言う。

まつのかぶた 【名詞】 松の切り株 (名)

まつのがらかしたた 絡めてしまった。纏れさせてしまった。

まつのがる もつれる。まつなるに同じ。

まつのじん 松脂 まつやね参照

まつのってく 絡めて行つた。纏れて行つた。

まつのってた 絡んで行つた。纏れて行つた。

まつのとる もつれている。絡んで居る。

まつのぼん 【名詞】 薪にする松丸太を二つに割つたもの。

[会話] マツノポン 言うな (のは) 松の丸太を 二

つに割つたのおを (のを) ポン 言うの (のです)。

こちつと (小さく) したると (してやると) 割木。

まつのもも 【名詞】 松の毬。まつぼっくり。まつかさ。

(志、鳥 (坂手)、度、尾、南)

まつのらす もつれさせる。

まつのる もつれる。絡まる。(志)

まつばぐさ 【名詞】 日照草。ひでりそう参照 [会話]

マツバグサの事を ひでりそお 言うて。

まつはやす (松生) 門松の松を切りに行く。生すは忌み言葉 (切る、燃やす)。暮れの吉日に山へ門松を切りに行き飾る事。松囃子と、関係有る語か、松囃子は新春のめでたさと、緑の深い松を囃して祝う、芸能、ハヤスは分割する殖やすを語源とする (志 (布施田、甲賀)) [会話] 松 切る 言うのを、しょんが つ (正月) や (とか) 祝い事い (へ) 使うの (のを) 切る 言わんと (言わずに) マツ、ハヤス言うて。縁起 とるもんで (かつぐので) マツ、ハヤスなあ (です)。マツ、ハヤシん (に) 行て来た (行つて来た) 言うて なあ。

まっぱらか 【名詞】 眞裸 丸裸。全身に何もつけて居ない事。[会話] 裸の事、はらか言うの マツパラカン なるて。

まっびる。まっびるま 【名詞】 昼の眞つ最中。午後十二時頃から二時頃迄。正午に近い頃を漠然と言う。まひるの音便 (志) [会話] 昼ひん なか (昼昼中) 言うのは マツビルの事を 言うて、十二時頃から二時頃迄の事を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

まつもと 【名詞】 松の幹の下の部分。根に近い所。[会話] マツモトか杉うらか言うて マツノモト (根本) や 杉のうらを 割るよおん (ように) なると ふしばつかで (ばかりで) どいらい (大変) 割りのくいんやんかい (ぬくいのです)。

まつやね 【名詞】 松の樹脂。松脂。(北) [会話] やにの事を じんの事を マツヤネや (だ) 言うのなあ (です)。松のじん取つて 松明ん (に) して言うて なあ。ひい (火) つけると ぱつと 付いてくんのな (来るのです) じんは。きい (木) 割つてもなあ、きい (木) わんの (割るのに) 一番えらいな (大変なのは) “松もと杉うらか” 言うてなあ 松の元と杉のうらは割つても 素人は よお割らせん (割れません)。松の元も じんな (が) よけ (沢山) 有つてなあ なかなか 割れやせんの (割れないのです)。そすと (すると) 杉のうらはなあ 節な (が) よけ (沢山) 有つて なかなか よお割らんの (割れないのです)。

まつりごと【名詞】 盆に佛に供える食事。[会話] マツリゴト。今しや(は) 三回喰わしや(食べさせれば) ええけど(よいが) 前にや(は) 四回 喰わしおった(食べさせて居ました) 夜食も。マツリゴト言うて、しょおろさん(精霊様)を盆になると まつるやんない(でしよう) 盆になると、マツリゴトな(が) おいいてなあ(多くて) 言うて、しょんがつ(正月)は、しょおがつどん(神様) だけ まつや(まつれば) ええ(よい) ばかやけどなあ(ただけが) 盆になると、いくくら(幾度) 言うて、食わしたり飲ましたりする やんない。マツリゴトな(が) えらいの(大変なのです) おなご(女)は。盆おなご(女)に、せち(節) 男言うて、盆はおなご(女) な(が) えろおて(大変で) 正月は男な(が) 年始廻りん(に) 行きおったもんで(行ったので) せち(節) 男言うて、男な(が) えらかったの(大変でした)。

まつりとじ。まつりぬい(まつりぬひ)(繕縫)【名詞】 裏に折った布端を縫い進む方向に斜めに針を出して、ごく僅かに表布をすくい、縫いつけること。着物の結びなどに行う。[会話] 正式に縫わんと(縫わずに) きゅきゅと まつんの(縫う) マツリヌイ かがとくのなあ(修理するのです)。

まつる(祭、奉)【他ラ五】 1) 神佛に物を供えて拝む。(志(布施田)) 2) 敬遠する。おだて上げる。[会話] 1) 神さんをマツルとか、2) あの人 タテマツル 言うて、あげて(上げて) うわまう(敬う) 事を タテマツル 言うて。あの人 むつかしねよってん(難しいのだから) タテマツツトカナ(ておかなければ) 言うて、1) 神さんや、佛さんを マツル 言うし しょおろさん(精霊様、先祖の霊) 流しん(に) 行くのも タテマツりん(に) 行く 言うて、流しん行く 言わんと(言わずに) タテマツりん いこや(行きました) う) 言うて。送ってく(て行く) 時だけ タテマツル 言うのなあ(言うのです)。しょおろさん 迎えん(に) 行く 笹舟をなあ 流す時な(が) 迎い(へ) やんかい(です)。今日はまあ そや(それ) 笹舟流す ひい(日) やどお(だ) 言うて、そすと(そうすると) 笹舟ん(に) 乗って来る 言う訳や(です)。 そんな(それが) 迎う(迎える) 訳や(です)、笹舟流しな(が)。しょおろさん 送ってくの(て行くのを) タテマツル 言うのなあ(のです)。今日はしょおろさん、じゅうごんち(十五日) タテマツル日 やどお(だ)、そして 八月のむゆか(六日)は 笹舟流しは、しょおろさんをな 迎う日や。十五日は

タテマツル日なあ。十六日は 地獄の釜も総休み。十六日は ときや 言うて 精進落しやてやら、精進がためやてやら(だとか) 昔や(は) 言よおったけど(言って居たが)。盆中は 精進しとて(して居て) 盆な(が) すんで 十六日や(は) 精進落しのつもりで ときやをまあ 言うて もりきりやけど(一杯だけだが) たてじるして ときや 祭れよお(祭りなさい) 言うて そんな(それが) しょおろさんの別れの ごつつお(御馳走) や(です)。

まつる(繕る)【他ラ五】 着物をほころびを糸で一時的に繕う。(鳥(加茂)) [会話] マツル(繕う) 言うのは ほころび 繕う。ちょいと(少し) マツツトケ(ておけ) 糸で 言うて、縫わんと(縫わずに) きゅ、きゅと すんのを(するのを) マツル 言うの(のです)。毛糸でも まつりとじ するしなあ(します)。正式ん(に) 縫わんと きゅつきゅと マツんの(まつるのです)。まつり縫い かがとくのなあ(ておくのです) まつとけ(ておきなさい) はた(側)の はつれて(ほつれて) 来んよん(来ないように) 言うてなあ。

まて(馬蛤)【名詞】 1) 海に住む二枚貝。略長方形。殻は薄く、殻頂は前端にかたより、左右両殻は密着しない。外面は帯緑褐色、内面は白色。砂泥に深く垂直に潜ってすむ。あげまき貝。(志、員) 2) まて貝に似た薄い長方形の干菓子。(度(小俣)) [会話] 2) マテガラ 言うて かしん(菓子) な(が) 子供らん(に) 喰わすのお(食べさせる物です)。マテ 買おて来い言うて、よお言よおった(よく言っていました)。今しや(今は) あげな(あんな) かしや(菓子は) 無いなあ(有りません) あっさり しとる(して居ます)。マテガラ 言うのは ほっそて(細くて) 子供らん(に) マテガラを 一番に 食べやしおったなあ(食べさせて居ました)。今し みたよん(のように) ぼろがし(ボーロ)も無いし。一銭に(で) いっぽ(一本) ぐらい 買われおったなあ(買えました) 1) マテ 言う貝も 有った。マテガイ。マテガイ 言うのなあ(言うのです)。がいん(たいして) 美味ないけど(が) マテガイ 言うのな(が) 有りおったわい(有りました)。ちょいと(少し) なあ がいけど(長いが) ちげん(に) よお似た(よく似た) 形して。

まてがい(まてがひ)(馬蛤貝、馬刀貝)【名詞】 まてに同じ。(津)

まてがら【名詞】 菓子。まての2)に同じ。[会話] マ

テガラ 言うて かしん (菓子) な (が) ほっそおて
(細くて) 子供らん (に) 一番に 喰わしおったなあ
(食べさせて居ました)。

まてぐさ【名詞】 真天草。海藻。てんぐさ。[会話] て
ぐさは ほっそおて (細くて) ところてん炊く あん
な (あれが) マテグサ。

ましてしばしのない 言ったらすぐ。せっかち。待ったな
し。自制心がなく短気である

まと (的)【名詞】 めあて。目標。目的。

まと【名詞】 魚。かがみだい。まとうだい マトウダイ
科の海魚。全長五十糎にもなる。体は著しく側扁した
随円形 体色は暗灰色で体側中央に白くふちどられた
黒円紋があり、それを弓矢的に見たてたもの。口は
大きく斜め上方に開き背びれ尾びれの後半部に骨格が
ある、かがみだいと混稱される事が多い。(度、鳥)

まといつく (まとひつく)【綴付】【自カ五】 物の周囲に
からまる。からむようにつきまとう。[会話] つき歩
くのをなあ マトイツイテまあ 言うてなあ。彼氏が
彼女に つき歩いてすんの (するのを) マトイツク。
子供な (が) 親に 甘えんのも (るのも) 言うしな
あ。なんやかや からまるのも マトイツク 言うし
なあ。今日はまあ 網捌きな (が) どおらんで (海が
荒れて)、まあ もお (藻) な (が) よけ (沢山) 掛
ってくんのなあ (くるのです) もお (藻) な (が) マ
トイツイテキテ 今日は ひがないちんち (一日中)
掛ったよお 言うて、波な (が) えらい (高い) 時や
(は) なんやかや マトイツイテ くんの (来るので
す) 網へなあ。

まとう (まどふ)【自ワ五】 1) 覆う。身につける。
2) まとわりつく。[会話] ② ツキマトウ。つきまと
とんない (つきまとって居る) 言うて。あれん (彼
に) マトワレテまあ言うて、尻い (へ) つきやあるく
と (付くと) あれん (彼に) マトワレテ 弱ったよお
(困った) 言うて よお言うやんかい (よく言いま
す)。① 着物もなあ (です) ええの (よいのを) マト
ウ 言うて いっちょろ (一番よい着物) マトテ 来
たない (来ました) あやれ (あれ) 言うて。ええの
マタナア 言うねよって (言うのだから) 身につけ
る 言う事やわいなあ (です)。手袋は かける 足
袋は はく。手袋かけて、手袋はいて 言わせんもん
なあ (言いません)。肩かけかけて 言うて 首捲き
の事 かたかけや (だ) 言うて。肩かけ こおてもろ
た (買ってもらった) 言うて 喜んで。

まどう (償う)【他ハ五】 弁償する。つぐなう。埋め合

わせる。(志 (志島、国府)、鳥、四) [会話] マドウ
言うのは 弁償する事も 言うやんか (言います)。
此れうちやったて (壊してしまつて) マドウな (なけ
れば) はざんなあ (いけない) 言うて。弁償せえ (し
なさい) 言う事を。大事のもん (物) かつたのん
(借りて居たのに) うちやったて マドウな はざん
われ (いけない) 言うて 弁償する事なあ (です)。

まどう (まどふ) (感)【自ワ五】 1) 迷う。2) だまされ
た。[会話] ② マドウサレタ 言うのも 有るしな
あ (有ります)。マドウサレタ 言うな (のは) だま
された言う時やなあ (です)。① 迷う事も マドウ言
うて、あっちい マドタリ (つたり) こっちい マド
タリ。どにまよて (路に迷つて) 言うて。よさり
(夜) 昔は あかり (灯火) つけらったもんで (つけ
なかったので) しょんべ (小便) しいん (しに) 起き
ると、どおにまよて 出るとこ (所) 忘れてて (てし
まつて) 床の間い (へ) しょんべ たれたり。昔は
くらがり (暗い) やもんで (なので) 手探りで 行く
ねもんで (行くので) むくつと 起きると 方向な
(が) 判らんよおん (に) なつてくのなあ (なつて行
くのです)。どにまよた 言うて。どにまよお 言う
な (のは) 寝呆けてなあ 行くとこな (所が) 判らへ
んのを (判らないのを) どにまよう言うの (のです)
“夜中 起きして どにまよう” 言うやんかい (言いま
す)。くらがりで (暗い所で) 道に迷う時ん (に)
どにまようとは 言わせん (言いません)。よさりん
(夜に) どにまよた言うて。“あんな男に まよいだ
て しょより (するより) 夜中起きして どにまよ
う” 言う歌な (が) 有りおったわい (有りました)。

まどおい (まどほい) (間違)【形容詞】 じれったい。待
ちどおしい。時間がかかる。[会話] 待ちどおし 言
うのと 違うかい (違いますか) マドオイ言うのは。

まとだい (まのだひ) (的鯛)【名詞】 かがみだい。まと
参照

まどど【名詞】 八丁櫓の漁船の櫓の位置。ともど参照
[会話] 表い (一番先へ) かいどして (そして) あい
ども マドドに 櫓櫓に八丁櫓で 漕ぎおったね (漕
いで居たのです)。

まとはぎ【名詞】 かがみだい。まとうだい まと参照
(志 度、北)

まとまり (纏)【名詞】 統一。整理されること。集団。
決着。[会話] 嫁 貰う時ん (に) まあ まとまった
んてわれ (たそうだ) 言うてな。かと舟 (艀舟) も
かこ (水夫) な (が) のおて (無くて) マトマランで

言う時も 有るしなあ。まとめもせんと（せずに）ほ
って（捨てて）あんね（有るのだ）言うてなあ。整理
せんと（せずに）有る 言う事なあ（です）。それが
出来上った時は マトマリマシタ やんかい（です）。
こんだけの（これだけの）マトマリで 一つの集まり
を 此処の仲間 こんで（これで）マトマツタシ、丁
度ええやんかあ（よいでないか）。あっちゃ（あち
ら）の仲間 まだ マトマラへんねてわれ（ないのだ
そうだ）言うて。あしこい（あすこへ）年寄りの マ
トマリな（が）行かない（行きます）言うて、老人ク
ラブの ひとマトマリな（が）行くやんかあ（行くで
ないか）言うて、一塊り。あや（あれ）同級生な
（が）一塊りん（に）なって いたない（行った）言
うて。ヒトマトマリ 言わんと（言わずに）一塊りや
なあ。一つん（に）まとまると。

まとまる【自ラ五】 1) 決着する。2) 集まる [会話]
1) 相談事な（が）きまる（決着する）時でも マトマ
ル。

まとめる【他マ下一】 1) 一ヶ所に集める。積み上げ
る。2) 決着をつける。きめる。[会話] 1) マトメル
時や（は）つんどけよお（積んでおきなさい）言うて。

まとも【名詞】【形容詞】 1) 本当。（志（布施田））
2) 正面向いて。[会話] 1) 人の言う事を マトモン
（に）せんと（せずに）、わがと（自分が）ひっくり
返す それを こじる。

まともなうって 1) 本気になって、むきになって2)
改心して

まとり（真鳥）【名詞】 立派な鳥の意。鴟の一種。魚群
の上を集団で飛び鳥。

まどろ【名詞】 車海老

まどろい【形容詞】 のろい。動き反応などが鈍い。まだ
るこい。間怠い。手間取ってじれったい。手ぬるくて
はがゆい。頼りない。

まどろくさい【形容詞】 動き反応などが鈍い。臭い 接
尾。いかにもその様に感じられる。その様な傾向を帯
びて居る。まどろこい参照

まどろこい【形容詞】 動き。反応などが鈍い。まどろい
を強調した形。てまどっておそい。のろくてじれった
い。まどろこしい。（志（布施田））[会話] マドロコ
イ てや（とは）マドロクサイ。めんどくさい（面倒
くさい）言う事なあ（です）。ほんまあ（本当に）め
んどくさいわれ（のだ）言う事を マドロコイ 言う
て。ぜんもおけ（金儲け）でも、かと船（鯉船）い
（へ）いけや（行けば）ひとくらん（一度に）どんと

入って来んねけど（来るのだが）こじよおし（小漁師、
一人で漁をする者）しとると（して居ると）一日に
一円か五十銭より ならせんと（ならないと）マドロ
コイナア言うて。こじよおし しとると マドロコイ
よって（から）かとぶねこぎ（鯉船の乗組み員）せな
（しなければ）言うて よお言よおった（よく言って
居ました）。めんどくさい 言うんか（のか）頼りな
い 言うんか。小漁師しとる位では 頼りない言う事
やろなあ（でしょう）。銭にならせんよって（ならな
いから）。マドロイ 言うのな（のは）そお言う場合
は 頼りない言う事やろなあ（でしょう）。手間かか
るし 金儲けな（が）とろおて（鈍くて、少なくて）
生活な（が）しのくい（しぬくい）事を マドロコオ
テなあ、しんしよ（身上、生活）な（が）やってかれ
やせんわれ（やって行けない）言うて。人な（が）仕
事 しとんの（して居るのを）見ても マドロコイ
言うて めんど（面倒）くさがって おおた（あゝ）
こどんな事 見よまあ（見なさい）。おおたえれ（あ
あ、あれ）おもて（思つて）見とるやんない（見て居
るでしょう）。あの人なする事 どんなよお（鈍いの
を）見よまあ おもて 見とんのおを（見て居るの
を）マドロコイよおななあ（ようだ）言うの（ので
す）。あげんも（あんなにも）したや（したら）ええ
のん（よいのに）、こげんも（こんなにも）したや
ええのん おもて（思つて）おもとんのん、もそもそ
もそもそ しとるやんない（して居るでしょう）。そ
やもんで（それで）それを マドロコイよおなれ（よ
うだ）言うて、にぶい 言う事なあ（です）。とろい
とろくさい。

まどろこし【形容詞】 鈍い。まどろしい。

まどろし【形容詞】 まどろしいの文語体。手間が掛って
遅い。反応が鈍い。もどかしい。[会話] まどろこい
なあ 言うのをかい（ですか）。まどろこいなあ 言
うな（のは）なめなめしとてなあ（していて）まどろ
こいわれ まあ。じおし（漁師）も 一本釣りや
（は）一日一円とか二円とか マドロシけど（が）か
と舟（鯉舟）い（に）いきや（行けば）なん十円 言
うて 当って来る 言うのなあ（です）。マドロシ
まあ 一本釣りや（は）言うてなあ。マドロシ まど
ろこい 言うのは なめなめしとて（していて）やや
こし（面倒だ）言うよおな 意味やなあ（です）。

まどわかされた。まどわされた。 だまされた。欺かれた。
[会話] マドワカサレタ言うのは、ちよろまかされて
く（騙されて行く）事をなあ まどわかして まあ言

うて 騙される 言う事やなあ (です)。

まどわかす (まどはかす) 【他サ五】 欺く。騙す。

〔会話〕 マドワカシテ言うて、カドワカス 言う事な
あ (です)。マドワカシテ まあ おらを (俺を) ど
こそいい (へ) 連れてたるわ (あげます) 言うて 煽
ててすんの (するのを) マドワカシテ 言うて、マド
ワカス 言うのは 偽すとか たぶらかす とかなあ。

まどわす (まどはす) 【他サ五】 だます。欺く。困惑さ
せる。正常な思考を働かないようにする。分別出来な
いようにする。

まとわる (まとはる) 【自ラ下一】 からまる。まつわる。

まないた (組板) 【名詞】 魚を調理するのに用いる板。

食物などを包丁で料理するのに用いる厚い板。(三重
県全域) 〔会話〕 子供の喧嘩 まあないた。マナイタ
てや (とは) 料理する板。魚だけやなしん (でなく
て) 野菜でも なんでも 切るやんかい (切ります)。
勝手ん (に) 置いてあんの (有るのを) マナイタ。料
理するための 包丁使う板を マナイタや (だ) 言う
のなあ (です) 野菜切ったり 魚切ったりなあ。

まないたあらい (組板洗) 【名詞】 祝宴の翌日などに世
話人や手伝い人だけで行う慰労宴。正式の招宴後、近
親のみで開く小宴。後片付け、残り物の整理も兼ねる。

(志、桑郡、員、四、鈴市、安) 〔会話〕 マナイタア
ライ 言うな (のは) 一番最後の ごつつお (御馳
走) を。昔や (は) なぬか (七日間) も ひい (火)
くすべんでなあ (焚くそうだ) 言うて。金持ちな
(が) 嫁取りしたり ひちや (七夜、命名祝い) した
りすると あの家や (は) 金持ちやもんで (なので)
なぬか (七日) も ひい (火) くすべんねてわれ (焚
くそうだ) 言うて。七日も てったいんいて (手伝い
に行つて) よばれて (御馳走になつて) しとんのおを
(して居るのを) 七日も ひい (火) くすべんでええ
なあ (焚かなくてよい) 言うて。そして いっち (一
番) しまいに (終りに) なんもかも (何もかもすべ
て) 片付けて まな板も皆あるて (洗つて)。そいな
時ん (そんな時に) マナイタアライ 言うて なんも
かも じっぱん (立派に) しまう (片付ける) まな板
まで 洗うもんで (ので) マナイタアライ 言うんや
ろ (言うのでしょうか)。みんな (皆が) 七日もよば
れて ほんとん (本当に) 一週間も かかりおつたも
んなあ (かかって居ました)。兄弟中は 鮭のこお
(具) を こしらえんのん (作るのに) あさり掘りん
(に) いて (行つて) 幾日 言うて 親戚な (が) 掘
りん (に) いて 桶んなあ (に) 何杯や、こが (樽)

一杯や (だ) 言うてなあ。こんだ (今度は) 炊いて
皆 みい (身) 取つて その身は なんせ (なんと言
つても) ちっちゃい (小さい) こいなのおから (こん
なのから) 身 はずして 鮭のこお ん (に) すんね
やんかい (するのです) そやよつて (それだから) ほ
んとんなあ (本当に) まどろこい事やわい (もどかし
い事です) ややこし事やんかい (面倒な事です)。そ
やけど (それだが) 美味いんでや (のです)。又なあ
あつさりと。そすと 魚のこお (具) 買わんで (なく
て) やんない (でしょう)。あさり掘りも ひいてや
ふつか (一日か二日間) は 行くし、来てから それ
炊いて するやんない (でしょう) ほすと (すると)
茶碗や皿出して 洗うたら (とか) 借りん (に) 行く
てやら (とか) すと (すると) 七日位かかりおつたな
あ (かかりました)。ごんぼ (牛蒡) や人參 よけ
(沢山) 作つとて (て居て) それ 畑い (へ) 掘りん
(に) いて来て (行つて来て) はんざり (半切り、大
きな桶) い、やつといて (入れておいて) ぐるぐる座
ん (に) なつとて (て居て) みんな (全部) あろて
(洗つて) ばんりゅう (籠) へ あげて。濃い家ら
(血縁の近い家では) 一週間は 確かやわな (です)。
そやよつて (それだから) 家では 御飯もなんも (な
にも) 炊かんで (炊かなくて) ええもんで (よいの
で) まあ 火くすべんでええ (焚かなくてよい) 言う
ねやんかい (言うのです)。そすと (すると) こえも
ち (肥持ち、便所の汲み取り) 迄 すんねやんかい
(するのです) しまいにや (終りには)。肥 (便) も
皆な (が) よけ (沢山) して かめ (便壺) ん (に)
一杯ん (に) なつとる (なつて居る) それを こんだ
(今度は) 肥持ちや (と) 言うて 年寄りの人ら 家
で喰う事 (炊事) しとるし (しているし)、若い者ら
(は) 肥 持つて じっぱん 綺麗にせな (しなけれ
ば) はざんかったの (いけなかったのです)。掃除し
て ごみもほつて (捨てて) じっぱん して。としよ
や (年寄り) は それん (に) 喰わすのん (のに) ごも
く (五目飯) 炊くので 人參やごんぼ (牛蒡) や、こ
んにやくや切つて いっしよけんめ (一生懸命) しと
ると (して居ると)、肥 にのて (担つて) 腹へらし
て (すかして) 来て 五杯六杯つ (ずつ) 五目よばれ
て (食べて) そんで (それで) お別れやんかい (で
す)。そやよつて 濃い親戚に ものごと (物事、変つ
た事) な (が) 有つたら 一週間は てつどとりおつ
たなあ (手伝つて居ました)。そやよつて 夏の磯
(海女) 行くよおな日は そいな (そんな) ごつつお

(御馳走) しやへんやんかい (しません) 冬になってから。冬ん (に) になって あさりもおって 掘りん (に) 行くよおな時や (で) なけな (なければ) ごつ つお しやへんやんかい。しょんがつ (正月、一月) か、にんが つ (二月) 霜月 (十一月) か八月 そお言う時期 (頃) やなけな (でなければ) 常は (いつも) は せらった (しませんでした)。八月やどけ 樽入 れ (結納) ぐらいはするけど 式はせらったなあ (しませんでした)。ごつつお よけ (沢山) すや (すれば) あめてく (腐って行く) よって (から)。しょんがつ (一月) か霜月かにんが つ (二月) そいな (そんな) 頃な しゅん (季節) やな あ (です)。今しや (今は) 三月やろな しんが つ (四月) やろな 五月やろな 六月やろな いつでも。彼岸の中日 此処らの人は 彼岸は ものすごお (大変) 嫌うやんかい (嫌います)。そんでも (それでも) そいな (そんな) 彼岸の中日に 結婚式するし やんな (でしょう)。和具やったら (だったら) 彼岸に結婚式したら はざをかれ (いけない) 彼岸な (が) あかな (過ぎなければ) 言うて 彼岸な (に) いらんうちん (入らない間に) 言うて。病院見舞いん (に) 行くのでも 彼岸はきろてな あ (嫌って) しよおったわな (して居ました)。今でも 彼岸な (が) あいてから (過んでから) いかな (行かなければ) 言うて 見舞いやどけ (など) 行くの (のです)。彼岸な (が) あいてから 行くや (行きましょう) 言うて。彼岸に いらんうちん (ならない間に) 早よせな (早くしなければ) 言うて 祝い事はな あ。年忌だけは 彼岸いつてから (入ってから) するけど (けれども)、祝い事の 一番初めは 使い (連絡) な (が) 出て。今日は てったい ん (手伝いに) 来てくれよお (下さい) 言うて使いな (が) 来るやんかい (来ます)。使いなこな (来なければ) 行かれやへんし (行けません)。そして (そうして) 爺さんも婆さんも 子ららも (子供達も) みんな (皆を) 連れて来てくれよお そやもんで (それだから) 皆、子供らも さあ言うて 連れて よばれて (御馳走になって) 家内中な (が) よばれる (招待される) もんで (ので) 親戚の子らら (子供達) 皆知とったけど (知って居たが、今しや (今は) 一人だけより よばせんやんない (招待しないでしょう)。まあ 親戚の子ら (子供を) 一つも (少しも) 知らん の (知らないのです)。そやよって 親戚の子ら (子供は) 知らんねんな あ (知らないのです)。あの家な (が) おやこ (親類) や (だ) 言う事 知らん の。親

戚い (へ) 行く事な (が) 無いんよって (無いのだから)。昔や (は) 箸な (が) いっぽ (一本) 鳴っても 子らら (子供達) も連れて 来いよお 言うて 爺やんも婆やんも 連れて来いよお 言うて 爺やん婆やん 行かれやせんと (行けないと) 家い (へ) もろて (貰って) 来るやんない (来るでしょう) 重箱い (へ) 入れて。そすともあ (すると) 子供ら連れて来い 言うのな (が) 一番な あ、嬉しかりおった (かった)。わがとら (自分達が) いても (行って) 子供らおいといてくと (置いて行くと、残しておく) 罪な やんない (可哀想でしょう)。わがとら ばっか (ばかり) 美味いもん (物) 喰うたてて (食べても) 今しみ たよん (今のうちに) なんでも食べとる (て居る) 時なら、罪 無いんけど (無いが) いしぐら (芋飯) ぐ わしたり (壊したり) とんぼの頭 (麦飯) こねたり しとんねよって (しているのだから)。子供らも連れて来い言うて よんで (招待して) 貰うのな (が) ほん とん (本当に) 嬉しかりおったな あ。一人のつかや (使いは) わがとだけやよってやんない (自分だけだからでしょう)。家の喰う (食事) 用意も せなはざん し (しなければいけないし) 忙しやんない (忙しいでしょう)。昔や (は) すすはき (煤掃き、大掃除) しても 忙しのおに (のに) ごつ つお (御馳走) して 親戚中こばんねやんかい (配るのです)。五目して 忙しておって (忙しいのに) そいな もん (そんな物) こぼって (配って)。そやよって 昔の人な な あ (が) 親の年忌か煤掃きか 言うて そいな 時やなけ な (そんな時で無ければ) 御馳走する 言うこた (事が) なかって、よばれて (招待されて) 行く 言う事も 御馳走貰う 言う事も無いもんで (ので)。そやよって 重箱で 皆 こぼって 煤掃きしても あし こい (あすこへ) こぼる、こつちやい (こちらへ) こぼる 忙して (しくて)。箸な (が) いっぽ (一本) 鳴っても 言うて。ちよいとした (少しの) ごつ つお (でも) 呼んでもらうのを 箸な (が) 鳴っても 呼んでもろてな あ (貰って) 箸な (が) いごく と (動く) 呼んでもろてな あ (招待してもらって) 言うて 喜びおったの (喜んで居たのです)。ほん ま あ (本当に) ごつ つお (御馳走) 言うたてて (言っても) 五目ならな あ 五目、だいこ漬け (大根漬け) ぐらいで、年忌や (だ) 言うたてて (言っても) しらめし (白飯) とふはち、のお (です)。ささげ飯して それい (へ) とふはち、そんで (それで) なぬか (初七日) でも とふはちして とふはちな (が) いっち (一

番) ごっつお やった (でした)。汁と飯だけやけど (だが) 来てくれえ (下さい) 言うて ほんとん (本当に) 汁と飯だけやわいなあ (です)。だいい漬け (大根漬け) と それい なずけ (菜漬け、大根の葉の漬けた物) か あらめな (荒布の刻んだ物) 菜っ葉の炊いたのお位や (です)。sonだけ (それだけ) の ごっつお やけど (だが) 又 sonな (それが) どいらい (大変な) ごっつお やった。昔は 正月やなけな (でなければ) とふ (豆腐) 喰う (食べる) 言うこた (事は) 無かったやんかい (有りませんでした)。正月ん (に) になると、こつごも (小晦、三十日) から とふ屋 (豆腐屋) な (が) 売りん (に) 来て 三銭で一丁買われんね (買えるのです)。真っ角 (四角) あ つつうい (厚い) のおな (のが)。わしら まあ がっこい (学校へ) 三年生か四年生時分 (頃) から とふひき。おつごもん (大晦日、三十一日) になると 朝迄そして 寝ぶとおて (眠くて) せんぎり (沢山) 白い (へ) つられて 寝ぶとりおった (眠って居ました)。朝までえつ (迄) とふひき しよおったね (して居たのです)。とふはち 言うて とふ (豆腐) と葱と 入れるだけやんかい (です)。sonな (それが) ものすごお (大変) ごっつお やったの。どいらい (大変) 美味かりおった (美味しかった)。とふはち よばれて (招待されて) ごっつお やった (だった) 言うて 葬式ん (に) なっても とふはち。葬式 の日は あらめな (荒布) を 磯桶 (海女作業用の桶) 一杯 くざけて (水に浸して) うでて (ゆでて) それい (へ) なあ (菜) うでて とふ (豆腐) つこて (使って) その あらめな と、なあ と まじえて (混ぜて) sonな (それが) 美味いんてや (美味しいのです)。どいらい 美味かりおった。したし (浸し) やんかななあ (です)。それが葬式や (だ) 言うたら 磯桶ん (に) 何杯言うて いっとなね (入って居るのです)。だいい漬け (大根漬け) か なあ漬け (菜漬け) と。五十銭の香資すると 一人の使いで (一人来て下さい) 一円すると 家内中やんかい (です)。家内中な (が) よばれて (招待されて) 五十銭は 一人の使いで そして 葬式に来てくれる人出すね (出すのです)。香資言うて 他門の香資 (血縁の無い人の香資。関係の浅い人の出す香資) 十銭か二十銭位やなあ (です)。そやよって (だから) 五十銭せらったら (しなかったら) よばれられらったもののお (よんでもらえなかった)。二十五銭や (だ) 言うて ほん (本当に) 葬式だけや (です)。葬式いてくると (行

って来ると) 五十銭の家や (とか) 一円の家な (が) 来て 晩ごっつお 食べんねやんかい (食べるのです)。五十銭するひた (人は) 本人一人やけど (だが) 一円すると やうち (屋内、家族一同) な (が) 子供らも一杯来て。とふひき 豆を挽くのやんかい (です)。大豆を くざけといて (水に浸して) 二升三合一箱をなあ (を) くざけると (浸すと) 二十四丁出来んねやんかい (出来るのです)。くざけると (浸すと) よっけんなんね (沢山になるのです)。ほとべて (水を含んで大きくなって) それを 一箱分 挽くの (のです)。大きな臼やった (でした)。大きな臼やもんで (なので) すがらな (手伝わなければ) おもとおて (重くて) わしや (私は) すがつとるし (て居るし) も一人や (は) 孔い (へ) 杓で その豆汲んで、わしや すがつとんねけど (手伝って居るのだが) 寝ぶとなつて (眠くなって) 来て、朝方ん (に) になると 寝ぶりこけて しとりおった (して居ました)。つらましかりおったね (つらかつのです) じょっく (いつも) 呼び出されおて (呼び出されて居て)。団子な (が) 喰いたきや (ければ) すがらんか” (すがりなさい) も一緒に すがる言うのは 一人でしとると (して居ると) おもたい もんで それを 手伝う事を すがる言うの (のです)。ふたあり (ふたり) で すんのを (するのを) すがる 言うの。

まないたば【名詞】 門歯。門歯の大きいもの。[会話] 前のなあ (です) ひいろい (広い) の (のを) マナイタバ 言うて、此の二本を マナイタバ 言うんやんかい (言うのです) 上を。此の横は 糸切り歯 言うて 昔や (は) かちかちと 糸切りおったわい (しました)。

まながつお (まながつを)【真魚鱈】【名詞】 はましまがつお。ぶりもどき。マナガツオ科の海魚。全長約 60 cmに達す。体は著しく 側扁した楕円形で、口が小さい。体色は青味を帯びた灰色で、鱗は極めて小さく、はげやすい。腹鰭はなく、背鰭と尾鰭の基底は長い。肉は白味で美味。(志)

まなこ【眼】【名詞】 目 [会話] マナコ めえ (目の)。クロマナコ (瞳孔) シロマナコ (球結膜) や (と) 言うてなあ。まあ (もう) めえのととな (瞳孔が) 開いてたんでない (開いて行ったそうだと) 言うて、死んでくと (で行くと) とと な (が) 開いてくんやろなあ (行くのでしょうか)。ととな (が) 開いたよって (から) はざん (駄目だ)。海でおぼれたり (溺れたり) なんや (なにか) するやんない (するでしょ

う)。目のととな(が)開いとるもん(て居るから)はざおかい(駄目だ)言うて よお言うね(よく言います)。まあなあ(もはや)ととな(が)開いとるもん(ているから)はざおかれとか、尻の穴な(が)開いてくと(て行くと)。おみ(海)で 死んでも 尻一番に 見たや(ら)尻の穴な(が)開いとるもんはざおかれ 言うてなあ、よお言よおった(よく言っていました)。尻の穴な(が)開いとるもん はざおかれ 言うて。あやまあ(あれは)しまり(緊張力、閉じる力) な(が)無いよおん(に) なってくんやろなあ(なって行くのでしょうか)。そやよって(だから)死に糞な(が)出てくんのかいなあ(来るのでしょうか)死に糞たれた 言うて 仕事してえらいとさいご(大変な時) えろおて(大変で)死に糞たれたよお言うて よお言うね(よく言うのです)。

まなこすえる 凝視する。めえすえる参照

まなこだま(眼玉)【名詞】目玉。眼球。[会話] めえ(目)の真ん中。マナコダまな(が)飛び出したよお言うて、おどけると(驚くと)びっくりした時やなあ(です) おおた びっくりして(驚いて) マナコダまな(が)飛び出したない。マナコダま言うのは 目玉めえ(目)の事なあ。(です)

まなし【形容詞】程なく、まもない事。まあなし

まなじ【名詞】海魚 へだい(志、鳥、四、度、伊、北、尾、熊)

まなず【名詞】海魚

まなむすめ【名詞】大切な娘。可愛い娘。(志)

まなりや マナリヤ【名詞】マラリア。[会話] おこり。マナリヤ。今しや(今は) あいな(あんな) おこりふるわせんけど(ふるいません)。

まにあう(まにあふ)(間合)【自ワ五】1)役に立つ。2)用を足して居る。充分にある。[会話] 1) ケトン巻くやつあ(奴は)浮気もん(者)言うて 何処い(へ)でも ひいて(敷いて)寝やれる(寝られる)、巻いとりさいしゃ(さえすれば)何処でもマニアウひいたり(敷いたり)被ったりして。

まにあう(まにあふ)(間合)【自ワ五】時間に遅れない。

まにあうひと【名詞】1)重要な人 2)役に立つ人

まにあわす(まにあはす)(間合)【他サ五】1)一定の時間までに物事をする。2)代わりの物を使ってその場の役に立てる。[会話] 1) なんも(少しも)マニアワセンネ(ないのだ)言うて。仕事さしても(させても)鈍いし、なん(何)さしても 鈍いと、マニアワセン(ない)言うて、なんも 出来ん(ぬ)事を。2)

マニアワス 言うのは その時ん(に) ちょいと(少し)役立たせる それ以外のもん(物)で、ちょいと(少し)代用さす 言う時も マニアワスや(です)。ぜん(銭)貸してくれえ(下さい) ちょいと マニアワシてくれえ、銀行行くのん(に)今日は時間な(が)無いに ちょいと(少し)マニアワシてくれや(くれれば)ええのん(よいのに)言うてなあ 用立ててくれ(下さい)貸してくれ、ちょいと、ひま(時間、間)言うて 言うのをなあ マニアワシてくれ 言うて、ぜん(銭)貸してくれえ 言うのを。

まにあわせ(まにあはせ)(間合)【名詞】代わりの物を使って、その場の役に立てること。一時しのぎ。[会話] マニアワセ 言うて、まにあわす しなもん(品物)なあ(です)。マニアワセのもん(物)やけど(だが)言うて 代用するよおなもん(物)をなあ。

まにあわせん。まにあわせんわい。まにあわせんわな(女性語)。まにあわせんわれ。まにあわん。1)いけない。だめだ。役に立たない。2)時間におくれる。[会話] 1) マニアワんね(のだ)言うて、仕事 よおせらったり(出来なかったり)なんも(少しも)気な(が)利いた事(気配りの有る事)よおせん(出来ないと)なんも 間に合わんねない(合わないのだ)言うて。仕事 なん(なにを)さしても(させても)よおせん(出来ないと)なんも マニアワセン あいなもん(あんな者が)間に合おかれ(合わない)言うて。仕事よおせん(出来ない)駄目や(だ)言う事や(です)。あいなもん(あんな者)なあ なんか すんのん(するの)に あたまかず(人数)ん(に)それ(その人)を 読み込む(入れる)やんない(でしょう)。あいなもん(あんな者)なあ(は)頭かずやれ(だ)なんも マニアワセンワレ 言うて。物でも 寸に足らん(短い)のおは(のは)こや(此れは)マニアワセンワレ 短こおて(かくて)言うて。そして(そうして)引っ張て見て 切れると こや(此れは)腐っとて(て居て)マニアワセンワレとか いたんどて(傷ついて居て)マニアワセンとか 言うて。役に立たん(立たない)言う事なあ(です)。こいな(こんな)腐っとるもん(物)は こや(此れは)ぼろぼろやれ(だ)間にあおかれ 言うてなあ。2) 時間な(が)はよせな(早くしなければ)マニアワセンワレ 言うて。

まにうける 本当にする。信じる。(志(布施田))

まにおおた 1)間にあった 2)役に立った

まにし(真西)【名詞】1)西風(志(矢安、安乗、志

島、畔名、名田、波切、船越、布施田、和具、越賀、浜島、磯部、国府 甲賀、御座)、鳥(鳥羽、坂手、小浜、桃取、菅島、答志、神島、安樂島、浦村、千賀、堅子)、桑郡、四、鈴市、津、松、伊、度、北、尾)

2) 西南西風(志、鳥(国崎)) [会話] 2) マニシ言うな(のは) まぜ (南) と西との あい (間) から吹いて くんのな (来るのが) マニシ。“マニシと しとらめ (一人者) かげな (が) 無い” 言うて しとらめのもん (者) は 働いて働いて陰日向無し しん (に) 働く やんない (でしょう)。そすと (すると) マニシも 吹いて来ると 西は陰 な (が) 無い い (の) です。どこからでも (どこからでも) きりきり もおて (回って) 来る もんで (ので) そやもんで (それで) マニシと しとらめや (は) 陰 な (が) 無い 言うて。しとらめ 言うて 一人 もん (者)。後家 やなあ (です)。後家や やもめ せんぎり (充分に) 働か な (なければ) はざんもんで (いけないので) 一人 もんやもんで (なので) しとらめ。

まぬき(間拔)【名詞】 1) 作物の間隔を開けるため抜きとること。間引き。(南) 2) 墮胎。[会話] 1) だいいこ (大根) のマヌキ。だいいこ を 間抜いたり 人參を こぬくね (抜くのだ) 言うて、間引く事を こぬき する 言うね (言うのです)。マヌキする 言うのを こぬきもせんと (せずに) 有って 言うて。マヌキも こぬきも 一緒 やけどなあ (だが)、まあ (間) 抜いて あらくとお (粗く) せななあ (しなければ) めせめせん しとくと (しておくと) おつきい (大きく) ならせん (ならない) もんで (ので) こぬいたらな (てやらなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて。2) にげ (人間) でも よけ (沢山) 孕むと (妊娠すると) こぬいたれ 言うて ほんとん (本当に) こぬきやわいなあ (です) 子 抜くねよって (のだから)。よけ (沢山) もおけんと (産まずに) こぬきしたれまあ (してやれ) 言うて。

まぬけ(間拔)【名詞】 1) 馬鹿者 2) する事が普通より劣り外れる事。

まねき【名詞】 海老の尾部。(度) [会話] 海老のマネキ。こお (この様に) まねいたよおん (に) しとるやんない (して居るでしょう)。そやもんで (それで) マネキ言う の (のです)。海老のマネキ あんなあ (あれが) おえぐな (泳ぐのは) こして (こうして、屈伸して) するよって (から) マネキ や (だ) 言う のなあ (のです)。海老食べると マネキ くれ (下さい) 言うて。マネキ や (は) みい (身) な (が) 入っ

とる やんない (でしょう)。マネキだけより どんがら (胴殻) みい (身) な (が) 無いもん なあ (有りません) 味噌喰う だけや (だけです)。又 あの味噌な (が) うもおてのお (美味しくて) そやけど (しかし)。

まねこと(真似事)【名詞】 少し、程度の低い事を表す語。ものまね程度にする物事。まねし参照 [会話] マネコト やなあ (です) 言うて、なんでも あやかした (馬鹿にした、少しの事) よおな事すると ごっつお おしても まあ、ほん (本当に) マネコト みたいな (のような) ごっつお (御馳走) やけど (だが) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。ちよつと した (少しの) ごっつお かたちみいた な 真似 み た よおな それを マネコト み た よな ごっつお やけど (だが) 来て くれえ (下さい) 言うて。

まねし(真似衆)【名詞】 人の真似ばかりする者。真似。まねる事。又形だけ似せる事。(志(鵜方、神明、立神、国府、安乗)上、阿、南) [会話] 人の真似する もん (者) “マネシ万才 豆貰い” 言うて。人の真似すると マネシ や (だ) 言うて。

まねしまんざい、こめもらい。いちにちまあって、こめみつ。【俚諺】 人まねをする者をからかう語。[会話] 人の真似すると マネシマンザイ や (だ) 言うて 真似する にげ (人間) を まんざや (萬才は) ふたあくらつ (二度づつ) 言う やんかい なあ (言います)。ひとくら 言うて その後 も ひとくら (一度) 言いする やんない (でしょう)。そやもんで (それで) まんざいのあと おさえ 言うて 後から 言う にげ (人間) を、まんざいの あと おさや (だ) まあ 言うて 言われるやんかい なあ (言われるのです)。

まのもん【名詞】 魔物。まあのもん。化け物。妖怪。[会話] マノモン 言うのは、判らん もん (物) を なあ。マノモンに 憑かれて 言うやんかい (言います)。体 な (が) めえんと おって なあ (見えずに居て) わざ (悪い事) すんのなあ (するのを) マノモン や (だ) 言うて なあ。ほんとは (本当は) あんのやら (有るのか) しんけえ (神経) で そいなん やら なあ (そんなのか)。昔から めえん (目に) めえんと (見えないと) マノモン みいた なあ (のようだ) 言うやんかい (言います)。

まばい【形容詞】 光りで目がまぶしい。(員、桑郡、桑市、三、鈴市、鈴郡、安、松、上、阿、張、名、伊、南)

まばやい【形容詞】 光りで目がまぶしい。(三、度、

伊) [会話] 眩しい 言うのをなあ マバヤイ 言うの (のです)。おひいさん (太陽) な (が) 照って来たや (ら) あばおて めえやせん (見えない) 言うて。そして 光つとる (ている) もん (物) 着ると おおた、マバヤイよおななあ (ようだ) 言うて。

まびき (間引き) 【名詞】 人工流産。堕胎。生まれたすぐの子を殺す。まびく参照

まびく (間引く) 【他カ五】 1) 不良の物を除いたり間隔を保ったりするため、密生して居る農作物を適当に抜き取る。 2) ロベラしのため、生まれたばかりの子供を殺す。堕胎する。(志 (布施田)、上、阿) [会話] 1) マビク。間を抜く事なあ (です)。あつつう (厚く) よっけ (沢山) しとんのおを (して居るのを) 間引きせな (しなければ) まあしや (それ) よけ (沢山) 混んどられ (で居る) 言うて。 2) 昔 こお (子供) な (が) よけ (沢山) 有ると それ おろしたと (てやると) マビキしたて (してやって) 言うて。なりもん (物) を マビキ時は あつつう (厚く、密生して居る) しとる時に 間をあけんのを (広げるのを) マビク 言うの (のです)。種 おもさま (充分に) やったら (蒔いたら) よっけ 生えて来ると やうちな (全部が) ともおし (共倒れ) やもんで (なので) あいまこいま (あちらこちら) 抜いて 抜きあらけたと (広げてやると) そんな (それが) おっきい (大きく) なる やんない (でしょう) そやもんで (それだから) ぬきあらけな (なければ) はざん (いけません)。マビキとかも言うし こぬきしょおや (しましう) とか言うて。ええのも (よいのも) わりのおも (悪いのも) ごちゃまぜに抜くのおや (ので) なしん (なくて) わり (悪い) のおを (のを) 抜いて、ええ の残して そやけど (しかし) 始めのうちゃ (あいだは) 無茶苦茶ん (に) 抜いたらな (てやらなければ) ちよいと (少し) あらかつて (広がって) 来ると ええ のと わり (悪い) のおと (の) と 判るけどなあ 始めのうちゃ いきなり (考えずに) 抜い (て) いて (ておいて) ちよいと 間隔を見とい (て) いて (見ておいて、計算して) 抜きおった (抜いて居ました)。そして 後で こんだ (今度は) ええ わりを 抜き分けるけど はじめや (始めは) 無茶苦茶に マビクだけなあ (です)。そして こんだ (今度は) おっきな (て) なって (大きくなって) 来ると ええの 置いて (残して) ちっさい (小さい) の抜くんけど (の) が 最初の時や (は) 一面に生えとるもんで (て居るので) 間隔ちよいと 置いて 此处と此处と置いたら、

人参がおっきなる (大きくなる) よおなぐらいの とこ (所) を むしくったんの (むしってやる。抜いてやるのです)。こぬきする てやら (とか) マビク てやら 言うて。人参も こぬい (て) いて こおな (来なければ) 言うて こんでも (それでも) あれも こ抜きすると はあ (葉) ごち (ごと) 食べると おいしい (て) のお ひたしにすると。ひたし しょおったけど (して居たが)。今しや (今は) あいなもん (あんな物) 喰わせんなあ (食べません) 店で じっばなのお (立派なのを) こおて (買って) 来るもんで (ので) 家で作ったのおやどけ (の) 喰わせんの (食べないので) はんぶすてん (に) して。

まひとつ 【副詞】 今一つ。今一步。もう少し。(志) [会話] マヒトツ くれるかな (くれますか)。マヒトツ やるか (あげようか) てやら (とか) 言うてなあ 「ま」つける人な (が) あんのなあ (有るのです) も一つ 言うのを まいっぺん 言うやんない (言うでしょう)。

まひる (真昼) 【名詞】 昼の盛りの時、十二時頃から二時頃迄。[会話] マヒルは 十二時頃から二時頃迄のことを 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。十二時をなあ マヒルやんかあ (だ)。まっびるやんかあ (だ) 言うねなあ (のです)。まっびるん (に) なったてのん (と言うのに) はよ (早く) こんかれ (来なさい) 言うてなあ。まあ まっびるん (に) なってきとんのん (来ているのに) 寝とんねない (寝ているのだ) 言うてなあ。日な (が) かんかんして来ると ま まっびるやどお (だぞ) 言うてなあ。マヒル 言うのを まっびるや (だ) 言うね (言うのです)。

まひるどき (真昼時) 【名詞】 昼の最中

まひるなか (真昼中) 【名詞】 まひるに同じ。

まぶ (間夫) 【名詞】 情夫。夫以外に情を交わす男。

まぶい (眩) 【形容詞】 まぶの形容詞化。眩しい。光が強くて目があけておれない。相手があまり美しい。立派なのでまともに見る事が出来ない。(志 (布施田)、上、阿、伊、南)

まぶし (眩) 【形容詞】 光が強くて目があけておれない。まぶしい。

まぶし 【名詞】 鰻飯。鰻井。混ぜたもの。鰻を飯にマブス (塗) 意 (大言海) (志 (鶴方、神明、志島、甲賀、国府)、鳥 (鳥羽)、員) [会話] 鰻のマブシ。なんやかや こねんのを (こねるのを) マブシ 言うやんかい (言います)。こねて 炊くと それも マブシ炊いとけ (ておけ) とか言うて なんやかや 混ぜるの

おを (のを) マブス 言うて。牡丹餅に 餡マブス 言わせんけど (言いませんが) 餡つける 言うけどな あ (言います)。マブシとけ (ておけ) 言うのは こねとけ 言う事を 言うけどなあ (言います)。マブシとかな (ておかなければ) 片寄り しとるやんかあ (して居るではないか) 言うて。混ぜ合わす事をなあ。鰻のマブシ。鰻井する 言う事を 鰻のマブシ 言うて。井い (へ) すんのをなあ (するのを) マブシして よさや (夜は) 喰おか (食べましょうか) 言うて 井や (です)。今し (今) みたよん (のように) 混ぜらった (混ぜなかった)。鰻井や (だ) 言うて せんと (言わずに) マブシ しょおや (しましう) 言うて、鰻飯やどけ (など) しゃらったんのお (しませんでした)。鰻はなあ (です) 飯にせんと (せずに) 焼いて 井で マブシしょおや 言うて、井飯 今の鰻井言うのを マブシメシ。今しゃ (今は) ごつつお (御馳走) ん (に) になると 鰻飯すんのな (するのが) えてこいや (おはこ、十八番です)。鰻飯に てこねに五目 (加葉飯)。五目 言うて 最低やなあ (です)。さあ (いざ) 言うて てっ取り早い (簡単に出来る) 鰻飯とてこねと、五目はちよいと (少し) さんの字やなあ (です)。夏は すもじ するけど (するが) 五目や (だ) 言うて じっさん (すぐに) いたむ (腐る) もんで (ので) 酔入れて すもじして。さんの字 だまあ (それは) 三番目や (だ) 言うねわいなあ (言うのです)。鰻飯に、てこねに、五目や (だ) 言うてさんのじい (字) やわいなあ。一番まずいね (のです)。昔や (は) いっち (一番) ごつつお (御馳走) やったけど (だったが)。今しゃ (今は) てこねか鰻飯か一番人気な (が) ええの (よいのです)。そして てっとり早いもんなあ (のです)。五目や (だ) 言うて 刻まな (なければ) はざんやんない (いけないでしょう)。鰻飯や (だ) 言うて たのどて (頼んでおいで) 焼いてきや (来れば) 飯 炊いて こねや (こねれば) ええだけや (よいだけです)。せわなやんかい (面倒です) その 刻むのな (が)。そすと (そうすると) 鰻飯や、てこねや (だ) 言うて 飯さい (さえ、だけ) 炊けや (炊ければ) 魚 すえやええし (入れればよいのです) 鰻や (は) 焼いてもろて (貰って) 来るし。鰻 焼いてくれて したじ (つけ汁、たれ) も ちゃんとしてくれるもんで (ので) 御飯 炊いて 御飯な (が) ひやがったら (水分が無くなったら) したじ入れといて (ておいて) 鰻 マブシさいしや ええんよって (よいのだから) せわなない (面倒で有り

ません)。そやよってん (それだから) ごつつお や (だ) 言うて せわな無いもんで (面倒でないのです) (手間が掛らないのです) 鰻飯か、てこね やんない (です)。ごつつお どき (の時) にや (には) てっとりばよおて (早くて) うまいもん (物) さい (さえ) しゃあええね (すればよいのです)。

まぶす (塗) 【他サ五】 混ぜる。混合する。ふりかける。マミルの他動詞 (大言海) まぶし参照 (志 (布施田、鶴方)、鳥)

まぶれる 【自ラ下一】 物が一面につく。マミルの訛 [会話] マブレル。一杯まぶす事やけど (だが) まぜくり返す 言うんなあ (のです)。まぜ込みや (だ) とか、まぜくるとかなあ まぜ込んだれ (でやれ) 言うてなあ。

まべ。**まべがい** 【名詞】 ウグイス貝科の二枚貝。殻長 20 cm位斜後腹方へ伸び形から鳥を想像させる。真珠養殖の母貝として利用する。

まほ (真帆) 【名詞】 主帆 主になる帆。弥帆など補助になる帆に対し言う。

まま 【名詞】 飯。ウマウマ (旨旨) の略 (大言海) (志 (片田、浜島)、鳥、桑市、三、四、鈴市、安、津、一、久、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南) [会話] 飯の事をママ。ママ喰わな (食べなければ) はざんどお (駄目だ) 言うて 子供らん (に)。はよ (早く) ママ炊け言うて、がに (蟹) な (が) 泡吹いて来ると “がによ ママ炊け おや (俺は) 汁炊くに” 言うて 遊びよおったんなあ (遊んで居ました)。

まま (儘) 【名詞】 思いのままで有る事。勝手気儘。(阿) [会話] キママ。わがと (自分) そこらのもんも (其の辺の物も) ママん (に) しとんねない (して居るのだ) 言うて、キママ ワガママ言うて。自分勝手 (思うように) しとる (して居る)。自分勝手に なんもかも 皆 わがもん (自分の物) に しとんのおを (して居るのを) わがとな (自分の) ママん (に) しとんねない 言うて。喰うもん (物) でも金でも なんによらず (なにでも) 自分な (が) したいよおん (に) しとんのおを (して居るのを) ママにして。

まま 名詞について、その物と共の意を表す。

ままおや 【名詞】 継父母 [会話] 後妻で こちらに本妻のこお (子) な (が) 有るやんない (でしょう) それを ママオヤ 言うの。(のです) “後妻、悪妻 ぬすつと (盗人) はんぶ” (半分) 言うて 昔や (は) 後妻にや (には) 行くもんやないわれ (もので

ない) 言うて。

ままこ (雑粉) 【名詞】 1) 飯を炊き損じた時の米の中心の芯。2) 粉を練った時、その中に有る粒状のもの。(上、阿) [会話] ₂) ママコ 言うな (のは) こお (粉) こねると 粉なかつたって 水で とけんとなあ (溶けずに) 粉で その儘おると それを ママコ や言うの (と言うのです)。ママコな (が) 出来とられ (て居る) 言うて。てんぷら したりすると えご つと (充分に) 粉こねる やんない (でしょう)。水でこねると、どろどろん (に) なるやんない。それが 水がなあ (水が) まあらんと (いきまわらずに) 粉だけ塊つとると (て居ると) それを ママコ 言うの (のです)。

ままごと (飯事)。ままごとあそび 【名詞】 子供が玩具などを用いて炊事や家庭のまねごとをする遊び。(松) [会話] ママゴト 言う と 子供らな (が) 飯炊いた真似したり 汁 炊いた真似したりすんの (するのを) ママゴト。浜 いてなあ (行つて) 石をもて 来て (持つて来て) 二つ並べて こっちゃいも (こちらへも、後ろへも) やつて くど (火を焚く所) こしらえて、栄螺の殻やとか (だとか) 帆立貝の殻 拾て 来て (拾つて来て) 鍋にして それで御飯炊くの (のを) 真似すんの (するのです)。真似して きい (木) も くべて (焚いて) 家のかあさん (母親) のするよおん (に) して 真似すんのなあ (するのを) ママゴトや (だ) 言うて。茶碗も箸も ちゃんとして (きちつとして) 食べる真似して しよおったわ (して居ました)。それ ママゴトや (だ) 言うて。人形 (にんぎょ) さんで 遊ぶのは でこごと。食う事 真似すんのを (するのを) ママゴトや (と) 言うて。ちよいとした (ちよつとした) 家庭へ行くと 子供のママゴトみたよな (のような) しよたい (所帯) や (だ) 言うやんかい (言います)。こおぜい (小人数) の 家んのおを (ののを) こららな (子供が) ママゴトする くらいやなあ (だ) 言うて。わしら (私) 蚕豆な (が) 出来て来ると 蚕豆 盗みん (に) 行て来て 畑い (へ)。その豆を 栄螺の殻へ入れて 潮 (海水) 汲んで来て 炊いて喰うと 美味いもんで (ので) よお (よく) 炊きおったやんかい (炊いて居ました)。わしら (私は) 笹の枝 とて来て (取つて来て) それい (へ) さいて (刺して) 焼くね (のです)。焼いて 喰いおった (食べて居ました)。**ままだい (飯代) 【名詞】** 飯の代金。食費 [会話] ママダイ 言うて 飯代の事かい (ですか)。めしだい

も 置かんと 言うけどなあ (言います)。飯代も おかんと とか、えさだいも 置かんと とか言うて。飯の事を えさや 言うて えさだいも 置かんと 言うて。めしだいも 拂うんかれ (拂っているのか) 言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。

ままたき (飯炊) 【名詞】 飯を炊くこと。[会話] 飯炊き。わたしや 此の家の ママタキ おなべ。御飯炊く事 飯炊き 言うんなあ (言います)。夕飯も炊かな はざんわれ 朝飯も炊かな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて、めしなあ (です)。葬式なんかの時や (は) はよ (早く) 飯炊き 頼んで来い言うてなあ、めしたき 隣の人ら たのんどかな (頼んでおかなければ) はざんわれ 言うてなあ、よおけ (沢山) の時ん (に) 炊いてくれる人を頼んで来るやんない (でしょう)。その人らを めしたき 言うてなあ。

まままママ。まままままれ 【感動詞】 驚いた時に発する語。(志 (布施田)) [会話] どんな事 (鈍な事、失敗) したり、撒けたり (てやったり) 今し (今) 持つとんのおな (持つて居るのが) こぼれてく (て行く) よおん (に) して来ると ママママ ひまのかあやれ (大変だ) 言うて。そげん (そんなに) 言うとる (言つて居る) うちん (間に) まけたるやんない (こぼしてしまうでしょう) ママママ まけたたれ (こぼしてしまった) 言うて。ママママ おおたえれ (やれやれ) こげな (こんな) 事して 言うて。下手な事したると (してやると) マママママケレ 言うて、マママママケレ こいな (こんな) 事 しとんない (して居る) 言うて。失敗して びっくりした時も有るし 立派なのお (のを) 見た時も ママママ こや (これ、呼び掛け) こんな (これが) ええよお (よろしい) 見よまあ (見なさい) 言うし、わりもん (悪い物) でも ママママ こいなもん (こんな物) 見よまあ (見なさい) こやあれ (これ) 言うて。せんざり 探したや (よくよく探したら) ママママ こいなどこんあんな (こんな所に有った) てやら (とか)。驚いた時に 始めの言葉やなあ (です)。ママママ 言うて そして (そうして) なんやかや、うしのたても (失つてやつても) せんざり 探しても 無いやんな (でしょう) そんな (それが) ひよつと出て来ると、ママママ こいな とこん 有ったのん (に) せんざり 探したのん (て居たのに) 言うて。

ままよ 【感動詞】 1) 何ともなれ 2) 何となろうと構ねぬ

ままんする 自由にする 気儘にする

ままんなる 自由になる。気儘にふるまう。

まみず (まみづ) (真水) 【名詞】 使ってない綺麗な水。

混じりもののない水。[会話] マミズは どんだけ (どれだけ) でも 綺麗なよって (だから) こやし (肥料) にならへんやろ (ならないでしょう)。

まみなみ 【名詞】 南風

まみれる (塗) 【自ラ下】 濡れて汚くなる。

まむかい (まむかひ) (眞向) 【名詞】 真正面

まむき (眞向) 【名詞】 正面を向いて居る事

まむけ 1) 正面に有る事、対面にある事。2) 逆風。

正面から来る風。

まむし 【名詞】 蛇類の総称。(志 (越賀)) [会話] マム

シ 蛇の事。蛇の事をマムシ。此処らの人ら (は) どげな (どんな) 蛇 見ても マムシ 見ても、皆、マムシや (です)。くちなえ (朽縄) 見ても ふくのり 見ても マムシな (が) おられ (居る) 言うて。ふくのり 言うな (のは) 茶色の こまかあい (小さい) ほっそおおい (細い) のおなあ (のです)。ちっちゃい (小さい) のおを (のを) ふくのり 言うね (のです)。まだ ふくのりやれ (だ) こや (これは) 言うて。ちっさい (小さい) のを ふくのりや (だ) 言うて、からすぐち 言うのは 色な (が) 付いたり しとるし (して居ます) 螻や (だ) 言うて 頭な (が) 三角ん (に) なつとんのおを (なつて居るのを) オナゴマムシ (雌螻)、そして オナゴマムシは どんぼ短い (太短い) やんかい (です)。そやけど (それだが) そいなこた (そんな事は) 言わせんの (言わ無いのです)。なんでも なあがいもん (長い物) 見ると マムシや言うね (と言うのです)。すじくちなわ でも なんでも 種類とわんと ねずみとり (青大将) でも マムシやし (です)。ねずみとり 言うて すじ (條) な (が) 有る どいらいの (大きなのです)。

まむしいちご 【名詞】 野苺。へびいちご。へびいちご参

照 [会話] 山桃みたよおな (のような) あつかい (赤い) ねえけど (のだが) 裏な (が) しいるおて (白くて) 潰すと びしゃんとなつてくの (なつていくのを) マムシイチゴや (だ) 言うて。

まむしゆび (螻指) 【名詞】 1) 拇指が蛇が頭を持ち上

げたように曲がる指。(員) 2) 拇指頭が横に太くなって居る指。[会話] 2) マムシユビ 言うな (のは) 親指な (が) 螻のかたん (形に) しとんのな (しているのが) 有るやんかい (有ります)。ひらくとお (平らに) してなあ おなご (雌) 螻の頭 みたよんな

(のように) ぴたんとしてな そげな (そんな) 人な (が) おるんなあ (居ます)。ここな (根元が) ほつそおてな (細くて)、ここん (先の) とこ (所) な (が) ふくれてなあ ほがい (頬) な (が) 張ったよん (ように) 三角みたよん してなあ おなご螻の頭 や (だ) 言うて よお (よく) 言うんなあ (言います)。

まめ 【名詞】 1) 忠実。まじめによく働く事。面倒がらずによく働く。誠実で有る事。2) 健康で有る事、又そのさま、達者。壮健なるをマメなると言うは丸実 (マルミ) の屈せるなり。大豆を訓ずるも円実 (マルミ) の義なり、丸実とは疵なる欠なきなり。(伊勢の浜萩) (志 (志島、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥、桑郡、桑市、員、鈴市、亀、安、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、南、熊) [会話] 2) 体な (が) 健康な事を、おおた (あゝ) マメでええなあ (よいですね) 言うの (のです)。マメなかい (ですか) 言うて。病院へ来ととも (来て居ても) マメでええなあ (よい) 言うて 病院来とるもん (来て居るから) マメで ええなあ 言うて。年寄り (老人) は 病院へ一人で通う 言う事な (が) マメな事や (だ) 言うて。家で寝たきりん (に) しとんねやつたら (して居るのだったら) いかんけど (いけないが) 病院へ一人でよお通う 言う事な (が) 老人は マメなと (だと) せんならん (しなければならぬ) 言うて。1) マメに働く。よお 働くのを コマメに働く 言うて あのおなが (女は) コマメに よお (よく) 働いて言うて。マメに はたらめ (側目、他人の見る目) な (が) 言う言うて 言うなあ (言います)。コマメとか マメとか よお働くのを。真面目に こまごまと かすりごと (影日向) なく よお働くなあ (よく働きます) 言うて 働きもん (者) の事や (です)。あひた (人は) マメな人や (だ) よお働く人 や (だ)、こまごま、よお働くなあ 言うて 影日向無しに働く言う事や (です)。マメなかな (ですか) 言う時は 健康ですか 言うて おおた マメでええのお (よいですね) 言うて、久し振りで会うと 言うやんかい (言います)。神さんへ 頼むのん (に) マメそくさい (で) ありますよおん (に) 言うて マメそく さい、健康なよおに 言うて まいんのなあ (詣るのです)。

まめあじ 【名詞】 めあじ 目鯨 アジ科の海魚。全長 39 cm程になる体は高く側扁し、特に目が大きい。体色は背面が青く、腹面は白く体側中央に幅広の黄色帯が

一本有る、美味。

まめいた【名詞】 1) 豆粕。大豆粕。2) 砂糖板の中へ大豆を入れた菓子。(上、阿) [会話] 1) マメイタ言うて 昔や (は) さしわたし (直径) 一米ばかの (ぐらいの) 大きな まあい (丸い) のおな (のが) 有って、それを 鉦でこついて こやし (肥料) ん (に) しよおったねやんかい (して居たのです)。マメイタ 言うて 麦のこやし、たあ (田) のこやし あちやら (あちら) の方から、廻って来よおったんやろなあ (来て居たのでしょう)、こちらは 豆 作るし。豆粕 言うて しぼり粕 言うて 締めたのおを (のを) 自動車のタイヤみたよん (のように) してそれを こやしに うくってきおった (送って来て居ました)。それを 鉦でこついて 削って 臼で搗いて 麦い (へ) ふりおったの (振って居たのです)。麦い (へ) したり、たあ (田) い (へ) したり マメイタ よお (よく) 効きおった (効果が有りました)。豆で油を取ったて (取ってやって) それ 締め粕ん (に) して 締めたのおを (のを) こやしに もてくんねやんかい (持って来るのです)。2) お菓子で マメイタや (だ) 言うのなあ (のです)。マメイタ くろざと (黒砂糖) 炊いて 固めて 此のぐらい (此の位、約直径五糎) ん (に) して マメイタや (だ) 言うて。くろざと (黒砂糖) を 炊いといて (ておいて) その中い (へ) 豆をまぶすね (混ぜるのです)。一糎位の厚さにして マメイタや (だ) 言うて 美味いなあ (です) あやなあ (あれば)。

まめうち (豆打)【名詞】 節分。または大晦日にする豆撒き。(志、鳥) [会話] 正月のおつごも (大晦日)。昔や (は) おつごも ん (に) しよおったけど (して居たが) 今しや (今は) まあ 節分にする家な (が) おおなって (多くなって) 来たけどなあ (来ましたが)。おつごもの マメウチか 言うて あらくさあらくさ ううん臭い 言うて 富は内 富は内 言うて 寝間い (に) 打つのは 言うんなし (言うのです)。内い (へ) 打つのはな 福は内、外い打つのは 鬼は外 人その家ん (に) よって 違うけどな (けれど)。

まめうつ 節分。大晦日に豆撒きをする。

まめかす (豆粕)【名詞】 1) 大豆から油をしぼり取った後の粕。肥料や飼料にする。豆板。2) 大豆を石臼で挽き、黄粉を取った残り。[会話] 2) マメノカス。豆のこお (粉) 挽くとなあ その粕 ほばよおったん なあ (頼張って居ました)。みい (身) は 黄粉にし

てなあ 黄粉 振るたた (てしまった) 後をなあ マメノカスくれ (下さい) マメノカスくれ 言うて。1) マメカス言うので 油しぼった後 油粕 あや (あれば) 豆板 言うてなあ 鉦で削って 唐臼で挽いて ふる (振る) よおんする (ようにする) 肥料やったん やんかな (でした・有ったで有りませんか)。豆板 麦い (へ) ふるのん (振り掛けるのに) 麦のねごえ (根肥) ん (に) なあ (です)。大きな タイヤ位も 有る 大きな豆板 やったなあ (でした)。

まめがら【名詞】 豆を取った後の殻 (莢、茎、葉)

まめぐ まめぐるに同じ。

…**まめぐり** 文末、語末について、それが一面に付くさまを表す。まみれる (志 (布施田)、鳥 (鳥羽)) [会話] 言葉の後ろいつく マメグリ。泥マメグリや (だ)、灰マメグリや 言うのはなあ まあ一杯 いろんな物を きたのお (汚く) 汚れたのおをなあ (のを) マメグリ 言うね (言うのです)。灰マメグリ言うね、灰で 一杯になって、泥まみれん なったの (のを) だろマメグリん (に) になって 言うて マメグリ 言うね。泥マメグリん になって言うたり、土マメグリや (だ) 言うてなあ。灰マメグリやんかあ (でないか) 言うて、ひい (火) 焚くとなあ 餅 焼くのん (に) じょおふち (両縁) い (へ) 立てかけると ぱんと ふくれて来ると 灰マメグリん になって。

まめぐる 一面に塗りつける。まみれさす。まぶす。こねる。混ぜる。まぶす参照。(志、北) [会話] こねる事を マメグル。子供らな (が) 泥や土 付けて やんない (でしよう)。そや (それ) 土まめぐりやれ (だ) 泥まめぐりやれ (だ) 言うて まめぐって来る 言うの (のです)。付けて来る事を マメグル。

まめこおどる 年を取って居る。節分の豆を回数多く食べている。豆を噛んで居る。[会話] にげ (人間) でも マメコオドデモ (でいても) ちっさいと (小さいと) あや (彼は) なんきん (ちび) (南京南瓜) やな あ (だ) 言うて。

まめす (塗)【他サ五】 混ぜる。塗る。

まめぞ。まめぞお (まめざう) (豆蔵)【名詞】 足が短く背の低い人。(志 (布施田)) [会話] マメゾオ言うな (のは) 足な (が) 短いやんかい (です)。

まめそくさい【名詞】 無事。息災。何事も無く達者で有る事。体が丈夫な事。達者で無事な事又そのさま。(鳥、員)

まめちゃ (豆茶)【名詞】 豆科の植物。カワラケツメイの枝、葉、莢などを干し 茶の代用とするもの。 河

原決明 マメ科の一年草。高さ30～60cm全体に細毛を生じる。葉は偶数。羽状複葉で長さ3～7cm各小葉は約8mmの狭長随円形で夜になると閉じる。8～9月葉腋に小さな黄色の五弁花を開く莢は長さ3～4cmの扁平な長随円形で斜めに立つ。陰干しして、茶の代りにし、漢方で利尿剤とする。乾地に生える。[会話] マメチャ 言うて 作りおったやんかな (作って居ったで有りませんか)。普通のお茶や (で) なしん (なくて) つくんね (作るのです)。ほおきぎ みたよん (のように) ほっそお (細く) はあ (葉) な (が) なんねてや (なるのです)。それい 秋ん (に) になると もも (実) な (が) なって来てなあ。きい (木) も、はあ (葉) も、もも (実) も 押し切りで 切っといてなあ (ておいて) そしといて (そうして) 飲むの (のです)。美味ね (のです)。どいらい (大変) 匂いな (が) よおてなあ (よくて)。

まめつむ 豆を噛む。食べる。[会話] 八十婆さん マメツムよおん ぼつりぼつりと。

まめでええのお 元気でよろしい。[会話] 元気でええなあ (よいですね) 言うのを マメデエエノオ 言うてなあ。

まめな 1) 健康だ、元気だ。2) よく働く。(志 (布施田))

まめなかい 元気ですか。[会話] 元気かな (ですか) 言うのをなあ マメナカイ 言うの (のです)。

まめなかつたかい 元気でしたか。[会話] マメナカッタカイ言うて、他処から来て たま (久し振り) に逢うと マメナカッタカイ言うて。おお、のも (お前も) マメナカッタカ 言うて。

まめなかな 元気ですか。挨拶の言葉。(北) [会話] 元気かな (ですか) 言うのをなあ マメナカナ言うの (のです)。おおた 久しのお (久し振りです) 家の爺やんも マメナカナ 婆やんも マメナカナ 言うて。マメナカッタカイ (元気でしたか) 言うて 他処から来て たま (久し振り) に逢うと マメナカッタカイ言うて、おお、のも (お前も) マメナカッタカ 言うて、まめでええのお (元気でよいですな) 言うね (のです)。元気でええなあ (よい) 言うのを。とふ (豆腐) 屋の豆な (が) “わし程 ゆうがな (因果) 者は無い 朝は とおから (早くから) 起こされて 水責め、火責めに あわされて 水責め 火責めはいとわねど しる (汁) の無い程 しぼられて、おまけに残った粕までも 一文二文の掴み売り 親はいずくと 尋ねたら 親は畑でまめでおる” 言うて 豆の

きい (木) ん (に) なつとる (なっている) もんでな あ (ので) 畑で まめでおる 言うて。

まめに【名詞】 1) 真面目に、忠実に 2) 元気に 3) 頻繁に

まめになる 病気から快復する。元気になる。[会話] ぐあいな (調子が) わりいて (悪くて) マメンナッタナア言うね (言うのです)。元気になったのを まめんなってよかったのお 言うて。

まめのこお(まめのこう)(豆の粉)【名詞】 大豆の粉。きな粉。こおは、こう こ(粉)の延 [会話] きな粉 大豆のこお (粉)。大豆をなあ ほおろくで 焙つといて (ておいて) 臼でひいて (粉にして) ふるて (振って) そして マメノコオ きな粉。ぼぼ (性交) した ちんぼ (男根) へ 豆の粉 振りかけ 左へ捲いたら団子の形に よお (よく) 似た もん (物) やな (だ)” 言うて。

まめのめし【名詞】 豆を入れた飯。小豆、大豆、豌豆、蚕豆を入れる。(志 (鶴方))

まめはやす 豆撒きの豆を煎る。(志 (甲賀)、鳥 (国崎) [会話] 豆 煎る事をなあ。ほおろくで 煎るのに マメ ハヤス言うて、煎る言わせんのなあ (言わないのです)、はやす 言うて 正月言葉や (です)。つね (平素) は 豆 煎る 言うんけどなあ (言うのだが) 豆 打つのおを (のを) 煎るのを マメハヤス。マメハヤスのんなあ (に) 豆と、なすび (茄子) と、ただみと、いめと ぱちぱち ぱちぱち言うて焚くのな (が) ええのでなあ (よいので)。そして “し” やどけ (などの) の付く言葉 つこたら (使ったら) それこそ怒られんねやんかな (るのです) 縁起な (が) わり (悪い) もんで (ので) 昔の人ら 縁起とつて (かついで) マメハヤスよおん (ように) になると 緊張ん (に) かんまえてなあ (かまえて) よけ (あまり) 喋んな (喋るな) 言うて 喋ると わり (悪い) 事、喋ったるやんない (でしょう)。そやよつて (だから) 子供らは あっちゃい (あちらへ) いとれ (行っておれ) 言うて マメハヤスうちゃんあ (間は) どいらい (大変) 緊張しよおったの (して居たのです)。豆 うったり 水 あげたりする時や (は) とおさん (主人) 紋付き 羽織り袴で そして、なつとも (なんとも) 喋ったら はざんの (いけないのです) どん (下手) な事 喋ったる (てやる) もんで (ので)。

まめめし【形容詞】 1) 非常に誠実である。身軽によく働く。2) 健康である。

まめんだ 塗りつけた。まぶした。混ぜた。[会話] 芋

のこお (粉) と マメンダ のおを (のを) 又 もお
一回 蒸して。

まめんなる 元気になる。病気から快復する。[会話]
元気になる 言う事、マメ>NNル、病気な全快した事
をなあ まめ>NNったなあ言うてなあ。マメ>NNルよ
おん (ように) 言うて 信心して 言うんなし (言う
のです)、ま そしたら まめ>NNったなあ まめ>NN
なって よかったなあ言うて、全快すると。マメ>NNル。
マメ>NNル “に” と “ん” と 一緒やけどなあ
(だが) まめ>NNったなあ言うてなあ 全快した言う
のを。

まもち (真餅) 【名詞】 米だけの餅。お供餅。(志 (志
島)) [会話] マモチなあ (です)。しろい (白い)
搗いた餅を マモチ。“盆にや (には) 牡丹餅 しょ
んがつ (正月) にや (には) マモチ あいの (間の)
節句にや (は) 草餅” 言うて、よごめ餅 (よごぎ餅)
言うのを くさ餅。マモチ 言うのは 米だけの し
いらい餅。しろい餅を マモチや (と) 言うね (言
うのです)。あかご (赤ん坊) の尻 ふたふた しと
ると (して居ると) マモチみたよななあ (のようだ)
言うやんない (言うでしょう)。

まもりつめる 一心に信じている。頑固にまもっている。

まもん 【名詞】 魔物。悪魔のような物。化物。[会話]
マモン みたよななあ (のようだ) 言うて、まのもん
なあ (です)。まあのもん なんも (少しも) 形な
(が) のおて (無くて) めえん (見えずに) とおって
なあ (居て) なんか (なにか) わり (悪い) 事 すん
のをなあ (するのを) あやまあ まあのもんみたい
なあ。まあ (魔) に 憑かれたんてわれ (そうだ) 言
うて、なんか (なにか) ひよかつと 体な (が) わり
(悪く) なって 来る時を 言うんやるなあ (言うの
でしょう)。まあのもんに 憑かれた 言うのはなあ。
急病で ひよかつと わり なって来て。今し (今)
やったら (だったら) 医者い (へ) 走れ 言うんけど
(言うのだが) そいな (そんな) 時ん (に)、マモン
に 憑かれた 言うて 狐な (が) 憑いたりなあ。

まやかす 【他サ五】 誤魔かす。あざむく。

まやがった 舞い上がった。飛び上がった。まやがる参
照 (志 (甲賀))

まやがる 【自ラ五】 1) 舞い上がる。興奮する。のぼせ
て狂う。2) 驚く。(志 (布施田、神明、立神、甲賀、
国府) 3) 逃げる。4) 増長する。[会話] ② あたと
おて (熱くて) マヤガル 言うたり、此処で打ったら
マヤガッタナイ (舞い上がりました) 痛とおて (痛く

て) 言うたり。① マヤガル 言うな (のは) のぼせて
マヤガル言うて、まやがとんねない (舞い上がって
居るのだ)、のぼしやがとんねない (のぼせ上がつ
て居るのだ) あやまあ (彼は) あのおなご (女) に
のぼしやがとんねてない。のぼしやがって マヤガ
ットンネヤレ (て居るのだ)、あやまあ (彼は) マヤ
ガットルよって (て居るから) 今し (今) なとと (な
んと) 言うても (言っても) はざん (いけない)、な
とと 言うても 聞かせんし (聞かないから)、ほと
ぼりな (が) さめる迄ほととけ (ほうっておけ) 言う
て。ほとぼり 言うのは 噂。火な (が) 燃えとん
(て居る) のに 例えて 火な (が) 燃えとる (て居
る) 言う事や (です)。ふたんな (二人が) 燃えとん
ねよって (て居るのだから) 今し (今) 言うても が
いる (蛙) の面い (へ) 水掛けるくらいやれ (だ) 言
うて。

まゆげ 【名詞】 眉毛 (志、桑市、四、亀、一、阿、伊、
北、尾、南)

まゆのき 【名詞】 眉毛。目の上、額の下に横に並んで生
えている毛。[会話] まいげ (眉毛) をなあ、マユノ
キ 言うね (言うのです)。マユノキ剃って 言うて
なあ まえのきや (だ) 言うて。

まよい (まよひ) 【名詞】 鮑の規格すれすれの大きさの
もの。

まよう (まよふ) (迷) 【自ワ五】 思いが乱れる。まどう。
マヨフ (目酔) の転 (大言海)

まよけ 【名詞】 魔除。魔をよけるもの。お守り。特に海
女の被り手拭にかく模様。(鳥) [会話] マヨケせえ
(しなさい) 言うて。マヨケに そや (それ) これ
さんがらかしとくと (吊しておく) ええんどお (よ
いぞ) 言うて、昔 ばば咳 (百日咳) 咳くと 南天の
きい (木) で 榎こしやえて (作って) 首い さんが
らかして (吊して) ばばぜきの マヨケや (だ) 言う
て。わり (悪い) 風邪な (が) 流行るとなあ からす
ごで くすべて (いぶして) 門をなあ あや (あれ
は) ものすごお (大変) 臭いやんない (でしょう) そ
やもんで (それで) マヨケや (だ) 言うて、はやりか
ぜな (が) すると 門でなあ、からすご焚きおったん
よお (焚いて居たのです) マヨケや (だ) 言うて。海
女さんな (が) 手拭むいて (へ) “しょおめえしょお
らい” 言うのなあ はし (端) の 判らんのおで
(ので) 鬼な (が) よお読まんね (読めないのです)。
しょおめえしょおらい どこ (何処) な (が) はし
(端) やら (か) 判らせんやんない (ないでしょう)。

まあのもんな (が) それ よお読まん もんで (ので) それのまじないで 真ん中い (へ) しょおめえしよおらいや (だ) 言うてなあ 星みたよん (のように) ビールの印にして有る あれなあ ビールん (の) なあ (のは) はあ (周囲) だけ しとる (している) やんない (でしよう)。しょおめえしよおらいは とおしてくね (通して行くのです) はあ (周囲) だけん (に) せんと (せず)に 五角形にしといて (しておいて) 真ん中も ぼお (棒) で引っ張ったんの (てやるのです) いそだて (鉢巻き) ん (に) すんな (するのは) それや (それです) マヨケはなあ。またむすびはなあ じゅうもんじやもんじ (米) んなあ (に) ぐものすう (蜘蛛の巣) んなあ (に) 黒糸でなあ、糸を真ん中い (へ) 集めて 芯へ つけるわけや (です)。

まよとる 迷って居る。[会話] 訳な (が) 判らん、まごついとたよお (ていた) 言うて マヨトンノをなあ。

まよなか (真夜中) 【**名詞**】夜の最中。眞の夜中。

まより (修) 【**名詞**】目やに。(志 (布施田)) [会話] 目脂。めやね (目脂) 言うのを マヨリや (だ) 言うて。

まよわかす (まよはかす) (迷)。まよわす (まよはす) 【**他サ五**】迷うようにさせる。まどわす。

まら 未だ。(鳥) [会話] まだ 言うて よお言わん (言えない) もんで (ので) マラ 言うねなあ (のです) マラきやせんね (来ないのだ) 言う人な (が) 有るやんかい (有ります)。

まら (魔羅) 【**名詞**】人の心を迷わし、修行の妨げとなる物。もと僧侶の陰語。陰茎。男根。(志 (布施田、浜島)、鳥、員) [会話] マラやんかい (です) 男の、ちんぼ (陰茎) 大熱、早よかか (妻) 貰え おたべ (女陰) 犀角熱さまし言うね (言うのです)。

まらいっぱい まだ一杯。[会話] 今日は マライッパイやったなあ (だった) 言うて、日な (が) 暮れる迄働くと。ひい (日) 一杯 マライッパイ 言うてなあ、仕事な (が) よけ (沢山) 有つてなあ 今日はひい (日) 一杯やれ (だ)、マライッパイやなあ (だ) 言うて。ひい (日) 一杯仕事して そんでも (それでも) まだよおせんとおと (出来ないで居ると) ひい (日) 一杯 マライッパイやなあ 言うて マライッパイ 言うのは まだ一杯 言う事やろなあ (でしょう)。まだや (だ) 言うのを まら 言うたんやろなあ (言ったのでしょうか) “れ” “ろ” な (が) まあらん (廻らない) にげ (人間) な (が) 言うた事やろなあ。

まらきょおだい 【**名詞**】一人の女性とそれぞれ性交した男同志。(志 (布施田))

まらくせ 【**名詞**】男性の性交に対する態度。[会話] あや (彼は) しりくせな (が) わりいて (悪くて) 言うて どこやかや (あちらこちら) の子 (娘) 孕ましといて (妊娠させて) 来ると、あや (彼は) しりくせな (が) わり (悪い)、マラクせな (が) わり (悪い) 言うて。

まりっぱ 【**形容詞**】丸のまゝ。全体。1) まるっぱの訛、そのまま、手を加えてない状態。2) 馬鹿正直 [会話] 1) マリッポ まるくたい (丸い) 言うねやろ なあ (言うのでしょうか)。

まる 【**他ラ五**】身体の外へ出す。排泄する。大小便をする。1) 大小便をする。(志 (神明、志島、甲賀)、鳥) 2) 小便する。(志 (布施田)、鳥 (坂手、鳥羽、))

まるあじ (まるあぢ) (丸鰯) 【**名詞**】アジ科の海魚。全身 40 cmにも達する。真鰯に似ているが、ぜいごが短く、体色も青緑色を帯びる。美味。但し当地にては不美味として商品価値が少ない

まるい (丸) 【**形容詞**】素直で円満である。少し足りないぐらいお人好しである。馬鹿正直。疑う事を知らない。(張、多) [会話] 素直言うんか (のか) 人の言う事を そのまま 丸飲みん (に) して、マルクトオテ あんまり (あまり) 一概で 人の言う事 まうけん (そのまゝ受けて) して、なん (何) 言うても 冗談に言うても その儘 あや (彼は) マルイねよって (のだから) 言うてなあ。人の言うこた (事は) まうけんすん (する) ねよって (のだから) 言うて。あこや (これは) 冗談やなあ (だ) 言う事な (が) 判らんと (判らずに)、なんでも まうけんして ほんとん (本当に) するとなあ あや (彼は) まるくたいね (のだ) てんぼせん (天保銭) やれ (だ) 言うて。

まるいかれ 完全にやられること

まるうい 【**形容詞**】丸い。(志) [会話] 丸い 丸いなあ 言うのを、マルウイ 言うて。

まるうつし (丸写) 非常によく似る事。親にマルウツシや。

まるがかえ (まるがかへ) (丸抱) 【**名詞**】1) 生活費や資金の全部を出してやること。2) 全部持って行く。[会話] 2) マルガカエ 言うな (のは) なんもかも (なにかかも) みんな (皆) もてく (持って行く) 事をなあ。なんも (少しも) 残さんと (残さずに) あり だけ (有るだけ) のもん (物) を もてくのををなあ

マルガカエしてたれ (していって) 言うてなあ。¹⁾ なんもかも こっちゃで (こちらで) 世話したんのも (してやるのも) マルガカエで 言うてなあ。なんもかも わがとらで (自分達で) 皆 する事なあ。俺家で なんもかも 皆 すられ (します) 言う事をなあ。
まるかってきた 集団でやって来た。集まった。集団になった。[会話] マルカッテキタ 言うのは、よっけ (沢山) みんなな (皆が) どやどやして来ると、あやまあ、マルカッテ 皆、寄って来たれ 言うてなあ。なんでも (なにでも) よけ (沢山) 集まって来る事をマルカッテキタ 言うの。

まるかつてねる ざこ寝する。(南)

まるかっとなる 一塊になって居る。集まって居る。
(志(布施田))

まるがみ【名詞】 食物を小さく切らないでそのまま 噛ること。まるかじり。[会話] だいこ (大根) のマルガミ、胡瓜のマルガミ、まるっぽ (まるのまま) で切らんと そんなり (そのまま) かぶりつくのおを (のを) マルガミや (だ) 言うて。だいこ 漬けでも家で 皆、漬けたんよって (たのだから) ちっさい (小さい) のでもすると ちっさい (小さい) もんで (ので) まるかじり 出来るもんで (ので) それを皆なあ まるっぽ (そのまま) で 噛みおったもんで なあ (噛んで居たので) マルガミして 言うてなあ。マルガミん (に) するよおな だいこ ばっかやなあ (ばかりだ) 言うて。

まるかり【名詞】 集団、より、集まり (志(布施田))

まるかる 一つにまとまる。一団になる。(志(鵜方、神明、立神、国府、南、熊))

まるきり【副詞】 全然。全く。まるでに同じ。(志(布施田、立神))

まるきん【名詞】 1) 馬鹿正直。2) 貨幣。(上、名)
[会話] ¹⁾ マルキン 言うな (のは) あんごし (馬鹿) のおおだ (のをです)、まるくとおて (丸くて、馬鹿正直) 人の言う事 まうけ (本当) ん (に) するもんで (ので) 人な (が) 嘘 言うても (言っても) それを ほんどん (本当に) するもんで マルキン。

まるくたあい【形容詞】 1) 丸い、真円である 2) 馬鹿正直だ

まるくたい【形容詞】 1) 丸い。人を疑う事を知らない。他人の言う事を全部信用する。少し足りない位お人よしだ。(松、多) 2) 丸い。(志(御座、片田、布施田、鵜方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(加茂)、桑郡、三、四、鈴郡、鈴市、安、津、一、久、松、多、

上、阿、張、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] ²⁾ マルクタイなあ (です) とか、まんまるい (丸い、円形) なあとか、まあるいもん (物) を 言うの (のです)。¹⁾ にげ (人間) な (が) ちよいと (少し) あんごし (馬鹿) のおを (のを) マルクタイ 堅い (正直、実直) のも マルクタイ。あやまあ (彼は) マルクタイもんで (ので) 天保銭 (馬鹿) やれ (だ) 言うて。あんまり (あまり) 賢ない (賢くない) 人の言う事 まるのみん (に) すんのなあ (するのを)。ちよいと (少し) 抜けとて (て居て) 人な (が) 嘘言うても (言っても) あや天保銭で まるのみやれ (だ) 言うて。物が丸い事も言うし にげ (人間) の足らん (馬鹿) のを マルクタイ 言うて。

まるけこまれた 騙された。言う負かされた。

まるけこまれる 1) 言い負かされる。2) 騙される。

まるけこむ 1) 騙す 2) 一塊にする

まるけてく 1) ひっくるめて持ち去る。2) 誤魔化して行く。(志(布施田))

まるけとけ 1) 片付けておけ 2) 丸くしておけ 3) 誤魔かしておけ

まるけられた 1) 言い負かされた。2) 騙された。

まるける【他カ下一】 1) 丸める。丸くする。マログ

(丸) の口語 (志(鵜方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、松) 2) 輪の形にする。(上、阿) 3) 散らかつて居るものを片付ける。4) 言いくるめる。仲間に入れる。(上、阿) 5) 一緒にする (南、熊)
[会話] ³⁾ マルケトケ (ておけ) 言うて ひろがっんのおを (散らかつて居るのを) 寄せとけ 言うのを、マルケトケ言うて。¹⁾ 餅や団子は マルメル 言うて、しょんがつ (正月) の まもち (白い米の餅) すんの でも (するのでも) こもち (小さい餅) マルケル、おつきい (大きい) のおを (のを) マルメンノおを。⁴⁾ 人でも なんやかや (色々) 言うて マルケコマレタ ンドオ (言い負かされた) 言うて 言うやんかい (言います)。マルメトケマア (ておきなさい、仲間に入れておけ) 言うて、マルケラレテ言うて、マルケラレタナア あやまあ (あれは) 言うて。おだてられたり なんやして (なにかして) 相手の方へ 引っ張られてくのを (て行くのを) 引きつけられてくのを マルケコマレテ。あんな (彼が) 口上手なねよって (なのだから) マルケコンダタレ (で行った) 言うて。

まるこい【形容詞】 丸い。疑う事を知らない。まるいに同じ。(員、張) [会話] 丸くたいのを マルコイ 言うのなあ (です) 丸い言う事を マルコイ。

まるごと【丸】**【副詞】**切り分けせず、その形のまま全部、そっくり。

まるそで**【名詞】**元禄袖。(名) [会話] きもん (着物) の マルソデ 元禄みたよん (のように) なつとんの (なっているのを) マルソデ 言うて。

まるた(丸太)**【名詞】**丸い材木。[会話] どいらい (大きな) 材木の事なあ (です)。大きななあ 製材 かけんならん (かけなければいけない) よおななあ (のを) マルタや (だ) 言うて ちっさいなあ (小さいのは) ぼく (木) や (だ) 言うて 山で もてくん な (持って来るのは) ぼくや (だ) 言うて、ぼく (木) で きい (木) わんのやけど (割るのだが) 製材へかける おっきい (大きい) のおは (のは) マルタ。マルタ こかした (倒した) よななあ (ようだ) 言うて。わしらな (私達が) ころどるとなあ (寝転がっていると)、マルタ こかしたよん (ように) 皆 ころどる (転んでいる) やんかあ (でないか) 言うて。かあ (皮) な (が) 剥いて有っても 剥いてのおても (無くても) 大きなのおはなあ マルタや (だ) 言うてなあ。なるにするのおは (のは) なるにするよおな きい (木) や (だ) 言うて マルタとは 言わんとなあ (言わずに) ぼく (木) とも 言わせんしなあ (言いません) 皆、なるん (に) するよおな きい (木) やれ (だ) 言うてなあ、杉や桧はなあ。なるは なるでなあ、杉や桧の あつうしとんのを (密生しているのを) まびき すんね (するのだ) てわい (そうです)。

まるだし(丸出)**【副詞】**隠すところなく全部あらわにする。

まるっと**【副詞】**全部。まるごと。切り分けたり、一部を除いたりしない、もとの形のまま全部、そっくり。
(志(布施田)、上、阿) [会話] マルット 全部言う事を マルットやなあ (です)。あや (彼は) まるまるいくつや (満幾才だ) 言うて、満 (満年令) で いくつ (何才) ん (に) なった 言うのんなあ (に) まるまる 三つん (に) なったとか 言うて、満で三つや (だ) 言うて。マルット 言うのは 全部言う事 やわい (です)。

まるっぱ**【名詞】**1) 全体。丸のまま。(志(布施田)、北、尾、南、熊) 2) 馬鹿正直。まったく参照。[会話] 1) マルッポ言うのは それこそ割らんと (割らずに) まるくたい (丸い) その儘んのおを (儘の、のを) マルッポや (だ) 言うて、2) にげ (人間) も さばけやせん (融通の利かない) にげを マルッポや (だ) 無学マルッポや 言うて。1) 芋でも蜜柑でも

一つのもん (物) を マルッポ 言うのなあ (のです)。マルッポごち (ごと) 貰うて (貰って) 言うて、いっぽ (一本) のもん (物) を マルッポ 言うの (のです)。半分っせえ (半分づつしなさい) 言うて 割ったと (てやると) はんぶつ 言うんけど (言うのだけれど) その儘貰うと マルッポごち (ごと) もろた (貰った) 言うて。芋でも一つを マルッポ言うし、蜜柑でも マルッポ、かしん (菓子) でも一つその儘んのおを (のを) マルッポや (だ) 言うて。2) 人間がマルッポ 言うのは さばけとらせんのを (融通の利かないのを) マルッポやよってん (だから)。

まるで**【副詞】**1) 全然。接頭語まる。名詞について完全にその状態である事を表す。残らず。全部。 2) 量や程度の甚だしいことを表す語。ずいぶん。大変。
[会話] 1) マルデ はざんね (駄目なのだ)。マルデ 嘘やんかあ (ではないか) その言うこた (事は) 言うて。マルデ あや (彼は) 嘘言うとる (言っている) なん (なに) 言うたてて (言っても) マルデ あや (あれは) 嘘やなあ (だ) 言うて。まるっぱの事や (です) それも 全部の事やなあ (です)。

まるでだめお。まるでだめぞ**【名詞】**無能な人(男性)

まるどり(丸取)**【名詞】**独占すること。一人で余さずにとること。[会話] わがと (自分) 一人でなんもかも (すべて) 一人であることを マルドリん (に) して 一人で 言うて。

まるね**【名詞】**衣服を寝間着に変えずにそのまま寝ること。(上、阿、張、名) [会話] マルネ 言うてなあ、きもん (着物) 着たながり (まま) 寝ん (る) のを マルネでまあ 寝たれ (寝た) とか、そんながり (そのまま) 寝てたれ (いった) 言うてなあ。マルネ しとると (していると) かいだりて (だるくて) 寝やれやせんもんやなあ (寝れないものです)。そんなり (そのまま) 寝とると ええなあ (よい) おもて (思っ) て寝とると マルネはかいだりて (だるくて) はざんわれ (駄目だ) 言うて。

まるのみ(丸呑)**【名詞】**1) 物を噛み砕かないでそのまま呑み込むこと。2) 人の言う事を疑わずにそのまま信用すること。[会話] 1) マルノミ 言うな (のは) 噛まん と (ずに) そのまま マルノミん (に) したんの (してやるのを) ぐらのみん (に) するとか マルノミンするとか 言うて。2) なんでも 人な (が) 嘘言うも ほんとかい (本当ですか) ほんとかい 言うて ほんと (本当) や (だ) 思うの (のを)

マルノミン (に) した 言うて。

まるはだか (丸裸) 【名詞】 体に何もつけていない事。
すっぱだか

まるぼし (丸干) 【名詞】 魚を開かずそのまま塩水につけて干したもの。(北、南、熊) [会話] 鰯のすぼし、さいら (秋刀魚) のすぼし マルボシン (に) して すう (貰) い (へ) 干すもんで (ので) すぼし言うん やろなあ (言うのでしょうか)。

まるまげ 【名詞】 髪のかき方的一种。くるくると巻きつけて有る髪型。一般の丸髷でない。[会話] マルマゲ や (だ) 言うてな、奥さんの丸髷やなしん (でなくて) 渦みたよん (のように)。巻いて 根元から巻いてくの (て行くのです) それを マルマゲや (だ) いよおった (言っていました)。髪をなあ なあごお (長く) 有るとなあ、くるくると 巻いてくんやんかな (て行くのです)。

まるまる 【副詞】 全部。すべて。完全に。[会話] あや (彼は) マルマル いくつ (何才) や (だ) 言うて 満 (満年令) で いくつ (何才) ん (に) なった 言うのん (のに) マルマル三つん (に) なった 言うて。

まるまる (丸) 【自ラ五】 丸くなる。纏れる。(志 (布施田))

まるむぎ (丸麦) 【名詞】 大麦の脱穀しただけのもの。(桑郡) [会話] びしゃき麦 言うてなあ 搗屋で びしゃいて (潰して) くれんねてや (くれるのです) 搗いたのおを (のを)、そすと よまさんと そんなり (そのまま) 炊かれんねけど (炊けるのですが)、マルムギや (だ) 言うと よまさな (なければ) はざんね (いけないのです) くざけてなあ (水に浸して)。いったん (一度) さあっと 宵に うでといて (茹でておいて) 麦も くざけとけよお (浸しておきなさい) 言うて、昼頃 くざけるやんない (浸けるでしょう) そすと よさり (夜) ん (に) になると よまし 言うてなあ、かしといて 綺麗にしといて (しておいて) ゆう (湯) で よまさな (なければ) はざんねやんかい (いけないのです) それが マルムギやわい (です)。

まるめこむ (丸込) 【他マ五】 1) 丸くする。団子状にして、入れ込む。まぎれこませる。2) 他人を自分の思うようにさせる。抱き込む。嘘をついてだます。[会話] ²⁾ マルメコマレタ 言うのなあ (です)。口上手ん (に) 言うてなあ。まあ これ わしげ (私の家) い (に) てったい (手伝い) に来てくれや (くれれば) 米も どんだけ (どれだけ) でも やるし (あ

げます) 麦もどんだけ でも やるし、言うて、上手 言うて てつとて (手伝つて) もらうのなあ (貰うのです)。あの家い (へ) マルメコマレテ あの家のて ったい (手伝い) しとんね (しているのだ) 言うて。

¹⁾ 包み込んだんのも (でやるのも) なんもかも (すべて) まるめこんでたれ (で行った) 言うてなあ 人のもん (物) も、ちょいちょい (少し) 混ぜて わが (自分) もん (物) と してくと (して行くと) あやまあ あれん (彼に) 皆 まじこんでたれ (混ぜ込んでいった) 言うたりなあ。人のもん (物) も なんもかも (皆) 皆 もてくもんでなあ (持って行くので) マルメコンデタ (で行った) 言うてなあ、あや (あれ) なんもかも (すべて) 皆 マルメコンデタナイ (で行った) 言うてなあ。

まるめとけ 一塊にしておけ

まるめる (丸) 【他マ下一】 1) 心服させる。言いくるめる。(員) 2) 丸くする。団子状にする。[会話] ²⁾ まるけると マルメルと一緒や (です) マルメンの も (まるめるのも)。まるくとお (丸く) すんの (するのを) マルメル 言うし (言います) こねて、丸くすると マルメタタ (てやった) 言うて。¹⁾ にげ (人間) も 言いマルメタテナア (てやった) マルメラレテ まあ あれん (彼に) 言うて。

まるもおけ (まるもうけ、まるまうけ) (丸儲) 【名詞】 全部利得になる事。利益の大きい事。

まるもち (丸餅) 【名詞】 丸くした餅、切り餅に対し。[会話] マルモチ 言うな ちっさい (小さい) こもち (小餅) の事を マルモチや (だ) 言うて。正月の御供餅ん (に) すんのを (するのを) マルモチなあ (です)。餅を まるくとお (丸く) とんの (取るのです)。他処はなあ 切り餅や (だ) 言うて 鏡ん (に) しといて (しておいて) 皆 きんねてわい (切るのだそうです)。お雑煮すんのも (するのも) そやけど (しかし) 此処らは 正月三ケ日食うのは マルモチ で。お供えに 十二重 神さんへ あげるやんない (でしょう)。それ 下げて来てなあ 朝、お雑煮になあ 三ケ日 それ混ぜてする。

まわし (まはし) (回) 【名詞】 巻きつけるようにして、身につけるもの。下着。褌。(志、鳥、上、阿、張、名) [会話] 褌 マワシ けつわり、おすもおさん (力士) のマワシ。昔や (は) ふんどしやわい (です)。“ふんどし ふんどして なんだらべえのこっちゃ おもや けつわり きんかくしの こっちゃなあ” けつわり きんかくし ほんとや (本当です)。

まわし【名詞】附近

まわしもん(まはしもん)【名詞】回者。敵の内状を探る者。密告者。内通者。まわしもの訛

まわす(まはす)【廻】【他サ五】 1) 薄めたり、冷まし
たりするため、水を加える。2) 水を加えて量を多く
する。3) 順送りにする。4) 平手で叩く。(志) [会
話] ₃₎ くるくると マウス。御神酒でも 回し呑み
するやんない(するでしょう)。上座から まあして
(回して) 来いとか 言うて、そして(そうして) し
まいに(終りに) さいげんむすべ 言うやんかい(言
います)。じょおほお(両方) から マアシテ 来て
一番しまいで すんのを(するのを) さいげんむすぶ
言うてなあ。じょおほおから つんで来て(注いで来
て) 一番最後に さいげんむすぶな(のは) 誰どい
(ですか) 言うて、結婚式でも初午でも さいげんむ
すぶ言うて、昔や(は) しよったけど(して居ました
が) 今しゃ(今は) しやせんなあ(しないですな)。
あんた(貴方) さいげんむすぶくれえ(結んで下さ
い) 言うて 酒よお(よく) 呑む人らんなあ(人に)。
膳の上い(へ) ふたあつ(二枚) こっちゃ(こちら)
からの のおと(のと) こっちゃからの のおと ふ
たあつ 膳の上い 乗せいて(ておいて) 膳を こ
したなり(こうしたまま、持ち上げて)、す、すうと
皆 ふたつん(二枚) のおを(のを) そすと(そうす
ると) そらから(上座から) ずっと 回して くんね
よって(来るのだから) 一杯ん(に) なるやんかい
(なります) 大きなのおんなあ(のに)、茶碗へ し
よおったのを(して居たのを) ふたあつ。ほすと(す
ると) それを 八寸の膳へ しとてなあ(して居て)
一番しも(下座) におって(居て) じょおほお の、
かみ(上) からしてくる やんない(でしよう)。そ
して 此処い迄来て 頼むやんない。酒よお 呑む人
を。そすと こやって(こうして) 膳もつとて(持つ
て居て) 皆 呑んだん(呑んでやるのです) それを
さいげんむすぶ言うの(言うのです)。それやもんで
(それなので) よお(よく) 呑む人や(で) なけな
(なければ) さいげんむすぶの(のを) よお呑まんや
んない(呑めないでしょう) そやよって 酒よお(よ
く) 呑む人に あんた(貴方) さいげんむすぶくれえ
(結んで下さい) 言うて 頼むのなあ(頼むのです)。
それを 必ずせな(しなければ) いからったねんなあ
(いけなかったのです) 結婚式とか 初午とか。₂₎ 水
マアス言うて量を おおすんのを(多くするのを) 晩
のおかい(粥) にや(は) 水まあせ 言うて よけん

(多くに) して 水 まあしときおった(ておきまし
た)。

まわたぐすり【名詞】小児、婦人の服用する漢方薬。

(多) [会話] マワタグスリ、じっぽおさん(実母
散) 言うてなあ。おなご(女) な(が) こお(子供)
もおけた後(出産した後) でなあ、必ず マワタグス
リ 飲ましおったの(飲ませて居ました)、ふるち
(古血) な(が) 残らんよおん(ように) 言うてなあ。
ふうふう 吹いてなあ あつつい(熱い) のおを(の
を)、おた 臭いわ 思うのな(です) どげな(どん
な) 事な(が) 有っても 二日、みつかあつ(三日)
はなあ 飲まされおった(されて居ました)。真綿で
包んで有るもんで(ので) マワタグスリ。この時計
(懐中時計) 位の おっきさ(大きさ) でなあ 袋ん
(に) 入れて有って それ煎じてなあ 初煎じや
(だ) 二番煎じや 言うて ふたあくら(二度) みい
くらあつ(三度) 煎じて飲みおったね(居たのです)。

まわってくる 訪れる、遊びに来る(志(甲賀))

まわってこい 訪ねて来なさい。[会話] 隣、近所でも
挨拶マワッテコイマア 言うてなあ。どこやかや(ど
こそこ) 行くよん(ように) になると、まあ 行て来る
わい(来ます) 言うてなあ。ちよいと(少し) すんの
も(するの) 隣、近所い(に) 挨拶んなあ(に) い
とまごい 行て来い(行て来い) 言うて、まあ 行
て来るわい(行て来ます) たのものお(お願いし
ます) 家も 言うて、暇乞いなあ(です)。たまにや
(まれには) おらげ(俺の家) も マワッテコイヨオ
けえも(少しも) まあって 来やせんやんかあ(来な
いでないか) 言うてなあ マワッテモコイマア(来な
さい) 言うて 訪ねて来い言う事。訪れてきやせんと
(来ないと) マワッテモコイマア 言うて。

まわらかす 回らせる。回転させる。

まわり(まはり)【回】【名詞】 1) 周囲。近所。辺り。

2) 親戚の人たち。3) 運。めぐりあわせ。4) 鯉舟
の舷につけ、鯉を釣る所 [会話] ₁₎ マワリ 言うの
は 周囲の事なあ(です)。池のマワリ言うて、池の
ふちくた(周囲) をなあ。ふちを 池のマワリやとか
(だとか) 家のマワリやとかなあ。マワリも 掃除せ
な(しなければ) はざんわれ(いけない) 言うて。み
んな(皆) が寄って ぐるぐる座ん(円座に) なって
マワリの人も 言うて そおゆう時も、マワリの人
言うのなあ(のです)。₃₎ 運やとか(だとか) なんや
マワリあわせな(が) わりかった(悪かった) んなあ
(のだ) 言うて 運のわり(悪い) 事を。

まわりあわせ (まはりあはせ) 【名詞】 巡り合せ 運
まわり参照

まわりうた 【名詞】 集団が輪になって順次歌を歌う事。

まわりがき 【名詞】 家の周囲の垣。[会話] マワリガキ
言うのは 家のまわり (周囲) の木も 言う。

まわりくでい (まはりくでへ) 【形容詞】 まわりくどい。
[会話] マワリクデイな (の) 事 言うて。

まわりもん (まはりもん) (回者) 【名詞】 方々を流れ歩いて物乞いする者。(志 (甲賀)) [会話] はたごや
(と) 言うな (のは) 宿屋やし (ですし)、木賃宿
言うな 乞食や (とか) へんどさん (遍路) や (と
か)、マワリモンな (が) 銭な (が) 安いとこ (所)
泊りおったの (泊って居たのです)。

まわる (まはる) 【自ラ五】 1) 訪問する。立ちよる。
家へ来る。(志、鳥) 2) 生活が立ち行く。3) 目ま
いがする [会話] ₃₎ めえ (目) な (が) マワル。目
まあしたた (回してやった) 言うて。忙がして (忙が
しくて) 仕事が はかどらんと (はかどらないと) 手
な (が) マアランで (回らなくて) 言うて。仕事の量
な おいて (多くて) 忙がして 手な (が) マアラセ
ンネ (回らないのです) ひとだのみ (手伝い人を頼
む) せな (しなければ) はざん (いけない) 言うて、
ひとだのみ (手伝い人) よおしよおった (よくしまし
た)。₁₎ 年始マアリ まあってこいよお (来なさい)
言うて 年始マアリん (に) いてこな (行つて来なけ
れば) はざんわれ (いけない) 言うて。

まん (満) 【名詞】 満年令。[会話] マンで いくつ
(何才) ん (に) なった マン三つ (三才) や (だ)。

まん (間) 【名詞】 運 めぐりあわせ (志、鳥、上、阿、
張、名)

まん ものは、者は、物は

まんがち 【名詞】 【形容詞】 負け嫌い。人の上に立って
事をしなければ気のすまない人。きおう参照 メカチ
(目勝) の音便 (大言海) (津) [会話] マンガチ言
うな (のは) 人ん (に) 負け嫌いな人を マンガチ
言うわい (言います)、負け嫌いで 何でも 人ん
(に) 負けんのな (負けるのが) 嫌いな あや (彼
は) マンガチで 言うて、負け嫌いを。負け嫌い言う
と、人ん (に) 負けたない にげ (人間) を マンガ
チな にげ (人間だ) 言うわい。何でも 人より、わ
がと上ん (に) ならな (ならなければ) 人より下ん
(に) になると 変なよおな気持ん (に) なるにげを、
あや (彼は) マンガチで 言うて。

まんがら 【名詞】 嘘。でたらめ。うそつき。万空。

まんこ 【名詞】 女陰。マコ (眞処) の音便 (大言海)
(員)

まんごく (万石) 【名詞】 米を選別する用具。(四、鈴市、
松) [会話] マンゴク 言うな (のは) 一番仕上げの
(最後です)。とおみから 出して来たのおを (の
を) すると、小米 (屑米) な (が) 落つて (落ちて
行つて) 一番ええの (よい) ばっか (ばかり) 残んの
なあ (るのです) マンゴクい (に) 掛けた米や (だ)
言うやんかい (言います)。とうすで 摺るやんない
(でしょう)、始め 白よ まえまえ (廻れ) 言うて
白で 摺るやんない、そすと こんだ (今度は) とお
み 言うてなあ その落ちたのおを 風やつて (当て
て) 米と粳としわけんの (分けるのです) とおみ。す
れとんのは (摺れているのは) 吹けてくんけど (行く
のだが) すれとらせん (摺れていない) 粳な (が) 有
るわけやんかい (です) 米とそれを 千石い (へ) か
けてなあ 粳と米と しわかつて (分かれて) それか
ら、マンゴクと言う 小米 (屑米) や中米 (屑の上
の米) な (が) 抜けてて (ていつて) ええ (よい) の
ばっか (ばかり) 残んの (るのです) 世話なねんなあ
(面倒なのです) 米になる迄。機械で 稲こくやんな
い (脱穀するでしょう)。そすと ふじどおし 言う
のな (が) 有つて それを ふじどおしで通して そ
れを干して こんだ (今度は) とうすで すんねやん
かい (摺るのです) 物凄い手間かかんの (かかるので
す)。

まんざいのあとおさえ 【俚諺】 人の言つた事をすぐ後か
ら自分の意見として言う事。[会話] マンザイノアト
オサエ 言うて、後から 言うにげ (人間) を、マン
ザイノアトオサエ (押さえは) まあ 言うて 言われ
るやんかい (言われます)。

まんじゅう (まんぢゅう) 【名詞】 女陰。[会話] 女の
人の あすこも マンジュウ。ひげマンジュウや
(と) 言うわい (言います)。饅頭 餡な (が) よけ
(沢山) いっとる (入つて居る) 饅頭やなあ (だ) お
前の前の あのマージュウ 言うて。

まんせん (満船) 【名詞】 大漁。(志 (浜島)) [会話]
マンセン。大漁して 一杯ん (に) になると マンセン
やなあ (だ) 言うて 大漁して マンセンして 入れ
こんでくねてない (入港してくるそうだ) 言うて。

まんぜん 【名詞】 榮螺の蓋。[会話] マンゼン 榮螺の
ふさ (蓋)。

まんだ 【名詞】 情事を知らない者 テンジン (天神) を
はばかりて転進とし遊女の一つの稱 (志 (布施田))

【会話】 マンタよ (奴) 言うて、色気の無い 色気知らずを マンタや (だ) 言うて。色気知らずの マンタや (だ) 言うて。あや (彼は) まだ マンタや よってん (だから) 言うて、色気知らん (知らない) もん (者) を あや (彼は) マンタや よって こらいたれ (許してやれ) 言うて。

まんだい【名詞】 あかまんぼう アカマンボウ科の海魚、体長2mに達す体は著しく側扁した随円形で背鰭の先は長く伸びる。体色は背が赤紫色で腹に向うにつれて赤味が増す。肉は淡赤色で刺身などにする。

まんだら【名詞】 まだら 斑点 まんだらねこ参照

まんだらねこ【名詞】 まだらのある猫。【会話】 マンダラネコ 言うのも 有るしのお (有ります)。マンガラネコ言うも まだら言うのを、マンガラネコ 言うの (のです)、マンガラネコや ぬすつと猫 (泥棒猫) や言うて、ほがい (頬) な (が) 張つとる (て居る) ぬすつと猫や (だ) 言うて。

まんだれ【名詞】 前掛け。【会話】 前掛けのことを マンダレ 言うたり (言ったり) まいだれ 言うたり。

まんと【名詞】 かすざめ。カスザメ科のサメ 全長二米に達する。胸鰭がエイの様に広がる。背面は茶褐色で多くの小斑点が点存する。海底の砂地に住み、三〜六月頃、十尾位の胎児を持つ、肉は煮物、かまぼこの材料とし、皮は象牙や印材をみがくの用に用いる、さめやすりになる。

まんとめ【名詞】 葉の幅の広い若布。あんとかめと関係有るか。【会話】 マントメ 言うな (のは) はあ (葉) な (が) 大きな、ひいろおおて (広くて)。昔や (は) マント着いおった (着て居た) やんない (でしょう) そやもんで (それで) マントメ 言うの (のです)。若布のはあ (葉) の ひいろおいの (広いのを)。

まんなわり 運が悪い

まんねん (万年)【名詞】 物知り。【会話】 ○○○ マンネン 言うて。マンネン 言うな (のは) なんでも よお (よく) 知つとんの (知っているのを)。万と言う字 書いて マンネンやんかい (です)。よろずの事 知つとる (ている) 言う事やわい (です)。

まんのおたっしていつしんとどかず【俚諺】 あれこれと人並みに上手にするが、此れといって勝たれたものがない。まんのおは全能。すべての能力 【会話】 なんでも (なにでも) よお (よく) する人はなあ、マンノ オタッシテイッシントドカズ (万能達して一心届かず) 言うてなあ。なんでも (なにでも) えらい (出来

る) 人はなあ あんまり (あまり) 成功しやせんのな あ (しないのです)、いろいろと てえ (手) 出すもんで (ので) 成功しやせんねやろなあ (しないのでしょうか)。人並みん (に) には 出来んねけど (出来るのだが) それ以上には出来やせんの (出来ないのです)。なんでも (すべて) えらい (出来る) 人を あのひた (人は) なんでも えらいんけど (出来るが) マンノオタッシテイッシントドカズ 言うてな よお (よく) 言うやんかい (言います) 成功しやせんと (しないと)。

まんべ (満遍)。**まんべん【名詞】** 1) 平たい事。(志 (鶴方) 鳥、2) 平等に。公平に。(志 (布施田、浜島、鶴方、甲賀)、鳥、津、度、伊、張、北) 【会話】 1) マンベ。マンベやなあ (だ) 言うて、一面たいらな のおを (平らなのを) マンベやなあ (だ) 言うて。ひらいちめん やなあ (だ) 言うたり、平らやなあ (だ) 言うたり マンベン になった言うてなあ (言います)。2) 全部 不公平無しん (に) マンベに 分けよやんかれ (分けましょう) 言うて、みんなな (皆が) おなし (同じ) よおに 分けよや (分けましょう) 言う事を言うの (のです) マンベン分けよや 言うて。

まんぼ (まんぼう)【名詞】 まんぼう。マンボウ科の海魚。体は著しく側扁した卵円形で体長約3m、重量1トンにも及ぶ。尾びれはなく、背びれ、腹びれは体の後方にある。背は黒灰色で腹側は白色、動作は鈍く、体を横にして外洋の表層に浮かんでいる。クラゲを食べる。

まんばいか【名詞】 かみなりいか。ばせういか。

まんま【名詞】 飯を言う幼児語。(志、桑市、員、鈴市、津、多、張) 【会話】 御飯の事 マンマ。まま 食わん かれ (食べなさい) 言うね (言うのです)。

まんま【名詞】 儘の変化した語。名詞についてその物と共にの意を表す。【会話】 そのマンマ おこせ。そのマンマ まるっぽで (丸のままで) くれや (下さい) 言うて 割つたらんと (てやらずに) 其の儘 まりっぽ (丸のまま) で くれや 言うて よお言よお った (よく言っていました)。其の儘で ええわい (よろしい) 言うてなあ。

まんまえ (まんまへ) (真前)【名詞】 すぐ前。真ん前。真前の撥音添加。【会話】 自分の前 あんたな (貴方が) わしらの (私達の) マンマエン (に) おるやんかい (居ます)。自分の真正面の事 マンマエ 言うの (のです)。

まんまる。まんまるい。まんまるくたあい 全く円形である。全く丸い。(志(布施田)) [会話] まるくたいの(丸いのを) マンマルイ、お月さんやなあ(だ)言うて。“まあい まあい マンマルイ 盆のよおな 月が”言う歌が 有るやんかい(有ります)。丸いのを マンマルや(だ)言うて。

まんまんちゃん【名詞】 佛様。(上、阿) [会話] マンマンちゃんへ参れ 言うてな マンマンちゃん 言う と 佛さん。

まんりき(万力)【名詞】 1) 釘抜き。金属性の梃子(てこ) 2) 工作で材料を固定する工具。[会話] 1) 釘抜き マンリキ言うのな(が) あんなあ(有ります)。かなもん(金物、金属製品)で 釘 抜きやら(とか) ねじいやら(捲るとか) すんで(するの)で マンリキ言うのな(が) あんなあ。マンリキや(と)言うのな(が) よお有るてや(よく有ります)。

まんりょお(まんりょう)(万両)【名詞】 植物。ヤブコウジ科の常緑低木。関東以南、四国九州の山林中に生え観賞用に庭木、鉢植、切り花などにされる。高 0.5～1 m、葉は柄を持ち、長さ10 cmの長楕円形で、濃緑色となり、やゝ赤褐色を帯び、質厚く、光沢あり。細かい明点や、黒褐色細点があり縁は波状。夏枝先に先端の五裂した白い小さな花が数ヶ集まって咲く。果実は球状で、品種により赤、白、黄色などの熟す。[会話] マンリョウ 言うな(のは) 花な(が) 咲いて もも(実) な(が) なんのなあ(なるのです)。千両マンリョウ 言うやんかい(言います)。マンリョウ 言うて あつかい(赤い) のおな(のが) おっきい(大きい) のおな マンリョウで、ちっさいのおの(小さいので) よけ(沢山) なんな(なるのが) 千両 言うのなあ(です)。マンリョウ 言うな(のは) ももな(が) 一つ おっきいのおな(大きなのです)。